

第1巻 原始・古代・中世

第1編 自然

第1章 郡山地方の地理的位置とその地形

第1節 福島県の中央位置を占める郡山市

福島県における位置

首都圏に対する位置

第2節 自然的社会的にみた郡山地方の範囲

数理地理的位置

大面積の市域

第3節 地形、地質の概観と地形区分

盛岡、白河線

火山フロント

北日本線

北日本の地形構造

地形区分

第4節 阿武隈山地

1. 地形概説

阿武隈山地とその範囲

地形概説

山頂平坦面

山麓平坦面

接峰面からみたⅢ面

中位高度のⅡ面

田村郡東部の埋積谷

2. 阿武隈山地の地質

広くでている深成岩類

古成代の石灰岩

御斎所・竹貫変成岩

3. 阿武隈山地の地形発達

安倍族造山運動

日高造山運動

侵食面の形成と隆起

四つの造山運動

第5節 奥羽中央分水山脈

1. 奥羽山脈

地形の特性

川桁額取山地

川桁山断層崖と額取山断層崖

川桁大滝山塊

額取高嶺山塊

川桁・額取山地の地形発達

会津布引脊灸山地

猪苗代盆地と猪苗代湖

古猪苗代湖の範囲

猪苗代湖カルデラ説批判

守屋・大名倉山地

2. 安達太良山と磐梯山

安達太良火山

明治三十三年の噴火

火口瀬と温泉

富士型の磐梯山

明治二十一年の磐梯式噴火

裏磐梯と泥流地形

琵琶沢泥流と見禰の大石

火山事変の被害概況

第6節 郡山盆地とその形成

1. 郡山山間盆地

郡山山間盆地

白河石と岩瀬丘陵

矢吹層と矢吹丘陵

郡山盆地と須賀川盆地

2. 郡山盆地

地形の概観

郡山の中心市街地の地形

大蔵壇原付近

牛庭原付近

庚坦原付近

広谷原付近

対面原付近

大槻扇状地付近

大玉本宮台付近

郡山東部低地

郡山層とその特性

郡山盆地と古郡山湖

郡山盆地床の地形発達

第2章 陸水

第1節 河川

阿武隈川の流量

阿武隈川の水質

第2節 湖

猪苗代湖の利用

猪苗代湖の水量

用水堀

第3節 地下水

郡山市の地下水

- 地形と流水
 - アルカリ・イオン総濃度
 - 地下水の開発
- 第4節 温泉・鉱泉
 - 温泉の種類と定義
 - 郡山市の温泉
- 第5節 水の需要供給
 - 水の利用
- 第3章 気候の特性
 - 郡山市の気候の特性
- 第1節 気温
 - 1. 気温の分布
 - 福島県内の気温分布
 - 2. 気温の日変化と年変化
 - 気温の日変化と日較差
 - 気温の年変化
 - 3. 寒暖の日数
 - 夏日と真夏日
 - 冬日と真冬日
 - 4. 気温の既往の極値
 - 最高の極値
 - 最低の極値
- 第2節 降水
 - 1. 降水(雨)の量
 - 年降水量
 - 太平洋側気候と日本海側気候
 - 月降水量の記録
 - 降水日数
 - 大雨
 - 大雨の記録
 - 強雨
 - 2. 降水(雪)の量
 - 降雪の状況
 - 降雪の初日・終日
 - 積雪の初日・終日
 - 最深積雪
 - 雪害
- 第3節 風
 - 1. 風の日変化
 - 風速の日変化
 - 風向の日変化
 - 2. 風の年変化
 - 郡山地方の風向

- 3. 風の分布
 - 冬の風
 - 春の風
 - 夏の風
 - 秋の風
- 4. 強風
 - 強風の原因
- 第4節 気象災害
 - 風水害
 - 雪害
 - 雹害
 - 凍霜害
 - 干害
 - 冷害
 - 長雨による害
- 第5節 天気のことわざ
- 第4章 土壌と原始的植物被覆
 - 第1節 郡山地方の土壌
 - 安達太良山の土壌
 - 川桁額取と会津布引山地の土壌
 - 阿武隈山地の土壌
 - 郡山盆地床の土壌
 - 第2節 原始的植物被覆
 - 人工による原生林の破壊
 - 郡山盆地床の極相林
 - 奥羽中央分水山地の極相林
- 第2編 原始
 - 第1章 旧石器時代
 - 第1節 旧石器時代の遺跡
 - 第2節 旧石器時代の生活
 - 遺跡と遺物
 - 旧石器時代の生活
 - 第2章 縄文時代
 - 第1節 概説
 - 第2節 縄文早期の文化
 - 縄文早期の土器
 - 主要遺跡
 - 縄文早期の生活
 - 第3節 縄文前期の文化
 - 縄文前期の土器

主要遺跡
 生活の形態
 第4節 縄文中期の文化
 集落の増大
 住居跡と炉の発達
 縄文中期の土器
 土偶とその他の遺物
 主要遺物
 集落の復原
 呪術
 生業と社会
 第5節 縄文後期の文化
 集落の変化
 縄文後期の土器
 石器その他の遺物
 主要遺跡
 縄文後期の生活
 食生活と後期文化
 抜歯と社会規則
 第6節 縄文晩期の文化
 晩期の概要
 晩期の集落
 晩期の集落構成
 晩期の土器
 その他の遺物
 主要遺跡
 縄文晩期の生活

 第3章 弥生時代
 第1節 弥生文化の東北伝来
 弥生文化の特徴
 稲の栽培
 縄文文化から弥生文化への転換
 第2節 郡山市内の弥生遺跡
 御代田遺跡
 枇杷沢跡遺
 柏山遺跡
 深沢出土の弥生土器
 福楽沢遺跡
 徳定遺跡
 腰巻遺跡と一の谷遺跡
 第3節 稲作農耕の開始
 弥生文化と稲作
 郡山地方の稲作遺跡

東北地方の稲作遺跡

 第3編 古代

 第1章 古代の郡山
 第1節 古墳と阿尺国造
 1. 東北南部の古墳
 文化の伝播経路
 古墳の編年
 安積郡古墳文化の特色
 2. 阿尺の国造
 大和朝廷進出の古伝承
 阿尺の国造
 国造の本拠と前方後円分布
 出土品からみた古代の衣食住
 住居跡からみた古代の家
 古代の信仰と祭祀遺跡
 第2節 安積郡の設置と安積九郷
 1. 陸奥国の設立
 大化の改新と東国
 みちのおく(道奥)の国
 2. 石城・石背二国の誕生と廃止
 石背国の独立
 鴻ノ集・方八丁遺跡
 葛城王と安積采女
 安積采女伝説
 3. 安積郡と郡衙
 安積郡の規模
 安積郡衙の所在地
 虎丸長者伝説
 清水台遺跡
 銅印出土地とその意味
 安達郡の分離
 安積九郷
 第3節 律令支配下の安積
 1. 安積軍団の新設
 奈良時代の征夷
 軍団の組織
 安積軍団の設置
 中柵遺跡の性格
 2. 安積の豪族たち
 神護景雲三年の大授勳
 国造系の安積の丈部氏
 丸子部と大田部

- 3. 条里制と古代の交通路
 - 戸籍と条理制の施行
 - 条里制の遺構
 - 古代の交通路と葦屋駅
 - 葦屋駅所在地考
 - 平安初期における田村麻呂の活躍
 - 奈良末期の蝦夷の反別
 - 田村麻呂の出生伝説
 - 安積臣継守の軍糧献上
 - 田村麻呂の征夷
 - 賜姓の豪族と帰化人
 - 陸奥国の軍制改革と安積軍団
 - 兵制の変化

第2章 奥州藤原氏と郡山地方

第1節 前九年・後三年の役と安積

- 安積ゆかりの人々
- 前九年・後三年の役
- 義家貞任宗任伝説
- 鎌倉権五郎伝説

第2節 奥州藤原氏と安積

- 荘園化すすむ
- 藤原三代と奥州征伐

第3節 一丁仏と静堂伝説

- 金色の幻影一丁仏
- 安達絹と石もどり村(石筵)
- 御前堂の静御前伝説

第4節 末法思想と経塚

- 末法の世
- 安積の経塚

第3章 安積の古代文化

第1節 原始信仰と式内社

- 自然と原始社会の信仰
- 古亀田と正直の祭祀遺跡
- 安達太良の神々
- 安積式内三社
- 宇奈己呂和気神社
- 飯豊和気神社
- 隠津島神社

第2節 清水台廃寺と弘隆寺

- 東北における寺院の創建
- 郡寺の建立
- 清水台廃寺跡

- 平安密教の東北普及
- 天台別院安積弘隆寺
- 弘隆寺の所在
- 田村大元帥信仰

第3節 古代安積の仏教美術

1. 奈良二彩釉陶と窯業

- 唐三彩
- 東北地方の多彩釉陶
- 二彩陶出土の意義
- 瓦窯跡団地

2. 陶硯と墨書銘土器

- 古代の陶硯
- へら書と墨書土器

3. 古代の仏像彫刻

- 古代の仏像彫刻

第4章 古代の文化

第1節 古代の文学と安積

1. 安達太良山の歌

- 万葉集と安達太良山

2. 安積山の歌

- 安積香山の歌
- 葛城王と国司
- 前の采女
- 吟詠人采女の役割
- 安積香山の歌の類歌性
- 「アサカ」の地名
- 『古今集』の序文
- 和歌の世界での安積山の地位
- 安積山が和歌に与えた影響
- 物語・説話にあらわれた安積山
- 猿沢の池と采女の話
- 歌枕としての安積山
- 安積山の位置
- 安積山・山の井の現況
- 采女伝説

3. 安積沼の歌

- 古今集あさか沼の歌
- 能因法師と花かつみ
- 三十六歌仙と花かつみの歌
- 根合と安積沼の菖蒲
- 堤中納言物語の根合
- 中世の名所歌と安積沼
- 花かつみという花

源俊頼の「こも」説
 かつみふきのこと
 かつみ菖蒲説
 芭蕉と花かつみ
 花かつみひめしゃが説
 安積沼の所在
 4. 阿武隈川の歌

第4編 中世

第1章 鎌倉時代の郡山
 第1節 伊東氏と安積地方
 伊東氏の系譜
 伊東氏の安積郡恩給
 安積伊東氏の祖祐長
 伊東氏の本拠
 伊東氏と神社
 第2節 伊東氏と村落
 開発と村落
 村落のすがた

第2章 南北朝時代
 第1節 動乱と安積地方
 1. 建武の新政
 佐々川合戦
 建武新政と伊東一族
 結城氏の検断奉行と安積・田村
 五百河の「凶徒」
 田村庄司と御春の輩
 2. 動乱の展開
 安積新兵衛尉の転戦
 北党の安積南党の田村
 結城親朝の北党服属と安積田村
 宇津峯攻撃の開始
 第2節 北党勢力の制覇
 1. 奥州管領と安積郡
 奥州管領の設置
 宇津峯落城
 守永王と宇津峯城
 安積・田村両氏の去就
 2. 宇津峯落城
 北畠顕信と宇津峯城
 宇津峯城再び陥落
 奥州管領使伊東・田村

南北朝の終末
 動乱と荒廃

第3章 室町・戦国時代
 第1節 篠川御所と国人一揆
 1. 安積田村の動向と篠川御所の下向
 安積伊東一族と田村一族との一揆契約
 鎌倉府の奥羽二国支配
 田村庄司の乱
 篠川御所の下向
 2. 篠川御所と仙道の国人一揆
 応永六～九年の乱と安積・田村地方の動向
 仙道の国人一揆
 仙道国人一揆の性格と本質
 上杉禅秀の乱と安積・田村の動向
 国人領主層の成長と篠川公方の関東離反
 両府和解と篠川公方の動向
 永享の乱と安積田村両軍の動向
 篠川御所の死
 篠川・稲村御所の権限
 3. 関東大乱と安積・田村の動向
 関東大乱の展開と南奥の対応
 白川氏の進出と安積田村地方の情勢

第2節 群雄の争い
 1. 蘆名氏の安積進出
 戦国時代の開始
 蘆名氏の進出
 伊達氏の安積進出
 2. 田村氏の安積支配
 田村隆顕の安積侵入
 天文の乱おきる
 安積郡をめぐる攻防
 天文の乱おわる
 3. 安積郡をめぐる抗争
 蘆名盛氏の安積支配
 安積をめぐる諸氏
 田村氏安積郡を席卷
 片平伊東氏の退職
 佐竹義重の安積来攻
 片平蘆名領となる
 安積・田村の蘆名・二階堂領

第3節 伊達氏の征覇
 1. 伊達と佐竹
 伊達晴宗采地下賜録と伊東氏

- 佐竹氏の北進
- 2. 大内定綱の向背
 - 定綱の謀反
 - 大内氏の滅亡
- 3. 連合軍との対戦
 - 輝宗の死
 - 人取橋の合戦
 - 二本松の落城
- 4. 戦後恩賞
 - 安達地方の仕置と領地の安堵
- 5. 郡山の戦い
 - 大内定綱の従属
 - 田村騒動
 - 連合軍の出陣
 - 郡山の戦い
 - 郡山朝祐あての伊達政宗書状
 - 和睦成る
- 6. 蘆名氏の滅亡
 - 伊達政宗の安積・相馬攻め
 - 磨上原の決戦
 - 蘆名氏の滅亡
- 7. 戦国時代の終結
 - 二階堂氏の滅亡
 - 秀吉の奥州仕置
- 第4節 村落と農民
- 1. 中世後期の郡山地方
 - 安積郡の村々
 - 安積の館主
 - 安積宿のことなど
 - 田村郡の村々
- 2. 領主と農民
 - 在家農民と地頭領主
 - 村山境相論の発生と在家農民の成長
 - 村落領主制の動揺と大名権力の形成

第4章 中世の宗教と文化

- 第1節 中世の宗教
- 1. 中世の神社信仰
 - 領主層の氏神と鎮守
 - 三島・伊豆・箱根の三社
 - 春日社と木ノ宮
 - 田村氏と大元明王
 - 実沢の帝釈天と摩利支天
 - 安積八幡神社

- 2. 中世仏教と安積地方
 - 旧仏教天台真言密教
 - 安積地方の曼荼羅供養塔
 - 八幡神社神宮寺・護国寺
 - 田村大元帥社泰平寺
 - 浄土教の足跡
 - 鎌倉新仏教の芽生え
 - 臨濟宗と曹洞宗
 - 時宗(時衆)阿武隈山地に
 - 初期真宗安積門徒
- 3. 板碑と中世の信仰
 - 安積地方板碑の特色
 - 板碑の地方的展開
 - 如宝寺・阿邪訶根社の古石塔
 - 浮彫弥陀三尊石塔の分布
- 4. 郡山地方の修験道
 - 修験道の歴史
 - 安積郡の修験
 - 田村郡の修験大祥院
- 第2節 中世の美術と工芸
 - 安積の中世文化
 - 古建築・書画・漆工品
 - 経塚出土品と金工品
 - 日和田鑄物師とその作品
 - 安積地方の中世の仏像
- 第3節 中世の学芸
- 1. 蛇骨地藏の伝説
 - 蛇骨地藏堂縁起
 - 伝説の考証
 - 蛇骨地藏和讃
- 2. 静御前伝説
 - 静御前縁起
 - 小六峠
 - 化粧坂・被沼・美女沼
 - 花輪長者
 - 御前堂と古碑
 - 静伝説の分布
- 3. 赤沼のおしどり伝説
 - 「古今著聞集」の説話
 - 各地のおしどり伝説

第2巻 近世(上)

第1編 藩体制の成立

第1章 藩体制の成立と郡山地方

第1節 天正・文禄の検地

天正の検地

検地の意義

安積地方の検地

第2節 知行と給人

村と評価

村の支配

郡山地方の給人

藩生時代の知行

上杉時代の知行

再藩生時代の知行

加藤時代の知行

農村の給人支配

第3節 農民経済と開発

郡山地方の新田開発

加藤嘉明の開発政策

新田と灌漑用水

第4節 近世初期の農村構造

1. 初期の農民階層

村落と農民階層

2. 延宝の検地と農民

三町目村の分村

小前層の増加

第5節 年貢徴収のしくみ

1. 年貢と徴収率

藩生氏の年貢徴収

上杉時代の年貢

再藩生時代と年貢

加藤氏の年貢徴収

小物成と労働課役

2. 安積郡代官所と年貢勘定

安積郡内の年貢納入

第6節 村と村役人

村役人の職務

二本松藩の村役人

名主の異動

村の間屋役

三春藩の村役人

守山地方の村役人

会津藩の村役人

幕領・高田藩の村役人

第2章 藩体制の確立と郡山地方

第1節 江戸幕府と支配の変遷

丹羽氏

加藤氏

松下氏

保科氏

秋田氏

第2節 二本松藩の成立

丹羽光重の入部

丹羽氏の出自

二本松藩の領域

二本松藩の藩制

第3節 会津藩・三春藩の支配

1. 会津藩の成立

保科正之の入部

2. 三春藩の成立

秋田氏の入部

第4節 幕領と守山藩の成立

1. 幕府領の領城

幕府領の成立

2. 守山藩の成立

守山藩の成立

守山藩の領域

藩の支配組織

第5節 白河・越後高田・笠間領の成立

白河藩の支配

幕府領へ編入

第3章 領内支配と郡山地方

第1節 領内検地

郡山地方の検地

加藤嘉明の検地

丹羽氏と検地

田村地方の検地

延宝の検地

会津領の検地

第2節 延宝の検地と縄引

1. 守山地方の延宝の検地

延宝期の検地

検地の方法

検地と増歩

- 2. 縄引制度と農民
- 3. 所持高と農民階層
 - 割換の原因
 - 農民の階層差
- 第3節 各藩の領内開発
 - 1. 二本松藩の開発
 - 丹羽氏の開発政策・
 - 開発と用水の確保
 - 郡山村の新田開発
 - 2. 三春藩の新田開発
 - 三春藩と栗原新田
- 第4節 年貢と徴収の形態
 - 1. 年貢の種類と徴収
 - 本年貢の徴収と賦課
 - 小物成の徴収
 - 2. 各藩の年貢徴収と訴願
 - 二本松藩の貢租
 - 守山藩の年貢徴収
 - 高田領と幕領
 - 農民の生活
 - 年貢増徴と減免訴願
 - 不当年貢納入と訴願
 - 天和の名主不正訴訟
 - 増税反対の訴え
 - 込米減免の訴願
- 第5節 商品生産と農村金融
 - 1. 商品生産物と商業の制限
 - 検断問屋と商品取引
 - 棒手振と商業
 - 商品の領外移出と穀留番所
 - 借金や土地の売買
 - 2. 農村金融と担保
 - 借用借の例
 - 借金と担保
 - 人身と土地の担保
 - 出作と入作
- 第6節 奥州道中と助郷
 - 1. 奥州道中の整備
 - 仙台・松前道の整備
 - 街道と海道
 - 松前道の開設と村の移住
 - 湖南地方の街道
 - 岩城街道
 - 2. 助郷と商人荷

- 武士の往来と助郷負担
- 武士荷物と商人荷駄送
- 商人荷の駄送と駄賃

第4章 郡山地方の宗教

第1節 近世の宗教政策

- 1. 中世末における郡山地方の状勢
 - 近世初頭の宗教界の動向
 - 安積地方寺院の盛衰
- 2. 江戸幕府の宗教政策と二本松藩
 - 江戸幕府の宗教政策
 - 神祇信仰と江戸幕府
 - 二本松藩の宗教行政

第2節 近世の神社と寺院

- 1. 郡山市の神社神道
 - 幕府の神道政策
 - 宇奈己呂和気神社と安積八幡
 - 飯豊和気神社
 - 隠津島神社
 - 安積国造神社
 - 王宮伊豆神社
 - 西宮神社とえびす信仰
 - 田村地方の菅船明神
- 2. 近世の寺院
 - 近世寺院の創建
 - 浄土宗
 - 浄土真宗
 - 時宗
 - 臨濟宗
 - 曹洞宗
 - 黄檗宗
 - 日蓮宗
 - 真言宗
 - 天台宗

3. 近世の修験

- 修験の派別
- 安積郡の修験寺
- 田村郡の修験寺大祥院
- 羽黒派と湯殿信仰
- 葉山信仰

第3節 郡山地方のキリシタン宗

- 1. 安積安達のキリシタン宗
 - 江戸幕府とキリシタン
 - 二本松藩のキリシタン

- 2. 大槻村の新田開発とキリシタン
 - 大槻村とキリシタン
- 3. 宗門改めと類族の取り締り
 - 類族の取締り
 - 切支丹類族の区分
 - 如宝寺の切支丹墓碑
- 第4節 民間信仰と祭礼縁日
 - 神社信仰と民間信仰
 - かまど神とかまど講
 - 村祭りと縁日
 - 廃仏棄釈と新社勧進
- 第2編 藩体制の展開
 - 第1章 展開期の藩財政と農民生活
 - 第1節 封建的秩序と五人組強制
 - 生活の秩序と幕藩法
 - 五人組帳前書の規定
 - 各藩の生活規定
 - 第2節 村定めと農民生活
 - 村役人
 - 農民の休日
 - 村定め
 - 第3節 藩の財政と御手伝普請
 - 幕府の大名統制策
 - 二本松藩の財源
 - 御手伝普請と藩財政
 - 御手伝普請と助役の姿
 - 御手伝普請の効果
 - 藩財政と商業資本
 - 守山藩の財源
 - 会津藩の財政
 - 三春藩の財政
 - 第4節 各藩の藩政改革
 - 領国経済の破綻と改革
 - 二本松藩の改革
 - 宝暦以降の施策
 - 守山藩の藩政改革
 - 三春藩の改革
 - 会津藩の改革
 - 第2章 農村経済と商業の発展
 - 第1節 郡山周辺村の人口と持高の変化
 - 1. 領内人口と村の人口

- 二本松領の人口
- 郡山・笹川・下守屋村の人口
- 水呑・奉公人の増減
- 2. 農民階層の構成と持高の移動
 - 農民の持高
 - 貸高と借高
 - 郡山村の農民持高
- 第2節 名子や下人経営と借高の出現
 - 名子・下人経営
 - 持高の移動
 - 奉公人の分出と店借り
 - 郡山村上層農民の持高と家族
- 第3節 質物奉公人と農村の変化
 - 身売奉公人の排出
- 第4節 農民層の分化と身売人の増加
 - 郡山村の奉公人の形態
 - 日出山村と笹川村の奉公人
 - 身売人の給金と生活
- 第5節 土地制度の変化
 - 1. 耕地帳の作成と土地移動
 - 二本松藩の耕地帳
 - 2. 延宝後の検地と新田開発
 - 二本松藩の検地条目
 - 耕地の品位
 - 新田の開発
 - 開発地と給地
 - 出作と入作
 - 3. 土地の割換と縄引
 - 土地の割換
 - 割換の原因と村定
 - 縄引の定
 - 縄引制の崩れ
 - 縄引制の再編
 - 4. 所持地の移動と農民階層
 - 土地の移動ともらい高
 - 農民階層の発生
 - 農民の階層
- 第6節 年貢徴収と農民階層の図区分
 - 二本松藩の年貢徴収
 - 農民階層と年貢
 - 栃本村の年貢率
 - 郡山村の耕地と年貢
 - 各種の金納と税額
 - 年貢の納入と未進

不作検地と検見取

第7節 享保改革前後の農業経済

元禄期の農業

第8節 農業経営と山林の利用

灌漑用水の確保

堰の普請と出入

第9節 農業経営と養蚕・煙草・馬産

1. 養蚕と煙草・漆の生産

桑の栽培と養蚕

煙草の栽培

漆木栽培仕法

2. 馬産と駒付制度

馬の飼育

3. 守山地方の「馬市」

守山町の駒驪

市日と上納銭

4. 守山町の穀市

守山町穀市の開催

第10節 災害の漸発と農村の裏退

二本松領内の被害数と災害

享保期の災害

水害と村替

享保期以後の災害

農村の疲弊

第11節 寛延二年の百姓一揆

1. 寛延二年二本松領百姓一揆

安達農民の蜂起

安積農民の蜂起

一揆の史料

一揆の指導者

農民の要求と藩の動き

御教書の内容

寛延期の天候

一揆の結末

2. 守山藩の百姓一揆

百姓の動き

打毀し

藩の対策

百姓の要求

藩の回答

指導者の探索

3. 三春藩の騒動

騒動と要求

藩の回答

4. 湖南地方の一揆

会津領の一揆

第12節 守山領の村方騒動と質物一揆

1. 村方の騒動

村境争い

金沢銀山騒動

夫食騒動

水争い

2. 質物人一揆

元文期の一揆

質物人の要求

村役人と農民の対決

打毀し

延享三年の質物一揆

農民の願

藩の裁決

指導者の逮捕

騒動後の混乱

宝暦五年の質物騒動

質物人の駆入訴訟

第3章 秣場と刈敷場の争い

第1節 入会野争い

1. 入会野の意義

農民と入会権

農民生活と入会論争

論争裁定の経過

2. 入会野の減少による争い

成田村と荒井村の論争

野田新田と鍋山村の入会争い

新田開発による秣場論

境界の争い

3. 水路の変化による争い

小原田村と上行合村の論争

4. 渡場周辺の争い

笹川村と徳定村の論争

金屋村と日出山村の争い

5. 他領との争い

争いの発端

第2節 山林入会の争い

1. 山林対策と保護

山林の保護

山の共有と植林

2. 山林入会の争い

- 富岡村と下守屋村の出入
- 栢山神と栢本村の山論
- 3. 村の境界争い
 - 浜路村と山潟村の境界争い
 - 成田村と川田村の争い
- 第3節 灌漑用水の争い
 - 深田池用水権の争い
 - 篠堰の水論
 - 荒池用水の争い

第4章 近世前期の文化

第1節 近世初期の文芸

- 1. 俳諧の抬頭と普及
 - 書誌にみる近世初期の郡山
 - 俳句への開眼
 - 俳句普及の姿
- 2. 江戸文学と郡山
 - 俳聖芭蕉と郡山
 - 戯曲と郡山

第2節 二本松藩の和算

- 磯村文蔵と二本松藩
- 庶民と和算

第3節 駄入訴訟と農民

- 「駄入り」と「縁切り」
- 駄入りの原因
- 駄入訴訟の手續
- 女の駄入り
- 村役人の駄入り
- 穀留と駄入り
- 他領寺へ駄入り
- 僧侶と目明しの駄入り
- 御用漆の搔取事件
- 他領の駄入り

第3巻 近世(下)

第3編 藩体制の動揺

第1章 領主経済の破綻と改革

第1節 宿村人口と土地制度・年貢徴収の変化

1. 人口の変化と農民の分化

宿人口の変化

農村人口の増減

2. 宿村の奉公人と店借人

奉公人の雇傭

郡山宿の奉公人

村の奉公人

3. 農民の分化

上行合村の村勢

安積地方の村々

農民階層の変化

山岡家の農業経営

借地農家の経営

4. 耕地と縄引制度

耕地と縄引制

縄引の仕法

縄引の実際

軒前分割の階層

5. 年貢と坪刈

検見・坪刈と納入方法

年貢租率と米金両納

第2節 各藩の藩政改革

1. 二本松藩の改革

寛政の改革

天保の改革

2. 守山藩の改革

安永の改革

3. 三春藩の改革

凶作と面扶持

文化の改革

4. 会津藩の改革

寛政の改革

天保の改革

5. 越後高田藩と笠間藩の改革

越後高田藩の改革

笠間藩の改革

第3節 二本松藩の御修法と郡山

1. 安永・享和・文政期の御修法

二本松藩の御修法

藩財政と御修法

農民救済の御修法

藩政改革と御修法

2. 文政・天保期の御修法

二十五人組の御修法

旅籠屋御修法

穀問屋御修法

駄馬購入御修法

3. 三春藩の五十人組仕法と改革要求

五十人組仕法

天明凶作と改革

第4節 各藩の赤子養育仕法

二本松藩の赤子養育御修法

守山藩の赤子養育制度

三春藩の赤子養育制度

越後高田領の赤子養育制度

会津藩・笠間藩の養育制度

第2章 郡山地方の産業発達

第1節 二本松領の産業

1. 日和田鋳物業

鋳物技術の発達

日和田鋳物師の系統

鋳物の適地

勢物の製造と販売

鋳物の製作工程

2. 小原田土摺臼

土摺臼の普及

製造工程

3. 養蚕の発展と規制

安積地方の養蚕

4. 高簾鉦山の経営

高簾鉦山の開発

二本松藩の鉦山経営

5. 漆蠟の諸木の制限

漆の奨励と買上げ

山林の保護と利用

二本松藩の林政

第2節 守山領の産業

1. 菅笠の生産

菅笠の主生産地

菅笠の販売と前金制

菅笠会所の設立

- 2. 漆栽培
 - 漆栽培奨励
 - 漆木奨励の効果
- 3. 養蚕
 - 養蚕の制限
- 4. 藍と紅花
 - 藍と栽培
 - 紅花の栽培
- 第3章 商業の発達
 - 第1節 近世後期の商業
 - 郡山宿の商人
 - 小野屋の商業経営
 - 永戸家の商業経営
 - 東小野屋の経営
 - 郡山宿の商業
 - 阿部家の質経営
 - 郡山宿商人と金融業
 - 第2節 地方市場と農村金融
 - 1. 商品作物と地方市場
 - 市場の性格
 - 2. 地方商人と農村金融
 - 藩の経済と商人
- 第4章 越後高田藩と農民経済
 - 第1節 越後高田分領と郡山
 - 寛保二年の白河藩一揆
 - 藩の郷村支配
 - 第2節 栃本村(1)-寛保二年から天明二年まで-
 - 1. 栃本村の村是
 - 栃本村の村高
 - 戸数と人口
 - 2. 農民の生活-手余り地・高引用捨-
 - 持高の変化
 - 農民の困窮と高引
 - 3. 農民生活-潰百姓・身売奉公人-
 - 身売奉公人と対策
 - 潰百姓と借金
 - 4. 天明元・二年の諸改法
 - 農村復興の諸対策
 - 第3節 栃本村(2)-天明三年から文化六年-
 - 1. 天明三年大凶作と農民の生活
 - 天明の凶作と高田分領

- 凶作と農民の生活
- 2. 天明六年の大凶作と農民生活
 - 天明六年の凶作と収穫
 - 寛政元年の凶作
- 第4節 文化六年の上地御料所と農民
 - 上地御料所と年貢軽減要求
 - 年貢負担と要求の結末
 - 御預所の農民生活
 - 幕領編入と郷村の要求
- 第5章 天明前後の凶作と農村生活
 - 第1節 天明・寛政期の農村
 - 人口の減少と手余り地
 - 潰百姓の実情
 - 困窮農村の復興対策
 - 年貢諸役負担の状況
 - 第2節 天明の区作と農業
 - 1. 天明の飢饉
 - 災害の種類
 - 天候の推移
 - 2. 安積地方の被害
 - 二本松領内の被害
 - 庶民の生活
 - 救済の対策
 - 3. 守山地方の被害
 - 守山藩と天明飢饉
 - 藩の対策と救済
 - 第3節 農業と農家生活
 - 1. 稲作品種と収穫
 - 稲の品種
 - 俵作りの規定
 - 2. 畑作物とその変化
 - 畑作の種類
 - 3. 養蚕・製糸業の普及
 - 養蚕農家と蚕種製造
 - 株札と役金
- 第6章 宿場町の発達
 - 第1節 宿場町郡山の発展
 - 1. 宿駅と藩の規制
 - 宿駅の形態
 - 宿の役職と自治
 - 宿泊の設備
 - 2. 宿内商人の開店・借地・借家の動き

- 土地と家の貸借
- 3. 検断と旅籠屋の経営
 - 検断の任務
- 4. 旅籠屋の修法
 - 旅籠屋の備金
- 5. 問屋と商品の駄送
 - 御用宿問屋
 - 問屋の機能
 - 役銭の徴収
- 第2節 三代・福良・中山の各宿
 - 三代駅と福良駅
 - 中山宿
- 第3節 郡山宿の飲料水
 - 皿沼水道と山水道
 - 皿沼水道の創設
 - 皿沼水道の構造
 - 山水道の敷設
- 第4節 宿場町の治安
 1. 郡山宿内の事件
 - 犯罪の姿
 - 盗難事件
 - 追剥事件
 - 傷害事件
 - 飯盛女との心中事件
 - 飯盛奉公
 - 事件後の処置
 2. 火災と消防対策
 - 大火の実例
 - 火災の件数
 - 救助の規定
 - 災害防止の対策
 - 消防の組織化
 - 消火活動の実際
- 第5節 助郷制度の変化
 1. 宿駅と助郷組織
 - 荷送の規定
 2. 郡山駅外七ヶ駅の人馬割合
 - 宿駅の寄人馬数
 - 農民の負担
 3. 先触れと継立・宿泊
 - 先触れと宿泊
 - 宿泊料の定め
 4. 賃銭増額と請負人足
 - 駄送賃銭の値上げ要求
- 5. 助郷組織と農民負担
 - 安積三組の助郷出役
 - 人馬継立の規定
- 6. 戊辰戦争と助郷
 - 戦争と駄送の強制
 - 農民の出役拒否
- 第6節 大名収納米の江戸廻送
 1. 大名廻米の意義
 - 米の江戸廻送
 - 丹羽氏の廻米
 2. 守山藩の廻米高
 - 守山地方の廻米事情
 - 守山藩と江戸の穀商人
 - 守山藩の廻米高
 - 二本松藩の廻米高
 3. 廻米事業の展開
 - 江戸廻米の経路
 - 二本松藩の廻米路
 - 河川運送船の種類
 - 津出しと廻送
 - 津出しの状態
 - 廻米輸送の運賃
 - 米問屋の運賃値上要求
 4. 宰領と御米問屋
 - 道中宰領の任務
 - 御米問屋の役割
 5. 廻米の海上輸送
 - 二本松藩の海上廻米
 - 守山藩の海上廻米
 6. 米穀流通の諸形態
 - 米付け商人の関東出稼
 - 六斎市と米穀商
 - 収納米の地払い
- 第7章 一揆と村方騒動
 - 第1節 寛政期の一揆-浅川騒動
 - 騒動の原因
 - 騒動の主要経過
 - 騒動の結末
 - 第2節 村方騒動
 1. 二本松領内の村方騒動
 - 訴願の根本原因
 - 訴状の概要
 2. 守山領の村方騒動

出作入作の論争
船場騒動
名主不正の出入
3. 郡山宿の太鼓台事件
郡山宿のお祭り喧嘩
事件の原因
事件の判決

第4編 封建社会の崩壊

第1章 幕末の領主経済と凶作
第1節 藩財政の破綻と公役
1. 藩財政の窮乏
幕末の藩財政
公役の増加
貸上金と御用金
守山藩の財政
藩の対策
家臣の窮乏
2. 上総国富津台場の防衛
対外関係の緊張
富津砲台の警備
上総国の預地
3. 京都の警衛
京都の警衛
村への負担
第2節 幕末商人の活動
宿場町郡山
商業の姿
宿場と旅籠屋
生糸商人の活躍
金融業の活動
小野屋の経営
第3節 天保の凶作
1. 凶作の原因
天保の気候
2. 安積三組の被害
村々の困窮
凶作の被害
藩の凶作対策
穀問屋修法
他領米の購入と穀留番所
困窮者への救助
3. 守山領の被害

守山領の被害
村々の困窮
区作の実体
藩の対策

第2章 農家経営と農民生活
第1節 稲作と凶作の影響
稲作の制限
第2節 農家経営
標準農家の経営
伊東家の農業経営
第3節 農民の常食と保有米
常食と保有米

第3章 阿武隈川通船と宿駅
第1節 通船と川路の改修
廻米の阿武隈川輸送
通船の運賃
船路の調査
第2節 通船継続願いと造船
通船の継続願
第3節 通船と安積七ヵ宿駅との紛争
通船請負人と問屋の対立

第4章 助郷紛争と代官不正騒動
第1節 助郷反対一揆
1. 安政三・文久二年の反対闘争
安政三年の反対闘争
文久二年の軽減運動
2. 文久三年の反対闘争
助郷賦課と庄屋層
助川への越訴
全村反対闘争
藩の運動と結末
第2節 鍋山の村方騒動
騒動の発端
騒動の原因
騒動の判決
第3節 馬子騒動
馬方の惣寄合
不安な世情
馬方の生活
対策と結末
第4節 陣屋役人の不正

青木専三郎の解職
代官不正の直訴

第5章 近世後期の文化

第1節 藩校と寺小屋

1. 藩校の開校

 二本松藩の藩校

 守山藩の藩校

 三春藩の藩校

2. 寺小屋の教育

 就学的情況

 入学の手続き

 授業の内容

 授業の方法

 試験と賞罰

 束脩と謝儀

 師弟関係

 天神講

 寺小屋の師匠

第2節 和算の普及

1. 和算の普及と算額

 二本松藩と和算の普及

 算額

2. 郡山地方の算学者

 郡山地方の算学者

第3節 学問の世界

1. 国学の普及

 郡山地方と本居国学

 平田国学と守山地方

2. 郡山地方の俳諧

 郡山の俳諧

 安斎晋晟と俳句

 佐々木露秀と不孤園社

 句集と句額

 幕末の俳人

 守山地方の俳諧

3. 漢学の普及

 今泉徳輔と安積良斎

 守山藩と戸崎允明

4. 画と書

 郡山地方の画家

 鯨沢耕山

 湖南地方の画家

 荒井貞立と書

第6章 戊辰の戦いと各藩の動向

第1節 二本松藩

 東北戦争への道

 二本松藩の動向

 安積平野の戦火

第2節 守山藩

 幕末期の藩内抗争

 会津追討嘆願と守山藩

 会津追討先鋒願再嘆願

 奥羽同盟と守山藩

 護衛隊の活動

 守山藩の降伏とその後

第3節 三春藩と幕府領

 深まる財政難

 戊辰戦争と三春藩

第4節 安積郡内の兵火

 仙台兵の進駐

 御霊櫃峠の戦い

 会兵の侵入

 郡山宿の戦火

 農民の負担

第5節 会津領湖南地方の被害

 会津藩の軍制

 会義隊の動向

第7章 郡山町と村の打ちこわし

第1節 幕末の農民階層と水呑

 幕末郡山宿の農民階層

 郡山宿農民の持高

第2節 戊辰戦争と郡山宿

 戊辰戦争と郡山宿

第3節 郡山宿の打ちこわしの原因と要求

 打ちこわしの原因と要求

第4節 一揆の行動と質品貸出し

 一揆の行動

 打ちこわしの被害

第5節 大槻村の打ちこわし

 大槻村の打ちこわし

 安斎家の被害

第4巻 近代(上)

第1編 郡山の夜明け

第1章 維新と地方制度

第1節 明治維新と地方行政

明治維新の意義

府藩県三治の制

民政局の統治

藩と県の変化

廃藩置県

第2節 大小区制と福島県の成立

新政策と地方制度の改革

大小区制の制度

福島県の成立

地方民会の開設

第3節 地方三新法と村の行政

地方三新法の公布

地方三新法の要点

区町村会の制定

三新法の施行と自由民権運動

民権運動の激化と三新法体制の麻痺

地方自治制制定への歩み

第2章 村の成長

第1節 民政局支配下の郡山

1. 守山藩の統治と郡山宿の動き

守山藩の取締

貧民への救済

郡山宿町名の改称

2. 笠間藩の支配と白河県の設置

笠間藩の統治

民政取締所誘置運動

定免から検見取

凶作の姿と対策

白河県の設置

生産会社の設置

白河県の「慈幼法」

農民の暴動

第2節 大小区制と郡山

大・小区の制度

小区分け

戸長の任命

村・区の経費と給料

区会のはじまり

地方民のすがた

守山陣屋と士族

貢税の嘆願

第3節 戸長役場時代の郡山

三新法の公布

郡役所郡山に移る

行政の統一

村々の財政

協議会費の支出

第4節 治安と消防施設

1. 治安の維持と警察制度

強盗頻発する

初期の警察行政

警察署の新築

警察のしごと

2. 消防施設と火災

初期の消防

消防組の発足

郡山村の消防の変化

新式ポンプ購入

火事現場の慣行と取締

第3章 地租改正と農業

第1節 明治初年の農業

土地と農業の状態

農民の税負担と収益

土地所有の状態

産物

養蚕と製糸

第2節 地租改正と農民

土地の測量

測量の方法

地租の確定と反別の増減

山林原野の改正

第3節 明治10年代の農業と産業

疏水の効用

農作物と地域差

労働と生産額

安積郡の輸出入品

20年代の農業経営

村の生業分布

食物の変化

農夫の賃金

第4章 開拓と士族授産

第1節 開成山の開拓

1. 開拓のあけぼの
 - 県の積極政策
 - 開拓の方法
2. 開成社の人びと
 - 開成社の創立
 - 開成社の社則
 - 社員の人びと
 - 大槻原に鋤をおろす
 - 開成館をつくる
 - 開墾すすむ
3. 桑野村の誕生
 - 人煙が立ち始める
 - 桑野村が生れる
 - 中条政恒の移住を懇願
 - 村民の生活

第2節 安積平野の開拓

1. 明治政府と安積
 - 明治政府の方針
 - 猪苗代湖の水を東注
 - 士族授産のために
2. 安積疏水の開墾
 - 疏水工事に着手
 - 通水の歓喜
 - 開成山大神宮を設立
 - 明治天皇と開拓地

第3節 士族の移住

1. 刃を鋤にかえて
 - 刃を鋤にかえて
 - 移住のありさま
 - 各藩士族の移住戸数
2. 士族開墾所の成立
 - 二本松士族の移住
 - 対面原・青田原の入植
 - 会津士族の移住
 - 棚倉藩士の入植
 - 久留米開墾
 - 鳥取開墾社
 - 高知人の移住
 - 米沢と岡山士族の移住
 - 松山から牛庭原へ
 - 耐乏の開拓生活

牛庭原と大谷地原

大地主誕生

開拓のあゆみ

3. 移住者の生活

- 生活の急変
- 開拓地と収穫
- 生活の窮迫と転出
- 士族意識と信仰
- 徴兵免除の嘆願

第5章 殖産興業と商工業

第1節 新政府の政策と地方産業

- 初期の殖産興業政策
- 殖産興業政策と地方産業
- 輸出の奨励と取締
- 殖産興業政策の転換
- 企業勃興

第2節 初期の諸産業

1. 商業のはじめ
 2. 郡山生産会社の設置
 - 郡山生産会社
 - 物産方
 3. 商仲間の結成と活動
 - 質屋の開業
 - 穀物商
 - 魚問屋
 - 牛馬商と食肉業
 - 蚕物商
 - 糸市場の開設
 4. 諸生産物と商品の移出入
 - 拡がる商業
 - 町制前の商業
 5. 国立銀行と金融
 - 国立銀行と出張所
- 第3節 地元産業のすがた
1. 養蚕業と蚕種業
 - 地方の産物
 - 養蚕
 - 蚕種生産
 2. 製糸業と郡山地方
 - 生糸業
 3. 茶園
 - 茶の栽培
 4. 陶器と瓦

- 陶器と瓦
- 福良焼
- 瓦の製造
- 5. 鋳業
- 6. 鋳物
 - 鋳物製造
- 7. 醸造業
 - 酒造業
 - 醤油醸造
- 8. 藍
 - 藍の製造
- 9. 菅笠
 - 菅笠
- 10. 凍豆腐
 - 萱沼凍豆腐
- 第4節 正製組と真製社
 - 1. 正製組の設立
 - 国策と生糸
 - 正製組の創設
 - 事業と経営
 - 2. 真製社の設立とその事業
 - 真製社の設立
 - 事業と経営
 - 郡山の生糸
 - 3. 事業と人々
 - 正製組の人々
 - 真製社の人々
- 第6章 交通・通信の発達
 - 第1節 交通政策と陸運事業
 - 1. 陸運と道路の拡充
 - 政府の交通政策
 - 陸通会社から通運会社へ
 - 2. 道路行政と道路の拡充
 - 一等道路の整備
 - 国道・県道の制定
 - 三森峠改修の運動
 - 郡山地域の道路開さく
 - 陸羽街道の改修
 - 国道六号線
 - 鉄道開通と道路の新設
 - 市内の道路整備
 - 第2節 鉄道の敷設と交通の盛衰
 - 1. 鉄道の敷設

- 鉄道のはじめ
 - 日本鉄道会社設立
 - 日鉄と地元民
 - 東北線の敷設工事
 - 郡山村の協力
- 2. 水運の衰退
 - 阿武隈川の水運
 - 舟着き場
 - 猪苗代湖の水運
- 第3節 郵便事業と電信局の設置
 - 1. 通信事業の変せん
 - 飛脚屋と郵便取扱所
 - 県内の郵便事業
 - 郡山郵便取扱所発足
 - 郵便取扱所から役所へ
 - 郵便局の設置
 - 郡山地域の郵便事務
 - 2. 電信事業の誕生と郡山地方
 - 東京・青森間電信架設
 - 郡山電信局設置運動
 - 郡山に電信分局設置
- 第7章 政治運動の展開
 - 第1節 自治体の発足と代議制
 - 1. 初期の村会と県会
 - 郡山村会の発足
 - 区郡会のうごき
 - 2. 県会議員の顔ぶれ
 - 初期の県会議員
 - 議員は名望家
 - 第2節 郡山と自由民権運動
 - 開拓に没頭
 - 興味ある今泉書翰
 - 第3節 県庁の誘致運動
 - 1. 県庁移庁問題
 - 移庁運動のはしり
 - 移庁建議案を出す
 - 神に祈願する
 - 今泉らの活躍
 - 寄付金と都市計画
 - 遂に県議会で可決
 - 逆転される
 - 2. 第二・三次移庁問題
 - 第二次移庁問題

第三次移庁問題

第8章 教育と文化

第1節 近代学校のはじめ

 学制以前の学校

 盛隆舎と郡山学校

 寺小屋教育

 守山の藩校

第2節 学制の実施と教育の実体

1. 郡山小学校の新築と運営

 小中校を併せて建築

 明治天皇の行幸

 郡山小学校の運営

 御代田豊と郡山学校

 金透講と学校経費

 郡山学校の授業

2. 村々の学校の創設と運営

 金合小学校の運営

 就学児童の数

 村の教育

第3節 学校統廃合と教育

 法令の改変と学校の統合

 法令の改正と教育の刷新

 教育の地域差

 成績表を公表する

第4節 郡山開成山農学校

 郡山農学校の設置

 農学校の移転

第5節 特殊教育と鈴木信教

 間引の風習

 社会事業の先駆者

第6節 宗教と文化(1)

1. 宗教

 神道の復古

 仏教と廃仏毀釈

 修験道の衰退

2. 思想と文芸

 国学の影響

 啓蒙思想の吸収

 条約改正と安積地方

 郡山の文芸

第9章 文明開化と市民生活

第1節 文明開化と西洋医学

1. 文明開化

2. 西洋医学の浸透

 洋学の波

 郡山の医師たち

 洋医学への転稼

 種痘医の活躍

 コレラとの戦い

 避病院の建設

 流行病と民間信仰

第2節 明治の建築

 洋風建築

 開成館の建設

 金透小学校記念館

 その他の建物

 開拓地の住居

第3節 衣生活

 洋服の着用

 学生の服装

第4節 食生活

 牛肉食始め

 庶民の食生活

第5節 明治事はじめ

 人力車

 汽車

 蒸気機関

 斬髪

第2編 確立期の郡山

第1章 町村制の施行とその後の発展

第1節 町村制の施行

1. 町村制の施行と村の分合

 市町村制の公布

 町村制度の内容

 町村合併のうごき

2. 町村合併の経過

 安積郡のうごき

 郡山の町制施行

第2節 町村の行財政

1. 町村制施行後の行財政

 郡山町の行政

 選挙制度

 郡山町の財政と税の負担

 税務管理局の設置

2. 明治後半期の地方行財政
 地方財政の悪化
 村の財政経済事情

3. 地方改良運動と行政
 地方自治と政党
 諸法令の公布

第3節 明治期の治安と消防

1. 警察と治安
 警察行政の拡充
 興行風俗取締

2. 司法制度と裁判所の設置
 司法・行政の混成時代
 治安裁判所出張所
 郡山区裁判所

3. 消防と火災
 「勅令消防」以前
 消防施設と寄付
 「勅令消防」以後
 金馬簾と消防
 郡山の消防

第4節 郡山町と村々の人口
 安積郡の人口増加
 疏水の効果と人口
 郡山町の人口の特質
 職業別戸数

第2章 農業の振興

第1節 明治20年代の農業
 農業の改良
 安積郡の農産物
 安積の蚕糸業
 桑野村の茶園と製茶
 畜産とせり市

第2節 農事の改良と農業生産の発展
 稲作の改良と坪刈
 日露戦争と農業
 普通農事改良
 耕地整理

第3節 養蚕・煙草と畜産業
 蚕糸業と生糸生産
 葉煙草の生産
 桑野・福良・守山の馬せり庭
 牛馬および鶏の生産

第4節 山林原野の利用と山林下戻し

山林原野の利用
 山林原野の下戻し

第5節 農業災害
 明治38年の凶作

第6節 農業生産の盛衰と農家経済
 農業生産の変化
 各村の農業の盛衰
 明治後期の農業生産と消費

第7節 地主と小作
 自作地と小作地の変化
 地主と小作の変化
 地主会の成立

第8節 農業団体
 郡山町農会
 町村郡農会と町村農会
 福島県種畜場

第3章 安積疏水と開拓農民

第1節 灌漑による耕地の増加と農民

第2節 疏水の管理と財政
 疏水管理を県に移譲
 水路修繕費に苦しむ
 水利組合を組織
 発電と減水運動
 桧原湖開鑿の反対運動
 戸ノロ堰と管理権を争う
 明治期の功績者

第3節 その後の開拓者の生活
 一般移住者の生活
 土族開拓者の生活
 土地を失う

第4章 商工業の発展

第1節 地元産業の姿
 たばこ製造所
 郡山カーバイト
 酒造業
 肥料と精米製粉
 鉄工・瓦・製板業
 営業税
 会社工場の変化

第2節 絹糸紡績と電気事業

1. 郡山絹糸紡績会社
 紡績の創業

会社の経営
郡山絹紡の終末
電気事業を経営
川口・植杉の絹織工場

2. 沼上発電所の創設
第二の火
安藤忠助の計画
長距離高压送電
電気の恵み
電気が招く工場

第3節 片倉製糸の進出
1. 片倉組製糸所の郡山進出
片倉組岩代製糸所
片倉組進出の背景
片倉組進出とその影響
繊維工業の先駆者

第4節 商業の発展
町制施行と商店
商店の種類
金融機関と商店

第5節 地元銀行と金融機関の進出
地元銀行の創設
県外銀行の進出
各支店の進出
農工銀行の開設

第5章 鉄道・運輸・通信の発達
第1節 鉄道の発達と町の変質
日本鉄道会社線の利用
鉄道と産物の輸送
湖上の運送

第2節 岩越鉄道の敷設
1. 岩越鉄道の敷設問題
岩越鉄道の敷設
岩越鉄道会社の誕生
敷設運動の展開

2. 岩越鉄道の官設運動
官設鉄道運動
郡山町の運動参加
請願書の内容
郡山起点の長所
運動の展開

3. 岩越鉄道の私設計画
岩越鉄道の私設案

岩越鉄道会社の誕生
株金の募集
敷設の状態

4. 岩磐線と常岩線及び平郡電鉄
常岩線の敷設問題
岩磐鉄道の計画
平・郡電鉄

5. 三春鉄道馬車
三春鉄道馬車の計画

第3節 水運の衰退
1. 湖上の交通
湖上の運送

2. 河川交通
河川の運送

第4節 郵便電信の発達
1. 郵便と電信の普及
郵便の利用
郵便貯金の普及
郵便集配の奉仕
郡山郵便局

2. 電話の開通
福島県の電話架設
電話の普及と商業
架設工事の費用
開通と増設工事

第6章 水道の敷設
第1節 郡山の水道
水を求めて
水と郡山
良い水を求めて

第2節 皿沼水道と山水道
皿沼水道の創設
山水道の創設

第3節 明治期の皿沼水道
皿沼水道の拡張
皿沼水道の管理権の移行
管理人と水番喜助

第4節 多田野水道
新水道の計画
水道会社の発足
工事の概要と経費
工事中の苦情処理
町営水道となる

工事の不備

第5節 新水道の創設(近代水道)

旧水道の欠陥と人口の増加

町財政の問題点

今泉久次郎町長と新水道

水道調査の開始

水道予算議案の通過

起工式から完成まで

敷設財源の拮出

皿沼・多田野両水道の断水

水道事業に関係した人々

第7章 政党運動と政界の動き

第1節 帝国議会の開設と郡山政界-明治22～26年-

1. 民党と第一回総選挙

安積民党のうごき

民党の勝利

2. 選挙大干渉と県議選

吏党と民党

政府の選挙干渉

県議半数改選

3. 各地各派のうごき

国民協会派の組織

田村郡の政党

安積郡の政況

安積郡の疵と穴

第2節 日清戦争後の郡山政界-明治26～36年-

1. 第三・四回総選挙と二十七年県議選

民党の勝利

二十七年の県議選

乱闘の第四回総選挙

2. 日清戦争とその後の郡山政界

日清戦争と各地の政情

3. 政党の離合と郡山政界の動き

憲政党の成立と分裂

河野広中の自由党脱党

憲政党支部の成立

三十二年の県議選

政友会支部の結成

第七・八回衆議院選挙と県議選

第3節 日露戦争後の郡山政界-明治37～45年-

1. 日露戦争前後の動き

日露開戦と郡山

反戦と非戦運動

第九回総選挙

2. 日露戦争後の郡山の政況

講和と凶作

四十年以降の郡山政界

その後の総選挙と県議選

3. 平郡鉄道敷設運動

第8章 教育と文化の振興

第1節 町村制施行後の教育

1. 教育の基本方針

教育の基本

山猿物語

2. 町村の統合と就学率

統廃合と就学率

校規整備

第2節 安積中学校の開校

1. 福島尋常中学校の移転

中学校の移転

桑野御殿

2. 中学校の経営

秀才教育

移転問題

第3節 富国強兵策と教育の充実

1. 就学率の向上と子守学校

教育の一般的傾向

富国強兵の教育

就学率の向上

子守学校の創設

女子の就学率

2. 村の教育振興と補習教育

農村の就学率

教育費と町村費

学校基金制度

上級学校の入学者

成人教育の必要性

開拓地の教育

3. 各種教育と学校の設置

県立農事試験場の設置

女子教育の開眼

郡立実科女学校

幼児教育

郡山幼稚園

第4節 社会教育の伸展

幻燈器と通俗教育

明治末期の青年会
 金透同窓会
 金透図書館
 修養会の活躍

第5節 宗教と文化(2)

1. キリスト教の普及
 - 天主教教会
 - 日本聖公会
2. 近代文化と俳句
 - 近代思想文学の成立
 - 郡山の俳人
 - 近代文学の芽ばえ
 - 文化活動
 - 群峰吟社と岩磐時報
 - 碧梧桐と郡山の俳人
 - 句集と出版活動

第9章 日清・日露戦役と市民生活

第1節 日清・日露戦役

1. 日清戦争下の生活
 - 戦争と従軍者
 - 必勝祈願と祈勝会
 - 青少年と婦人の活動
 - 戦勝と市民生活
 - 旅団分営設置のうごき
2. 日露戦争下の市民生活
 - 戦争と従軍将士
 - 戦力増強への道
 - 郡山停車場風景
 - 講和成立後の郡山

第2節 病院の創設と衛生会の組織

1. 医療体制の形成と病院の創設
 - 県内の医療事情
 - 医療体制の形成
 - 日清・日露戦役の医療従事
 - 伝染病との戦いと衛生会
2. 衛生会の組織と衛生思想の普及
 - 衛生会の組織
 - 衛生組合の結成
 - 衛生思想の普及
 - 避病院建設の問題
 - 郡山衛生会の発足
 - 娼妓と相生町移転
 - 歯科医者

第3節 建造物と電燈

1. 後期の建造物
 - 明治後期の建物
 - 後期の代表建築
 2. ガラスの使用
 - ガラスのはじめ
 - ランプの使用
 3. 電燈の普及
 - 紡績会社と電気
- 第4節 明治事始め
- 洋服仕立屋
 - 自転車
 - 自転車競争大会
 - 写真
 - 西洋音楽会のはじめ
 - 明治の唱歌

第5巻 近代(下)

第3編 大正期の郡山と市制施行

第1章 市制施行と郡山

第1節 市制をめざして

都市化する郡山

恐慌下の郡山

文学作品と郡山

第2節 水道施設の拡張

水道使用量の増加

逢瀬川揚水案

水道財政

第3節 耕地整理事業と都市計画

市街地区整備事業

西部の耕地整理

地価の高騰

阿弥陀町の区画整理

逢瀬川改修工事

整理の効果

第4節 市制施行と郡山

市制施行の条件

郡山市の誕生

合併の経過

行政機構の移り変わり

第5節 郡山市の未来像と行財政

郡山市の未来像

市庁舎の建築

地方財政と住民負担

大正期の地方財政政策

緊縮財政と納税の悪化

第2章 周辺町村の姿

第1節 農家経済と村の財政

大正期農村の特色

町村の財政と税の負担

第2節 農業人口と村の姿

本籍人口と現住人口

人口増減のうごき

農村の姿

第3節 安積疏水のその後

灌漑反別の増加

水資源と郡山

源水需給の確立

1. 疏水と発電事業

安積疏水と湖面管理権

水門操作を猪電に委任

水利権返還行政訴訟

電力会社と安積疏水組合

2. 湖面低下問題の解決

湖面低下工事

3. 疏水組合の運営と管理

疏水の管理

第3章 商工業の推移

第1節 各種工場の進出

各種工場の消長

地元資本と県外資本

1. 大正期の設立工場

設立工場の動向

2. 第一次大戦後の工場

大戦恐慌下の工場

企業の合併

第2節 郡山電気株式会社とその事業

資本金の増額

電力の優位性

第3節 商業圏の拡張

1. 大正初期の商業

商業戸数の増加

移出と移入

商業経営と徒弟

伊勢万の経営

店員の勤務時間

2. 法人組織と娯楽施設

商店の法人組織と合理化

娯楽設備と遊戯場

3. 商工会議所の設立

同業組合から連合会

連合会の結成

商業会議所の発足

安積郡内の商業

第4節 金融機関と商業

金融の窓口

経済界の動向

銀行と金融機関

小企業と信用組合

無尽会社

質屋と金融

第4章 米騒動と市民生活

第1節 郡山の発展と市民生活

1. 第一次大戦前後の世相

第一次大戦と窮民

人口の動態

2. 郡山町民の経済力

県税戸数割貧富等差にみる町民の階層

郡山の富裕層

納税と町民の経済力

3. 農民の状態

貧しき人々の群

地主と小作人

4. 労働者・職人の状態

労働者数の増加

物価と賃金

第2節 郡山の米騒動

1. 米価の暴騰と市民の生活

物価の高騰

東京より高い米

追いつけぬ賃金

2. 暴動起る

県下にひろがる米騒動

郡山の騒動

米騒動と労働者

3. 各町村の窮民対策

郡山町の対策

安積郡各村の対策

田村郡の救済

第3節 米騒動後の諸相

1. 町村政に反映する「米騒動」

郡山町の貧富等差是正問題

貧富等差修正その後の紛争

物価騰貴と俸給生活者

2. 郡山地方における労農運動の展開

米騒動後の労農運動

郡山労働組合の結成

第5章 恐慌下の産業と農家経済

第1節 大正前期の産業と経済

1. 職業人口の変化

人口の推移

生産額の推移

2. 金融機関と生産量の推移

預金高の推移

生産量の推移

3. 会社・工場の組織替と中小工場

会社の創設と組織替

工場労働人口の増加

第2節 大正期の農業経済

1. 土地の移動と耕地整理

土地の移動

農作物の価格

堆肥と緑肥の生産

養蚕の発展

家畜生産と推移

第3節 農業経済と産業組合

1. 農業経営と反当り生産の変化

農産物の生産量

御館村の水稲品種

2. 金肥施肥と牛馬の生産

購入肥料の増加

家畜の生産

3. 養蚕と煙草

養蚕の変化

煙草・耕作の推移

煙草生産の増大

4. 産業組合の発展

産業組合の現況

産業組合の発展

第4節 土地所有と地主小作の変化

土地所有

地主と小作

第6章 交通・通信機関の発達

第1節 鉄道の発達と駅の拡充

1. 磐越東線の開通

岩越鉄道の計画

2. 郡山駅の発展

駅舎の改築

郡山工機部の開場

乗降者と貨物の推移

第2節 運輸・通信事業の伸張

1. 郵便・電信・電話の発達

郵便業務と貯蓄

郡山郵便局の昇格

2. 電信・電話の発達

電話の普及

3. 道路と乗物の発達

- 道路網の整備
- 道路の修理
- 道路の舗装
- 乗物の盛衰
- 自動車の出現
- 市街電車の計画
- 運送業の開設

第7章 大正期の教育と文化

第1節 学校教育の発展

1. デモクラシーと臨時教育会議
 - 教育の革新
 - 臨時教育会議
 - 教育費の国庫負担
 2. 就学・出席率の向上と教育の充実
 - 普通教育の姿
 - 就学率向上の実例
 - 高等小学校の入学率
 - 第三小学校の開設
 3. 子守教育の実体
 - 郡山町の子守教育
 4. 県立安積高等女学校
 - 県立への昇格
- 第2節 社会教育の伸展
1. 大正期の社会教育
 - 図書館と視聴覚教育
 - 社会風刺映画
 - 市民の教養と文化
 2. 社会教育と青年団活動
 - 社会教育の推進
 - 地方青年団の活動
 - 青年団の資金
 3. 社会教化活動
 - 修養団郡山支部
 - 日東紡と修養団
- 第3節 大正期の文化
- 久米正雄と宮本百合子
 - 群峰吟社と三汀
 - 文学にみる郡山
 - 開拓と百合子の文学
 - 三木宗策
 - 渡辺晨畝
 - 石井研堂

- 鈴木善太郎
- 真船豊
- 佐藤布南(三二郎)
- 郡山の新聞
- 新聞・雑誌の購読者
- 郡山の音楽会
- 絵画と写真

第8章 普通選挙運動と市民生活

第1節 普通選挙運動と市民の問題

1. 郡山の普通選挙運動
 - 安積自治共和会
 - 郡山の普選運動
 - 護憲運動の展開
 2. 政治運動と市民生活
 - 普選運動と市民生活
 - 電話抽選の町民大会
 - 公会堂建築問題
 - 道路・河川の県費補助要求
 3. 制限選挙の実情
 - 衆議院議員選挙
 - 県会議員選挙
 - 町会・市会議員の選挙
 4. 郡山市の普通選挙
 - 衆議院議員の選挙
 - 地方選挙
- 第2節 市民生活と物価
1. 都市生活と物価
 - 郡山町の住宅対策
 - 物価騰貴と労働者
 - 賃金値下と労働者
 - 消費組合の設立
 2. 不況下の農村生活
 - 農村の失業者
 - 米価の値下りと農民
- 第3節 大正期の衛生と医療体制
1. 環境衛生の普及と発展
 - 郡山町の姿
 - 環境衛生と汚物の処理
 - 糞尿の処理
 - 環境衛生の拡充
 - 衛生費の増加
 2. 医療体制の充実
 - 医師の増加

伝染病の発生
 流感の流行
 狂犬病の発生
 医療体制の充実
 病医院の増加
 看護婦の養成

第4編 恐慌下の郡山

第1章 発展途上の郡山

第1節 市の財政と事業

1. 市の行財政

苦しい財政
 恐慌後の財政
 和田市政と財政

2. 郡山市庁舎の建設

庁舎の建築
 都市計画
 下水道の計画
 市章と市歌

第2節 市政と議会

地方自治の貧困
 戸数割事件
 納税悪化の原因
 納税組合の結成
 肅正選挙
 市会の浄化

第3節 県庁移転運動(第二・三次)

第二次移庁運動
 第三次移庁運動
 県庁改築の決議

第4節 植民地の街

郡山市の人口
 産業別戸数の推移
 西部住宅地の形成

第5節 警察行政と消防

警察の組織
 高等警察の活動
 政党と警察
 郡山警察署の移転
 消防組織と活動

第2章 恐慌期の商工業

第1節 金融恐慌と地元金融界

金融恐慌の波及
 銀行の倒産
 郡山合同銀行の開行
 合同銀行倒産の要因
 銀行倒産の波紋
 金融対策緊急委員会の設置
 秋田銀行の進出
 公益質庫の創設

第2節 恐慌下の工業界

1. 大企業工場の定着

新旧企業の姿
 工業都市の素地
 主力企業の定着
 日東紡の合理化

2. 各種工場の推移

紡績会社の発展
 化学工場の創設
 電気・鉱業・煙草の会社

第3節 昭和初期の商業

郡山の産業
 商業の種類
 郡山商工会議所の設置
 商工学校の設置
 商業の不況

第3章 不況下の農業とその対策

第1節 農商工業別戸数の変化

農業戸数の推移
 商工業戸数の推移
 安積郡の農家戸数
 土地の階層別変化

第2節 恐慌下の農業生産

1. 田畑利用の変化

耕地の変化
 水田利用の変化

2. 農産物の多様化と稲作品種の改良

安積郡の米作
 畑作物の変化
 郡山市の農産物
 富久山村の畑作物
 水稻品種の変化
 稲作の改良
 片平村の農産物

3. 金肥消費の増加と自給肥料

- 自給肥料の推移
- 4. 養蚕業の激減と不安定な生産
 - 養蚕戸数と桑園
- 5. 畜産業の発展
 - 家畜の飼育
 - 牛馬耕の普及
- 第3節 農村経済更生運動と産業組合
 - 1. 不況と農村経済更生運動
 - 農家の経済
 - 九年の凶作
 - 農村救済事業
 - 農家の負債
 - 農村経済更生運動の実際
 - 凶作の対策
 - 2. 産業組合の増設と組合の実績
 - 産業組合の増設
- 第4章 政党運動と労働者農民運動
 - 第1節 政党運動
 - 1. 既成政党
 - 県政界の新旧交代
 - 恐慌下の政党
 - 軍国主義下の政党
 - 戦時体制と政党
 - 昭和初期の県議選
 - 戦前最後の県議選
 - 2. 無産政党
 - 普選法と労働運動
 - 労働運動の右傾化
 - 第2節 労働者農民運動
 - 1. 郡山労働組合の成立
 - 郡山電気従業員労働組合の設立
 - 第一回郡電争議とその周辺
 - 東北労働総連盟郡山支部
 - 2. 第一回郡山メーデーと労働運動の新展開
 - 東北最初のメーデー
 - 無産団体連絡協議会
 - 無産政党結成への動き
 - 諸組合の設立と労働争議
 - 3. 東部電力争議と電灯料値下運動
 - 東部電力争議の発端
 - 争議の開始
 - ストライキの実施
 - 争議の結末

- 電灯料値下運動
 - 値下げ要求市民大会
 - 運動の激化
- 4. 恐慌・弾圧下の運動
 - 三・一五事件と郡山
 - 昭和三年メーデーの禁圧
 - 四・一六事件以後の郡山の労働組合運動
 - 労働争議
 - 農民組合の組織
 - 小作人運動
 - 全国農民組合との結合
- 第5章 教育文化の振興
 - 第1節 新教育の展開と皇民錬成
 - 1. 新教育の普及
 - 新教育の展開
 - 教師の立場
 - 2. 郡山市の教育
 - 赤木小学校の教育
 - 芳山小学校の劳作教育
 - 第三小学校の健康教育
 - 3. 教育の普及と進学率の向上
 - 教育の普及
 - 郡山商業学校
 - 中学校への進学
 - 安積中学校の進学率
 - 安積高等女学校
 - 第2節 市町村財政と教育
 - 1. 教育財政に苦しむ町村
 - 郡山市の教育予算
 - 教員給料の未払町村
 - 2. 学校の統合と建築問題
 - 学校の統合
 - 月形村の学校事件
 - 穂積村の学校改築
 - 3. 私立各種学校
 - 私立学校の創立
 - 郡山婦人会幼児保育所
 - 第3節 昭和初期の文化
 - 1. プロレタリア文学とその影響
 - 時代の動向と文化
 - 郡山の社会主義運動
 - 『郡山文学』の活動
 - 2. 郡山文化連盟の結成

郡山文化連盟の活動
 郡山映画鑑賞会
 郡山音楽協会
 郡山光画倶楽部
 郡山美術協会
 郡山エスペラント協会
 郡山演劇研究会
 郡山童謡と舞踊研究会
 郡山文芸協会
 講演会演奏会
 『郡山文学』以外の文学活動
 短歌・俳句の生活
 文化スポーツ活動
 ラジオの普及と放送局の開局

第6章 満州事変から戦時体制へ
 第1節 満州事変と兵役制度
 1. 戦争への道
 満州事変
 徴兵制度と軍事援護
 2. 徴兵制度と市民
 徴兵と兵役
 徴兵検査
 事変前の郡山
 第2節 事変後の銃後活動
 1. 戦線の拡大と日本の進路
 満州国の成立
 政党政治の終り
 国際連盟の脱退
 出征と銃後体制
 出征兵
 在郷軍人会と後援会
 軍事講演会
 軍事演習
 慰問・駅頭歓送迎
 第3節 社会衛生と社会事業
 1. 社会衛生の発達
 塵芥処理の問題
 伝染病と保健
 トラホームの検診
 2. 昭和期の医療機関
 医療機関の充実
 医療の普及運動
 精神病院の開設

3. 社会事業
 共済委員制度
 共済委員の活動
 社会事業

第7章 昭和期の交通・通信
 第1節 水郡線の開通
 1. 大郡線敷設運動の展開
 大郡線の敷設計画
 水郡鉄道期成同盟会
 鉄道建設促進の全国運動
 北工事の促進請願
 2. 大郡線敷設工事の完成
 北部工事はじまる
 開通祝賀会
 第2節 交通・運輸機関の発達
 自動車交通の発達
 貨物輸送業の推移
 自動車営業の不況
 人力車と自動車
 木炭自動車の出現
 第3節 通信の発達
 電話の普及
 電報の利用
 郵便の推移

第5編 第二次世界大戦下の郡山

 第1章 戦時下の市政
 第1節 三十一市町村の人口
 戦時中の人口
 女百に男八五
 職業別戸数と人口
 第2節 大政翼賛体制下の市政
 後任市長問題
 統制と地方自治
 戦時下の市行政組織
 兵事と防空
 市の財政
 第3節 村の町制施行
 富久山町の発足
 大機町の誕生
 熱海町の発足
 永盛町の誕生

第4節 国家総動員体制と町内会

- 国民精神総動員運動
- 麓山公園の拡張
- 大政翼賛体制の確立
- 市常会と町内会

第5節 戦争と軍都郡山

- 陸軍部隊の設置
- 海軍航空隊の設置
- 徴兵と戦死者

第2章 統制経済下の産業

第1節 戦時下の農業

- 戦争と農業
- 農業労働者の流出
- 労働力の不足
- 耕地面積の減少
- 農作物の減収
- 肥料の統制
- 食糧不足による影響
- 公害問題の発生

第2節 戦時下の工業

- 工業人口の増加
- 郡山市の工業
- 工場創設の実態
- 軍需工業化への道
- 軍需工場の疎開

第3節 統制経済下の商業と金融

- 商業組合の結成
- 商業戸数の減少
- 公債の発行
- 地元銀行の消長
- 銀行の活動

第3章 戦時下の教育文化

第1節 教育ファッション化の道

- 戦時下の教育
- 国民学校の教育
- 決戦下の教育法令
- 戦時下の中学校
- 戦時下の女学校

第2節 社会教育と戦力増強

- 大日本武徳会の活動
- 青年学校と軍事教練
- 私設勤労塾

市立図書館の設置

第3節 戦時体制下の文化

- 戦争下の文学
- 戦時下の郡山の文化
- 第二次群峰吟社の活動
- 郡山翼賛文化協会の結成
- 郡山映画選賞会の活動

第4章 戦時下の市民生活

第1節 衣食住と耐乏生活

- 日中戦争の勃発
- 戦時下の生活
- 市民生活の変貌

第2節 防空対策と疎開

- 防空演習
- 郡山市の防空対策
- 井戸水の調査
- 強制疎開
- 学童の集団疎開

第3節 勤労働員

- 集団勤労作業
- 勤労報国隊
- 女子挺身隊
- 学徒勤労働員

第4節 空襲と被害

- 空襲の被害
- 第一回の空襲
- 被害情況
- 日東富久山工場の被害
- 第二・三回の空襲
- 金屋地区の被害
- 百合子の作品から

第6巻 現代

第1編 復興をめざす郡山(二十～二十八年)

第1章 復興への道

第1節 戦争の傷あと

1. 敗戦と空襲の被害

敗戦の日

空襲の被害

郡山市の被害

2. 戦争の総決算

戦死者の数

引揚者と復員軍人

ソ連抑留者の生活

3. 進駐軍と郡山市民

アメリカ軍の進駐

米兵と市民

文化の交流

武器の強制提出

軍政府と市行政

市民の批判

4. 人間天皇の行幸

天皇の東北ご巡幸

天皇奉迎と市民の回願

第2節 戦後の人口増減の要因と職業別人口の変化

戦後の人口の特徴

地域別人口の変化

職業別人口の変化

第3節 終戦直後の市民生活

1. 市民の食生活

食生活の実態

新円と市民の生活

都市と農村

闇商人の暗躍

復員と軍需物資

隠匿物資の摘発

生活保護者の増加

2. 住宅難と市民

郡山市の住宅事情

県営引揚者住宅

市営住宅の建設

駅前通りの復興計画

第4節 戦災復興事業

戦災復興と都市計画

戦災復興都市の指定

指定の理由

駅前の区画整理

都市計画構想

駅前通り区画整理

駅前広場の拡張

区画整理事業の決算

区画整理の完成

駅前復興事業の問題点

執行機関と推進団体

反対同盟のうごき

事業完成記念像

第2章 民主政治の進展

第1節 民主政治の発足とその推移

民主政治と総選挙

社会情勢と政党

第一回の総選挙

その後の総選挙

第一回参議院選挙

市長・市会議員の選挙

公選市長の誕生

市長の再選挙

丹治市政の出現

戦後の市会議員選挙

戦後の市会

本間市政と公安委員選任問題

警察予備隊の誘致問題

3. 県会議員選挙と郡山地方

戦後最初の県議選

第二回の県議選

第2節 地方自治と税財政

戦後の地方自治

憲法と地方自治

実情からの改正

講和条約と改正

2. 地方自治体の財政

終戦後の税財政

シャープ勧告と税制改正

国の負担金制度の改革

第3章 工業と商業の復興

第1節 終戦直後の工場と生産再開

1. 工場の破壊と復興

軍需産業から平和産業へ
戦後の県下の工業事情

2. 賠償工場と生産再開
賠償工場の指定
各工場の生産再開
生産増強指定工場
見返物資の生産
肥料の生産

第2節 工場の再開とその特徴

1. 工場再開の状態
戦後の郡山地方工業事情
二十年代の工業界

2. 各種工場の実態
繊維工業
化学工業

3. 製薬・木工・金属等の工場
製薬工場の設立
木工製造業
金属と鉄工業

4. 電力事情と各種工場
戦後の電力事情

第3節 統制経済と郡山の商業
終戦前後の商業
郡山市の商業戸数
配給の姿
登録制度の開始
闇商人と闇物資
マーケット街の出現

第4節 朝鮮動乱前後の商業
統制から自由販売
特需景気
商業の動向
業種別の進展
商業の規模
三店会
デパートの再開
商工行政の進展

第4章 農地改革と郡山地方

第1節 農地改革と土地所有の変化
農地改革の意義
郡山市内の地主と小作人
農地改革の事例
郡山地方の小作地

第2節 農地の買売と改革後の対策
農地買収と売渡の実際
農地改革後の小作人の自作地

第5章 活発化した労働運動

第1節 占領下の労働運動
郡山工機部の争議
争議の影響
郡専の争議
在日朝鮮人の動向
郡山地区の組織状況
郡山地区協議機関
復活メーデー
国鉄の人員整理闘争
東北配電の闘争

第2節 労働運動の後退
ニース準備と中止
中止直後の組織の整備
賃金ベースと三月闘争
政令二〇一号と全官公
経済九原則と人員整理
民主化運動の伸長
郡山事件

第3節 朝鮮戦争と労働運動
レッド・パージ
総評と地方労
労闘スト
不況と自由労組
闘争と分裂
労働会館の建設

第6章 教育の民主化と市民文化

第1節 転換期の教育

1. 敗戦直後の教育
戦時下教育の終止
転換期の郡山の教育
教師の歩んだ道
御真影の焼却

2. 転換過程期の教育・文化
学校教育の前進
前進する社会教育
スポーツと芸能の流行

第2節 新教育と民主化のうごき

1. 六・三制と新しい教育

- 新制中学校の設置
- 新しい教育と金透小
- カリキュラムの研究
- 五日制とその批判
- 五日制対策と子供会
- 学校図書館の活動
- 2. 社会教育と大学の誘致
 - 社会教育研究大会
 - 新憲法普及と市民大学
 - 大学の誘致
- 第3節 教育行政と施設の消長
 - 1. 学校教育の進展
 - 中学校の建築
 - 2. 学校給食の推移
 - 学校給食の変遷
 - 軌道にのる学校給食
 - 3. 高校・大学の設置
 - 郡山工業学校の復活
 - 日本大学の開校
 - 郡山開成学園の創設
 - 市立各種学校の発足
- 第4節 社会教育の充実
 - 1. 市図書館の活動
 - 市図書館の移転
 - 2. 公民館の発足と活動
 - 民主化運動と公民館
 - 公民館と文化活動
 - 青年学級のはじめ
 - 3. 視聴覚教育とPTA
 - 視聴覚ライブラリー
 - 地域ライブラリーの発展
 - PTAの発足
- 第5節 スポーツの振興と体育施設
 - 1. スポーツの振興
 - 野球の普及
 - 国体の開催
 - 2. 体育施設の充実
 - 国体と開成山競技場
 - 市営野球場の建設
- 第7章 戦後の市民文化
 - 第1節 市民文化の再興
 - 1. 文化協会の再建
 - 郡山文化協会の発足

- 郡山文化協会の設立
- 2. 郡山文化団体連盟と文化祭
 - 文化連盟の活やく
 - 郡山文化祭の開催
 - 公民館と市民文化祭
- 第2節 青年団体の活動
 - 青年団をめぐる動き
 - 青年と市政
 - 暴力市議追放と市民活動
 - 安積連青の発足
- 第3節 地域婦人会の活動
 - 1. 郡山・安積地方の婦人会
 - 婦人団体の結成
 - 婦人有権者同盟の結成
 - 安積郡婦連の結成
 - 婦人団体連絡協議会
 - 2. 婦人会館の建設
 - 婦人会館建設の経過
 - 郡山婦人会館の建設
- 第4節 音楽運動の推移
 - 戦後の音楽活動
 - 音楽クラブの設立
 - 音楽協会の設立
 - 合唱団の活躍
 - NHK 交響楽団の公演

第2編 高度成長下の郡山(二十九～三十五年)

- 第1章 経済成長下の市勢の進展
 - 第1節 町村の合併と人口の増加
 - 郡山市の人口
 - 地域別人口の推移
 - 職業別人口の変化
 - 第2節 郡山市の財政
 - 1. 財政窮乏とその対策
 - 地方財政の窮乏化
 - 赤字の解消
 - 財政再建団体
 - 税徴収の改善
 - 税制改正と減税
 - 財政の調整
 - 昼間人口と特別交付税
 - 市債と事業
 - 財政の好転と事業の開始

住宅事情と建設
 南部土地区画整理
 上水道の拡張
 下水道の敷設
 開成山公園の築造
 市民会館の建設
 消防署の新築

第3節 第一次町村合併と郡山市

1. 町村合併促進法の制定と県内のうごき
 町村合併促進法の制定
 福島県の合併試案
 合併の結果
 郡山市の第二次合併計画

2. 安積郡各村の合併
 大槻町と郡山市の合併
 富田村と郡山市の合併
 喜久田村の合併問題
 富久山町と小泉村の合併
 永盛町と豊田村の合併
 湖南村の誕生
 逢瀬村と片平村
 三穂田村の誕生
 熱海町と丸守村
 田村郡内の合併
 岩江村と郡山市の合併
 田村町の誕生
 西田村の誕生
 宮城村と御館村の合併

第4節 市長選挙と市政界

1. 市長選挙のうごき
 第二期丹治市政の誕生
 革新市長の出現
 市政界のうごき
 第一期丹治市政と議会
 第二期丹治市政と市会
 映写機購入と市会
 第一期秀瀬市政
 地方労と市議会
 市会議長の交代問題
 市会の改選

3. 総選挙と県議選
 総選挙と郡山
 県議選と郡山・安積

第2章 生活環境の整備と福祉事業

第1節 市民の健康と保健衛生

1. 市民の健康
 出産と死亡
 死亡の原因

2. 伝染病の発生と対策
 伝染病の発生
 赤痢の多発
 伝染病院の再建
 結核予防
 性病患者の増加
 特殊飲食店と娼婦

3. 医療機関の復興
 戦後の医療体制
 郡山花柳病院
 看護婦養成所の設置

第2節 環境衛生の充実

1. 公衆衛生機関の設置
 郡山保健所の設置
 成人病予防対策
 環境衛生教育

2. 環境衛生の業務
 塵芥の処理
 焼却場の建設
 し尿の処理
 し尿消化槽の建設
 公衆衛生の発展

第3節 福祉行政と国保事業

1. 福祉行政の拡大
 戦後の福祉行政
 保護世帯の推移
 引揚者住宅の設置
 生活安定への対策
 養老園の設置

2. 国民健康保険と医療体制の危機
 国民皆保険への動き
 国保の実施

3. 医療機関のストライキ
 診療拒否の原因
 福島県医師会の動き
 郡山医師会の動き

第3章 高度成長下の工業と商業

第1節 発展途上の郡山の工業
 郡山の工業概観
 産業構造の変化と生産額

- 工業の発展と個人所得
- 工場誘致と条例の改正
- 郡山市の工業開発計画
- 工都への胎動と計画
- 第2節 郡山市産業の実態と発展の様相
 - 郡山市産業の実態
 - 産業分布とその実態
- 2. 紡績業の発展と製糸業の破綻
 - 日東紡績の発展
 - 片倉と松葉両製糸の破綻
- 3. 化学工業の発展と市周辺の産業
 - 化学工業の発展と製品
 - 麻紡機と印刷機の製作
 - 電力需要の増加
 - ガス会社と紙器工場
 - 木製加工品の生産
- 第3節 産業の発展と商業の特徴
 - 産業別人口の推移
 - 商業構造の特性
- 第4節 商店街の復興と経済圏
 - 商店の組織化
 - 商店街連合会の結成
 - さくら通り商店街診断
 - 経済圏の拡大
 - 郡山の恒例行事
 - 生活共同組合の誕生
 - 商工会議所の復活
- 第4章 戦後農業の変化と農業生産の発展
- 第1節 農家人口と農業経営の変化
 - 農家専兼業別と自小作別の変化
 - 二十年代の農業構造
 - 地区別の農家構造
 - 農業耕地と経営および農家階層
 - 耕地の推移
 - 田畑の農耕状態
 - 農民層の階級
- 3. 森林とその分布
 - 森林の面積
- 第2節 土地改良と施肥・農機具の変化
 - 土地改良事業の進展
 - 農地の改良事業
- 2. 肥料の購入と自給肥料
 - 自給肥料の推移
 - 肥料の購入と消費

- 施肥の改良
- 3. 農機具使用の変化
 - 農機具の普及
 - 畜力利用の歩み
 - 畜力から機械力へ
 - 農業労働貸金と農家経済
- 第3節 農業技術の発展
 - 苗代育苗技術の進展
 - 水稻品種の変遷
 - 災害防止技術の確立
- 第4節 農業と養蚕・畜産・煙草の生産
 - 農産物の生産と販売
 - 養蚕業の再開と特約
 - 産馬と飼料
 - 葉たばこの耕作と収納
 - 農村の副業
- 第5節 農業協同組合と共済組合
 - 農会から農協
 - 農業共済組合
- 第5章 戦後の交通・運輸・通信機関
- 第1節 鉄道交通の近代化
 - 1. 進駐と混乱の時代
 - 駅司令部(RTO)の設置
 - 乗車券の制限
 - 鉄道公安室の設置
 - 2. 駅舎の復興と整備
 - 駅舎の被害と復興
 - 民衆駅と東口の設置運動
 - 駅前広場と女神像
 - 3. 電化運動の展開
 - 郡山-白石間の電化
 - 四県連合会の結成
 - 電化利用債と紛争
 - 電化と複線化工事
 - 4. 輸送力の増強
 - ビジネス準急の運行
 - 郡山駅の乗降客
 - 郡山駅の貨物取扱量
- 第2節 放送・通信の発達
 - 民放の開局とテレビの放映
 - 公衆電話の普及
- 第3節 道路交通の発達
 - 1. 道路交通網の整備

国道四号線の開通
 新平線の改修
 東橋陸橋の掛替え工事
 市道路の自主舗装

2. 交通機関の発達
 バス路線の拡充
 ハイヤーと白ナンバーの競合
 長距離陸送時代の開幕
 マイカー時代
 交通量の増大と交通事故

第6章 教育文化の進展
 第1節 教育委員会の発足
 教育委員会制度のはじめ
 公選から任命制へ
 学力向上策とテスト
 高校進学と学力向上
 教育の理想と現実

第2節 教育財政と小・中学校の建築
 学校建築と学区の変更
 過密緩和と小学校建築
 ドーナツ型人口現象
 学校建築費と教材費

第3節 社会教育施設の充実
 麓山地区の文化センター化
 公民館の活動
 婦人学級と商店の主婦
 調査学級の開校
 市民学校の開設
 図書館の新築
 移動図書館「あさかの号」の活躍
 クローバー子供図書館
 児童文化会館の建設

第4節 教育の成果
 金透小学校の音楽教育
 保健・放送・整備の教育効果

第5節 公民館・文連を中心とした文化活動
 文連の再建
 文化祭の行事
 四十年以後の文化祭
 文化協会の事業

第6節 青年文化活動と音楽運動
 1. 郡山青年文化教会の誕生
 青文協の発足

多彩な文化活動

2. 労音活動と音楽会
 郡山労音の発足
 労音姿勢の確立
 東北のウィーン
 明るい社会賞を受賞

3. 合唱団と音楽活動
 合唱団のうごき
 県婦人合唱祭と合唱団
 創作者と演奏家
 器楽活動のうごき

第7節 労働文化と各種団体の動き
 民主主義研究会
 第一回労働文化祭
 新安保と各種団体
 第一回母親大会

第3編 広域行政下の郡山(三十五～四十五年)

第1章 郡山市勢の進展
 第1節 郡山市の人口動態
 町村合併と人口の増加
 地域別・戸数・人口の変化
 職業別人口の分布と変化

第2節 地域開発と新産都市
 1. 所得倍増計画の展開と地方都市
 経済開発と国民所得
 新産業都市の構想
 2. 地域開発政策と福島県
 新産業都市へ立候補
 地域振興計画の作成

第3節 広域行政への胎動
 1. 開発計画と周辺町村のうごき
 総合開発実態調査
 周辺町村のうごき
 第二次町村合併
 基幹都市構想
 合併への動き
 3. 地域開発計画の策定
 基幹都市建設計

第4節 新市誕生と市政界のうごき
 新産都市と市長選
 市会の動向

第2章 産業構造の変化と労働事情

第1節 新産都市下の商工業

- 四十年代の工業
- 四十年代の商業
- 金融機関の現状

第2節 労働事情

- 農村人口の流出
- 出稼者の実態
- 定年退職と再就職
- 完全失業者の推移
- 就職の状況
- 中学卒業生の就職
- 高校卒の就職
- 新卒者の定着率
- 中小企業の求人対策
- 再就職と職業訓練
- 就職者の技能訓練

第3節 経済成長下の労働運動

- 安保闘争
- 労働戦線の分裂
- 地方労と地区同盟
- 新産都市と労組
- 新産都市指定と労組
- 経営不振と労組
- ジャパナイトの閉鎖
- 県南・福交の争議
- 大東相互の裁判闘争

第3章 新産業都市下の農業と生産調整

第1節 農業構造の変化と農産物

- 1. 新産都市下の農業構造
 - 四十年代の農業構造
 - 農業従事者の推移
- 2. 農業粗生産額からみた生産の推移
 - 農業生産の推移

第2節 農業経済と技術の発展

- 1. 農産物と生産量
 - 水稻の生産額
 - 水稻品種の動向
 - 都市近郊園芸の発達
 - 畑作の事例
 - 野菜の契約栽培
 - 麦・雑穀の生産
- 2. 特用作物の栽培

- たばこの栽培
- その他の特用作物
- 果樹栽培の推移
- 養蚕の振興
- 飼育技術の進歩

3. 畜産業の発展

- 畜産の振興
- 畜産農家の経営
- 養鶏の集団化

第3節 農業技術の発達と集団栽培

1. 動力機械の導入

- 育苗技術の改善
- 労働節約技術の動向
- 災害防止技術の発展

2. 集団栽培の推進

- 稲作研究会の発足
- 集団栽培の事例
- 水稻作改善に努力した人々
- 複合栽培の集団化

第4節 米の生産調整

- 生産の発生
- 農民の動向
- 生産調整の実施方法と結果
- 集団転作の事例

第5節 郡山地方の海外移住者

- 海外移住の意義
- 郡山地方からの移民
- 南米の郡山人

第4章 生活環境と公害・災害

第1節 生活環境の整備

- 住宅事情
- 街路網の現況
- 公園緑地の計画
- 公園の整備
- 東山霊園
- 土地区画整理
- 下水道の本格化
- 負担金と使用料
- 終末処理場の建設
- 上水道の拡張
- 水道料の値上

第2節 公害と市民生活

- 公害の実例

初期の公害
 企業公害の実例
 鉄道病院の煙害
 三十五年以降の公害
 公害と工場誘致
 住宅街と工場進出
 住民組織と公害
 騒音公害

2. 公害対策の推移
 国や県の対策
 市の体制と対策
 保土谷化学の防止対策
 日本化学の防止対策
 日本電工の防止対策
 パラマウントの防止対策
 瓦工場の防止対策
 森永工場の対策

第3節 郡山地方の災害
 1. 明治から昭和二十年までの災害
 災害発生の件数
 災害の事例
 2. 昭和二十年以降の災害
 二十年以降の災害
 火災の事例
 風水雪の災害
 異常天候による被害
 病害虫の発生

第5章 交通・通信機関の発達
 第1節 鉄道の発展
 郡山駅の乗降客
 東北本線の復線化
 整越西線の復線化
 郡山操車場の建設

第2節 モータリゼーションの進展
 自動車保有台数の推移
 交通事故と対策
 市民交通災害共済制度
 悪質化する交通事故
 自動車輸送の伸長
 乗合自動車の推移
 合併後の混乱と市営バス
 福島観光の新設と東北急行バス
 陸運業者の激増

第3節 通信の普及
 電話の普及
 電話局の拡充
 地域集合電話の架設
 有線放送の架設

第6章 四十年代の教育と文化
 第1節 教育行政とその成果
 1. 教育行政の一元化と長期教育計画
 長期教育計画の作成
 研究機関の設置
 建築費と教育費
 事務局機構と学校
 2. 社会教育施設の充実と文化活動
 社会構造の変化
 公民館と成人教育
 文化功労賞と受賞者
 3. 特殊教育の整備
 特殊学校の開校
 特殊学級の現状
 4. 学校給食の充実
 学校給食の推移
 芳山小の給食の効果
 都市と農村

第2節 幼児教育と私学の振興
 1. 幼児教育の充実
 幼児教育の推移
 2. 高等学校の現状と私立学校
 高等教育の現状
 日本女子工業高等学校
 安積商業高等学校
 日大付属東北工業高等学校
 郡山女子大学付属高等学校
 福島県朝鮮初中級学校
 東北歯科大学

第3節 体育施設の充実とその利用
 発展するスポーツ界
 聖火歓迎郡山大会
 スポーツの普及
 体育施設の利用
 社会体育功労賞
 荣誉に輝く人々

第4節 詩・短歌・俳句
 詩人と詩誌

短歌と歌集
俳句と句集

第5節 演劇・美術・書道・出版
演劇活動
美術団体と美展
書道団体
郷土の出版物
二十万人コーラス運動

第6節 謡曲・日本舞踊・箏曲・華道・茶道
謡曲団体
日本舞踊のうごき
箏曲団体
華道団体
茶道団体

第7章 治安と市民生活白書
第1節 戦後の警察制度
1. 警察制度の変遷
終戦直後の警察
地方警察と自治体警察
自治体警察の発足
自治体警察の廃止
公安委員の設置
青少年の非行化と対策
暴力予備軍
2. 暴力団と郡山
暴力団抗争事件
暴力団の動向
郡山市の土地柄
暴力団の組織数

第2節 火災と消防
郡山地方の火災
火災の推移
消防組織の拡充
消防機械器具の拡充
消火栓と防火水槽
火災の予防

第3節 市民生活白書
1. 市民所得の推移と生活水準の上昇
市民所得の推移
市民所得の増加
消費支出の動向
耐久消費材の所有
家庭電気機器の所有状況

2. 余暇と余暇活動
余暇の意義
余暇活動の種類
市民の余暇活動

第8章 将来の展望
第1節 総合計画基本構想
第2節 「新全総」のなかの郡山

第7巻 民俗

第1編 郡山の民俗

第1章 衣と食と住

第1節 住居

1. 住居の地域性

屋敷と地域差

屋敷構え

母屋とその間取り

炉と炉端

家造り

隠居「屋

第2節 食生活

晴れの食

毎日の食事

やっこめ・餅・赤飯

神とともに

食習の禁忌

救荒食と貯蔵

第3節 衣服

晴れ着とふだん着と仕事着

かせぎ着物

かぶりもの・はきもの・手甲

織物の原料と染め物

夜具とその他の衣類

第2章 生業

第1節 農業

稲作予祝

1. 種ひたしから田植まで

たな池・たねまき

田起しと代こしらい

2. さつき(田植え)と農業行事

田植え

田草とりと農業行事

3. 収穫と脱穀

稲の刈り上げ

稲こきとするすひき

4. 畑作と養蚕

畑作業

養蚕

5. 馬の飼育

「馬」の方言

馬の飼料

第2節 林業

山仕事の意味

木材の運搬

炭焼き

炭焼釜のつくり方

炭の製造

第3節 漁業

1. 猪苗代湖の漁撈

漁業の発達

湖南岸の漁業

湖の漁法

2. 猪苗代湖の漁法の種類

地曳網

ひて針

さしあみ

投網

たてあみ

どう

その他の漁法

3. 阿武隈川とその他の漁業

阿武隈川の魚

第4節 諸職

1. 日和田の鋳物

鋳物業の歴史

鋳物の工程

鋳型と工具

2. 高柴のでこ人形

デコ屋敷と歴史

デコ(人形)作りの工程

3. 福良焼

福良焼きの起源

製造工程と技術

絵つけ

製品と販路

瓦焼き

第5節 交通交易・運搬具

峠の交通

市場

行商の変遷

運搬の用具

第3章 村の生活

第1節 村

1. 村の発達と構成

- 村の概念
- 屋敷と洞
- 本家と分家
- 昔の村役人
- 現在の村役人
- 村役人の職務
- 組・屋敷・五人組
- 講中・頼母子講・貯金組合
- 若者組・青年団
- 警防団・消防団
- 伝馬組・舟仲間
- 農協・森林組合

2. 村の財産

- 部落の財産
- 経費の精算
- 村の制裁

第2節 家族

1. 家族構成

- 横座の権威
- 嫁と姑
- 家族の私有物

2. 隠居と閑居

- 隠居とは
- 隠居家
- 隠居田
- 隠居の食物
- 隠居制の発達と限界

第3節 労働

1. 仕事の種類と分量

- 仕事と分量

2. ゆい

- ゆいの範囲
- 奉公人
- 村休み
- 仕事のはげみと苦勞

第4節 社交

1. 村つき合い

- つきあいの範囲
- あいさつの言葉

2. 贈与と返礼

- 贈与の品物
- 贈与の範囲

第4章 一生の儀礼

第1節 誕生

1. 出産と忌み

- 妊娠と岩田帯
- 出産の信仰
- お産の場所
- お産と忌

2. 産後の祝い

- ややみ(赤子見)とおぼだて
- せつちん参り
- 産着
- 忌明け
- 初生毛そり
- 宮まいりとその他の行事

3. 養育の祝

- くいそめ
- 初正月と節句
- 誕生祝

4. 取り子・間引き

- 取り子
- 民間療法
- 間引き

第2節 葬祭

1. 魂よばいから葬祭まで

- 魂よばいの風習
- 通夜
- 野辺送り

2. 年忌

- 四九日の法要
- 年忌法要

3. 禁忌

- 葬礼の禁忌

4. お盆

- 盆供要

第3節 年祝いと厄

1. 年祝い

- 三歳の祝
- 五歳の祝・七歳の祝
- 十三歳・十五歳の祝

2. 厄

- 厄年

3. 年祝い

第4節 婚姻

- 婚姻の形式

1. 昔の婚姻

- 結婚適令期
- 婚姻の成立
- 結納
- 2. 結婚式
 - 結婚式の準備
 - 嫁の道具と長持唄
 - 婚家での儀式
 - 結婚披露
- 3. 床入れとおひろめ
 - 床入れの式
 - ひぎなおし
- 4. 社会の承認その他
 - 婚姻と若者組
 - 嫁の挨拶回り
- 第5章 年中行事
 - 第1節 年中行事の意義
 - 1. 節日
 - 節日
 - 年中行事の変化
 - 年の境月の境
 - 2. 神事(かみごと)と農休日
 - 農家の休み日
 - 五・十(ごとう)の神事
 - 三日正月
 - 第2節 正月行事
 - 1. 大正月行事
 - 正月さま
 - 若水くみ・元日詣り
 - 年始まわり
 - 鳥取開墾の正月
 - 買い初め・売り出し
 - 七草粥
 - 七日堂詣り
 - 花立てまつり
 - まとい年・しめ送り
 - 年なおし
 - 2. 小正月行事
 - だんごさし
 - 長虫追い
 - 成木ぜめ
 - もぐら除け
 - 新穂の祝い
 - かっかどり

- さえのかみと火ぼい投げ
- 3. 仕事はじめ
 - 農のはじめ
 - はよぶち
- 4. 信仰
 - 二十三夜さま
 - 厄神よけ
- 第3節 春夏の行事
 - 1. 初午の行事
 - 初午とまゆだんご
 - 火伏せ
 - 2. 節分行事
 - 節分
 - 豆まきの俗信
 - 如宝寺の節分会
 - 3. 仏教行事
 - しゃかだんごと大般若
 - 4. 農耕行事
 - 種ひたしと種まき
 - 焼米まつり
 - 八十八夜
 - 馬鋤あらいとさなぶり
 - うまつくれい
 - 虫送りと土用
- 第4節 盆の行事
 - 1. 七夕行事
 - 七夕
 - 守山と赤津のねぶた流し
 - たなばたうま
 - 2. お盆の行事
 - 七日盆
 - 盆棚づくり
 - 新盆
 - 盆送り
- 第5節 秋冬の行事
 - 1. 月見行事
 - 名月
 - 2. 収穫の行事
 - 嵐よけ
 - 刈りあげまつり
 - のりまいり
 - 虫供養と大根の年取
 - 3. 信仰
 - 大師講

恵比須講
ふいご祭りと金屋祭り

4. 正月の準備
すすはき
納豆ねせ
松切りとしめ飾り
大晦日の行事

第6章 民間信仰
第1節 土地の神々と仏
1. 地域の信仰
神様と仏様
神社と信仰
2. 小祠と野の仏
山の神と田の神
火の神と水の神
安産子育て神
道祖神
縁切り神
三渡神と疫病神
はやまの神と蚕神
しんめいさま
屋敷神と家内にまつる神
その他の神々
地藏尊
馬頭観音と阿弥陀

第2節 祭と共同祈願
1. 神日と祭
年中行事と信仰
村の神まつり
年中行事と神様
2. 別火と講
火の信仰
山と神霊
信仰と講中
伊勢講
愛宕講
こじら(養蚕)講
念仏講
百万遍
十九夜講
大師講
ゑびす講
天神講と観音講

その他の講
供養碑と檀

第3節 俗信と禁忌
1. まじない
ねぶたながし
虫送り
火伏せ
盗難よけ
疫病よけと厄神送り
厄難よけと厄おとし
安産子育て
降雨のまじない
蛇よけともぐらよけ
耳ふさぎ
蚕が当たる
団子生らし
門口の魔よけ
2. 禁忌その他

第4節 わかの口寄せ
死者の霊魂
巫女
予言と霊界

第7章 民俗芸能
第1節 郡山市の民俗芸能概観
第2節 三匹獅子舞
1. 獅子舞の特色とその踊
獅子舞の分布
獅子舞の特色
2. 糠塚の獅子舞
獅子舞の由来
踊りと衣装
舞の名称
扮装と器具
管理と舞子の資格
糠塚獅子舞の分析
3. 音路の獅子舞
獅子舞の由来
舞の内容
獅子舞の管理と獅子
四花
4. 岩倉の獅子舞
獅子舞の伝承
管理と運営

頭と衣装	
舞の順序	
番外踊り	
舞場の飾り物	
第3節 太々神楽	
1. 神楽の分類と見方	
神楽の分類	
安積流と田村流	
2. 白幡神社の太々神楽	
神楽の種類	
上演者と由来	
神楽面と楽器	
安積近郷の太々神楽	
3. 柳橋の太々神楽	
柳橋神楽の由来	
神楽の運営	
中田町の太々神楽	
4. 鹿島大神宮の太々神楽	
神楽の由来と運営	
種目と囃子	
神楽面と楽器	
第4節 太神楽	
1. 太神楽と地神楽	
太神楽の分布	
地神楽の分布	
文献にみる地神楽	
2. 篠坂の神楽	
管理と運営	
舞の衣装	
3. 駒板の神楽と木目沢の神楽	
駒板の神楽	
木目沢の神楽	
第5節 悪魔はらい獅子	
1. 獅子に対する民間信仰	
悪魔はらい	
2. 大善寺の初午	
初午行事の運営	
行事と子ども組	
行事の伝承	
3. 丹伊田の長獅子	
管理と運営	
行事の内容	
西田町の長獅子頭	
類似行事の分布	
第6節 田植踊・予祝芸	
1. 豊年予祝としての田植踊	
福島県下の田植踊	
郡山地方の特色と分布	
2. 多田野の鋤柄舞	
舞(踊)の由来	
舞の内容	
舞の人数	
類似芸能の分布	
3. 深谷のヨーサ踊り	
踊の由来	
踊と口上	
踊り子の資格	
4. 館の早乙女踊り	
舞い込みと構成	
楽器と採り物	
踊の由来	
踊りの特色	
5. 高柴の七福神踊	
踊りの内容	
類似芸能の分布	
第7節 特殊な祭礼と行事	
1. 麓山まつり	
横沢の麓山まつり	
御祈祷と神事	
食事とおこもり	
裸まいり	
神輿渡御と神送り	
はやま信仰	
2. てんとう念仏	
てんとう念仏の記録	
てんとう念仏の様態	
てんとう念仏と土用	
栃本てんとう念仏	
念仏の仕方	
木目沢のてんとう念仏	
柳橋のてんとう念仏	
高倉のてんとう念仏	
3. 暴れ地蔵と臼ひき祭り	
十日夜と支の子餅	
笹川の暴れ地蔵	
祭の準備	
横塚の臼ひきまつり	
臼ひきの準備	

- 祭の用具
- 4. 子供の年中行事
 - 子供組と行事
 - 正直の夜ごもり
 - 子供組の夜ごもり
 - 徳定の抱き地藏
- 5. 除災と火伏せの行事
 - 山中の八天狗様
- 6. 御日待の行事
 - 上行合の御日待
 - 各地にみる御日待
- 第8章 言語生活
- 第1節 ことば
- 1. 地名に残された生活語彙
 - 耕地面積・仕事の量
 - 耕地の地名
 - 土地の特質を示す地名
 - 焼畑地名
 - 政治の中心地を示した地名
 - 塚・垣のつく地名
 - 内・作・屋敷・坊の地名
 - 里程標の地名
 - 神・仏に関する地名
 - 湖南町の才の神
 - 水の音の地名
- 2. 生活語彙
 - 着物の語彙
 - 食物の語彙
 - 住宅の語彙
 - 家族の語彙
 - 村の生活語彙
 - 冠婚葬祭の語彙
 - 昆虫・動物・鳥類の名称
 - その他の語彙
- 3. 靴言
- 第2節 なぞとことわざ
- 1. なぞ
 - なぞ
 - なぞかけの作法
 - 自然のなかから
 - 住まいから
 - 炉ばたから
 - 道具・用具など

- 心のあるなぞ
- 2. ことわざ
 - 部落言葉
- 第3節 民謡
- 1. 民謡とは
 - 民謡の特色
 - 郡山地方の民謡の特質
 - 民謡の区分け
 - 田植歌
 - 摺臼挽き歌
 - 麦搗き歌
 - どうづき歌
 - たたらふみ歌
 - さんさしぐれ
 - 長持歌
 - 餅つき歌
 - 大津絵節
 - 玄如節
 - 松坂
 - 高玉かえるこ節
 - ろく節
 - 伊予節
 - 盆踊り歌
 - 三春盆踊歌
 - 木目沢盆踊歌
 - 富田盆踊歌
 - 中山盆踊歌
 - 湖南盆踊歌
 - 安積甚句
- 第4節 わらべ唄
- 1. わらべ唄の発生:
 - 手まり唄
 - くどき調
 - どんどん調と物まね遊び
 - 明治以後の戦争唄
 - 借り歌と地名読み歌
 - お手玉唄
 - 子守唄
 - 動物唄
 - 遊び唄と手合せ唄
 - 一かけ二かけ唄と指遊び唄
 - かごめかごめ
 - 子とり遊び
 - しりとり唄

占いとり・おはじき
はねつき唄
なわとび唄
かぞえ唄
悪口唄

第9章 昔話と伝説

第1節 昔話

1. 分類とその一例
昔話とは
桃太郎の昔話

2. 婚姻を中心とした話
婚姻の昔話

3. 富の獲得の話

4. 笑話
笑い話

5. 怪物と災難・闘争

第2節 伝説

伝説と昔話の違い
伝説の中の人物
地名と伝説
石・岩・木に関するもの
河川・湖沼・橋・水の伝説
塚・信仰の伝説

第10章 童戯と玩具

第1節 童戯

1. 春の遊び
独楽まわし
まりつき
縄とび
風あげ
乗り馬
蹴り馬
殿さまごっこ
缶けり
大将中将
擬馬擬戦
とりまった
お手玉
バッチ打ちとはじき

2. 夏のあそび
粘土あそび
さんぼんこうじ

鬼ごっこ
絵あそび
ててっぽっぽとままごと
草引き

3. 秋の遊び
猫貰いと地獄極楽
ねんがら打ち

4. 冬の遊び
おせんと狐こんこん
指相撲
ごくじょう
風呂ごっことそのほかの遊び
雪上のあそび

第2節 玩具

1. 玩具の世界

2. 三春玩具
子育て木馬の縁起
三春羽子板・張子人形

3. 正月の縁起玩具
正月の玩具
団子人形
まさる

4. 熱海張り子と唐人凧

5. 熱海こけしとみのむしこけし
熱海こけし
みのむしこけし

6. まり・竹馬・竹とんぼ
まり
竹馬と竹とんぼ
馬の足

7. 自然玩具
片貝の小槌
川骨の頸飾り
唐みぎ人形
ほうずきとよめのこぶくろ
雀の笛
ふくべ
瓜提燈
蛍籠

第11章 民具

第1節 民具
失われゆく民具
着る・かぶる・はく

住む・食べる
農具・運搬具
養蚕具・紡織具
畜産具

第2編 民俗調査資料

郡山市民俗調査概要

1. 村の概観
2. 住居
 1. 住居
 2. かまど・いろり
3. 食習
 1. 毎日の食事
 2. 赤飯・餅・だんご
4. 衣服
 1. 仕事着
 2. 染織
5. 生業
 1. 生産暦
 2. 仕事と用具
6. 交易・運搬具
 1. 交易
 2. 運搬具
7. 社会生活
 1. 社会生活
 2. 組・講の用具
8. 一生の儀礼
 1. 一生の儀礼
 2. 別火・墓制
9. 年中行事
10. 民間信仰
 1. 民間信仰
 2. 祭・道祖神
11. 郡山市の民俗芸能・特殊行事
郡山市の民俗芸能・特殊行事所存地表
12. 言語習俗・民話・伝話・童戯
 1. 言語習俗
 2. 民話・伝説
 3. 童戯
13. 山車・舞台・人形芝居・神楽・踊り
14. 村の生活に遭されたもの
 1. コレクション

第8巻 資料(上)

考古(個別解説)

- 1 古亀田遺跡
- 2 二ノ谷遺跡
- 3 坦ノ腰遺跡
- 4 三森遺跡
- 5 山王館遺跡
- 6 熱海遺跡
- 7 切払遺跡
- 8 熱海遺跡
- 9 隠居面遺跡
- 10 一人子遺跡
- 11 枇杷沢遺跡
- 12 雇沢遺跡
- 13 御代田遺跡
- 14 柏山遺跡
- 15 福楽沢遺跡
- 16 徳定遺跡
- 17 中柵遺跡
- 18 正直祭祀遺跡
- 19 淵の上遺跡
- 20 麦塚古墳
- 21 御代田古墳
- 22 大善寺石切場古墳
- 23 正直古墳群
- 24 清水台廃寺跡
- 25 高林遺跡
- 26 出磐山遺跡
- 27 麓山瓦窯跡
- 28 原田阿良久瓦窯跡
- 29 七ツ池遺跡

古代記録

- 1 国造本紀(先代旧事本紀10)
- 2 崇神天皇10年9月9日(書紀)
- 3 崇神天皇11年4月28日(書紀)
- 4 崇神天皇(古事記)
- 5 景行天皇25年7月3日(書紀)
- 6 景行天皇27年2月12日(書紀)
- 7 景行天皇40年6月(書紀)
- 8 景行天皇40年7月16日(書紀)
- 9 景行天皇51年8月24日(書紀)
- 10 景行天皇56年8月(書紀)

- 11 応神天皇3年10月3日(書紀)
- 12 仁徳天皇55年(書紀)
- 13 雄略天皇23年8月7日(書紀)
- 14 敏達天皇10年閏2月(書紀)
- 15 崇峻天皇2年7月1日(書紀)
- 16 推古天皇35年2月(書紀)
- 17 舒明天皇9年(書紀)
- 18 大化元年(6月19日建元)8月5日(書紀)
- 19 齐明天皇元年7月11日(書紀)
- 20 齐明天皇5年3月17日(書紀)
- 21 齐明天皇5年7月3日(書紀)
- 22 齐明天皇6年3月(書紀)
- 23 天武天皇5年正月25日(書紀)
- 24 天武天皇11年3月2日(書紀)
- 25 大宝元年(3月21日建元)3月15日(続紀)
- 26 大宝2年4月15日(類史40)
- 27 和銅2年3日5日(続紀)
- 28 和銅3年4月20日(続紀)
- 29 和銅7年2月13日(続紀・紀略)
- 30 霊亀元年5月30日(続紀)
- 31 養老2年5月2日(続紀)
- 32 養老2年5月2日(略紀)
- 33 新付条(令義解)
- 34 養老3年閏7月21日(続紀)
- 35 養老4年9月28日(続紀)
- 36 養老5年10月14日(続紀)
- 37 養老6年4月16日(続紀)
- 38 養老6年閏4月25日(続紀)
- 39 神亀元年(養老8年2月4日改元)2月22日(続紀)
- 40 神亀元年2月25日(続紀)
- 41 神亀元年4月1日(続紀)
- 42 神亀2年間正月4日(続紀)
- 43 神亀5年4月11日(続紀)
- 44 天平18年12月15日(三代格18)
- 45 天平宝字2年6月11日(純紀)
- 46 天平宝字6年8月19日(続紀)
- 47 天平宝字7年4月13日(続紀)
- 48 天平神護2年11月7日(続紀)
- 49 神護景雲3年3月13日(続紀)
- 50 宝亀3年7月17日(続紀)
- 51 宝亀3年10月11日(続紀)
- 52 宝亀6年3月23日(続紀)
- 53 宝亀7年9月13日(続紀・紀略)
- 54 宝亀9年6月25日(続紀)

55 宝亀 11 年 3 月 22 日(続紀)
 56 宝亀 11 年 12 月 27 日(続紀)
 57 天応元年(宝亀 12 年正月 1 日改元)正月 1 日(続紀)
 58 延暦元年(天応 2 年 8 月 19 日改元)5 月 12 日(続紀)
 59 延暦 4 年 4 月 7 日(続紀)
 60 延暦 6 年正月 21 日(三代格 19)
 61 延暦 7 年 3 月 2 日(続紀)
 62 延暦 10 年 7 月 13 日(続紀)
 63 延暦 10 年 9 月 5 日(続紀)
 64 延暦 10 年 10 月 25 日(続紀)
 65 延暦 12 年 2 月 17 日(紀略)
 66 延暦 13 年 6 月 13 日(紀略)
 67 延暦 16 年正月 13 日(後記)
 68 延暦 16 年 11 月 5 日(紀略)
 69 延暦 19 年 11 月 6 日(類史 190)
 70 延暦 20 年 2 月 14 日(紀略)
 71 延暦 20 年 11 月 7 日(紀略)
 72 延置 23 年正月 19 日(後紀)
 73 延暦 23 年正月 28 日(後紀)
 74 延暦 24 年 11 月 13 日(後紀)
 75 弘仁元年(大同 5 年 9 月 19 日改元)5 月 11 日(三代格 6)
 76 弘仁 2 年 4 月 22 日(後紀)
 77 弘仁 2 年 5 月 23 日(後紀)
 78 弘仁 6 年 8 月 23 日(三代格 18)
 79 弘仁 11 年 4 月 21 日(弘仁式・主税)
 80 承和 6 年 3 月 4 日(続後紀)
 81 承和 9 年 9 月 5 日(続後紀)
 82 承和 10 年 4 月 19 日(続後紀)
 83 承和 10 年 11 月 16 日(続後紀)
 84 斉衡元年(仁寿 4 年 11 月 30 日改元)4 月 28 日(文実)
 85 貞観 11 年 5 月 26 日(三実)
 86 貞観 11 年 10 月 13 日(三実)
 87 貞観 12 年 12 月 9 日(三実)
 88 貞観 15 年 12 月 7 日(三実)
 89 元慶 5 年 11 月 9 日(類史 180)
 90 寛平 2 年閏 9 月 15 日
 91 寛平 9 年 7 月 22 日(紀略)
 92 寛平 9 年 9 月 7 日(紀略)
 93 延長 5 年 12 月 26 日(延喜式)
 94 延喜 6 年正月 20 日(延喜式卷 22)
 95 倭名鈔
 96 天禄 2 年 7 月 19 日(別聚符宣抄)
 97 貞元元年 1 月 2 日(紀略)

98 永観 3 年 4 月 24 日(小右記)
 99 長保 2 年 12 月 21 日(権記)
 100 寛弘元年 12 月 15 日(御堂関白記)
 101 寛弘 9 年 6 月 4 日(小右記)
 102 長和 3 年 2 月 7 日(小右記)
 103 長元 2 年 9 月 5 日(小右記)
 104 長元 4 年 2 月 23 日(小右記)
 105 長元 7 年 12 月 14 日(左経記)
 106 天喜 5 年 8 月 10 日(略記)
 107 康平 6 年 2 月 25 日(陸奥話記)
 108 康平 7 年 3 月 29 日(朝野群載第 11)
 109 承暦 4 年 10 月 19 日(水左記)
 110 天仁 2 年 12 月 25 日(殿暦)
 111 天永 2 年 10 月 28 日(殿暦)
 112 天永 3 年 10 月 16 日(殿暦)
 113 長承元年 5 月 20 日(長秋記)
 114 帳紙(飭抄上)
 115 保延 4 年 10 月 26 日(上遠野文書)
 116 嘉応 2 年 5 月 27 日(玉葉)
 117 文治 5 年 7 月 29 日(吾妻鏡)
 118 文治 5 年 8 月 9 日(吾妻鏡)
 119 文治 5 年 9 月 17 日(吾妻鏡)
 120 文治 5 年 9 月 23 日(吾妻鏡)
 121 建保元年 3 月 17 日(吾妻鏡)
 122 建保元年 5 月 9 日(吾妻鏡)

中世資料

1 吾妻鏡 文治 5 年 7,8 月条
 2 仙道 記抄
 3 吾妻鏡 建久元年 1 月 8 日条
 4 吾妻鏡 建保元年 2 月 16 日条
 5 吾妻鏡 承久 3 年 6 月 12 日条
 6 吾妻鏡 貞応 2 年 10 月 13 日条
 7 吾妻鏡 安貞元年 5 月 10 日条
 8 吾妻鏡 安貞元年 6 月 15 日条
 9 吾妻鏡 嘉禎 2 年 8 月 4 日条
 10 吾妻鏡 暦仁元年 2 月 17 日条
 11 吾妻鏡 宝治元年 6 月 6 日条
 12 吾妻鏡 建長 2 年 1 月 16 日条
 13 吾妻鏡 建長 4 年 6 月 17 日条
 14 吾妻鏡 建長 4 年 11 月 12 日条
 15 吾妻鏡 建長 5 年 1 月 1 日条
 16 吾妻鏡 正嘉元年 12 月 24 日条
 17 吾妻鏡 正嘉元年 12 月 20 日条

- | | |
|--------------------------|----------------------------------|
| 18 吾妻鏡 文応元年1月1日条 | 62 吉良貞家書下(飯野文書) |
| 19 『吾妻鏡』にみえる伊東一族 | 63 吉良貞家書下(国魂文書) |
| 20 吾妻鏡 弘長3年8月9日条 | 64 石河光隆着到状(秋田藩家蔵文書・赤坂文書) |
| 21 存覚上人一期記 正安3年条 | 65 細々要記 文和4年11月条 |
| 22 存覚上人一期記 延慶3年条 | 66 (参考)『埋峯記』 |
| 23 妙香院宮令旨 | 67 浄意讓状(大祥院文書) |
| 24 存覚上人一期記 正和元年条 | 68 会津旧事雑考 至徳元年条 |
| 25 浅香法智房等申状案(本願寺文書) | 69 喜連川判鑑 至徳3年6月条 |
| 26 妙香院門跡吹拳状案(本願寺文書) | 70 御代田宗秀一揆契約状(富塚文書) |
| 27 存覚上人一期記 元享2・3年条 | 71 字都宮氏広感状(飯野文書) |
| 28 沙弥某奉書案(三坂文書) | 72 字都宮氏広安堵状(遠藤白川文書) |
| 29 建武年間記 | 73 鎌倉大草紙 応永3年条 |
| 30 陸奥国宣案(結城文書) | 74 烟田重幹軍忠状(烟田文書) |
| 31 鎮守大將軍北畠頭家御教書(結城古文書写) | 75 波多野高経着到状案(円覚寺塔頭雲頂庵文書) |
| 32 鎮守大將軍北畠頭家御教書(結城古文書写) | 76 足利氏満軍勢催促状案(榊原家所蔵文書) |
| 33 石河兼光軍忠状(遠藤白川文書) | 77 鎌倉大草紙 応永4年正月24日条 |
| 34 法眼宣宗書状(結城古文書写) | 78 桜雲記 応永3年5月27日条 |
| 35 結城親朝注進状案(結城文書) | 79 奥州54郡考 田村郡項 |
| 36 石塔義元軍勢催促状(飯野文書) | 80 鎌倉大草紙 応永6年条 |
| 37 石塔義元軍勢催促状(相馬文書) | 81 今川記 |
| 38 石塔義元軍勢催促状(相馬文書) | 82 奥州余目氏旧記 |
| 39 国魂行泰着到状(国魂文書) | 83 足利治乱記上鎌倉管領徒三位氏満他界事 |
| 40 畠山国氏書下(結城文書) | 84 後鑑 応永5年11月4日条 |
| 41 吉良貞家感状案(結城古文書写) | 85 喜細川判鑑 |
| 42 国魂行泰軍忠状(国魂文書) | 86 東寺過去帳 |
| 43 石河兼光軍忠状(遠藤白川文書) | 87 細諸家系図集一之三古河公方系図 |
| 44 沙弥某・左衛門尉某連署施行状(相馬文書) | 88 細深谷上杉系図 |
| 45 伊東祐信一揆契状(富塚文書) | 89 相生集二 村邑類 笹川 |
| 46 吉良貞家奉書(白河証古文書) | 90 相生集七 古蹟類 笹川 |
| 47 吉良貞家軍勢催促状(相馬文書) | 91 喜連川判鑑 応永6年7月28日条 |
| 48 吉良貞家軍勢催促状(相馬文書) | 92 鎌倉管領9代記 応永6年7月条 |
| 49 吉良貞家吹拳状(相馬文書) | 93 沙弥某施行状(秋田藩家蔵文書赤坂文書) |
| 50 吉良貞家吹拳状(飯野文書) | 94 沙弥某施行状(秋田藩家蔵文書赤坂文書) |
| 51 伊賀盛光代光長軍忠(飯野文書) | 95 伊東祐允打渡状(秋田藩家蔵文書赤坂文書) |
| 52 国魂行泰代隆秀軍忠状(国魂文書) | 96 石河盛光打渡状(秋田藩家蔵文書赤坂文書) |
| 53 石河兼光軍忠状(白川文書) | 97 喜連川判鑑 応永7年9月8日条 |
| 54 足利尊氏感状(伊達文書) | 98 松藩搜古 |
| 55 吉良貞家吹拳状案(結城古文書) | 99 鎌倉管領九代記 応永7年9月8日条 |
| 56 古今著聞集卷20 | 100 小峯満政等20人連署一揆契状(結城古文書写白河証古文書) |
| 57 吉良貞家禁制案(富塚文書) | 101 田村一族等一揆傘連判(秋田藩家蔵白川文書) |
| 58 都のつと | 102 石河一族等一揆傘連判(秋田藩家蔵白川文書) |
| 59 足利尊氏(?)御判御教書案(白河証古文書) | 103 足利満直感状案(板橋文書) |
| 60 下野守某施行状(飯野文書) | 104 良賢讓状(大祥院文書) |
| 61 佐原宗連軍忠状(少荒居文書) | |

- 105 鎌倉大草紙 応永 23 年秋条
 106 今津塔寺八幡宮長帳 応永 23 年裏書
 107 浄祐譲状(大祥院文書)
 108 乗々院役僧奉書(大祥院文書)
 109 祐和銭借用状(大祥院文書)
 110 祐季銭借用状(大祥院文書)
 111 足利義持御内書案(本願寺本足利將軍奉書留)
 112 満濟准后日記 応永 31 年 1 月 24 日条
 113 足利義持御内書案(本願寺本足利將軍奉書留)
 114 鎌倉大草紙 応永 31 年 11 月条
 115 喜連川判鑑 応永 31 年 11 月条
 116 南方紀伝 応永 31 年 11 月 20 日条
 117 満濟准后日記 応永 32 年 3 月 3 日条
 118 満濟准后日記 応永 32 年 4 月 4 日条
 119 足利満直寄進状(鶴岡八幡宮文書)
 120 乗々院役僧奉書(大祥院文書)
 121 常陸国誌
 122 室町幕府奉行書(本願寺本足利將軍奉書留)
 123 満濟准后日記 正長元年 8 月 11 日条
 124 満濟准后日記 正長元年 10 月 2 日条
 125 満濟准后日記 正長元年 10 月 23 日条
 126 満濟准后日記 正長元年 10 月 25 日条
 127 足利満直書下(熱海白川文書)
 128 足利満直書状(板橋文書)
 129 満濟准后日記 正長 2 年 2 月 21 日条
 130 満濟准后日記 永享元年 4 月 26 日条
 131 室町幕府奉行奉書案(本願寺本足將軍奉書留)
 132 満濟准后日記 永享元年 5 月 30 日条
 133 足利義教御内書(結城古文書写)
 134 足利義教御内書(結城古文書写)
 135 満濟准后日記 永享元年 6 月 3 日条
 136 満濟准后日記 永享元年 7 月 17 日条
 137 満濟准后日記 永享元年 7 月 24 日条
 138 満濟准后日記 永享元年 7 月 26 日条
 139 満濟准后日記 永享元年 7 月 27 日条
 140 満濟准后日記 永享元年 7 月 28 日条
 141 満濟准后日記 永享元年 7 月 29 日条
 142 満濟准后日記 永享元年 8 月 1 日条
 143 満濟准后日記 永享元年 8 月 18 日条
 144 満濟准后日記 永享元年 9 月 2 日条
 145 満濟准后日記 永享元年 9 月 3 日条
 146 満濟准后日記 永享元年 9 月 8 日条
 147 満濟准后日記 永享元年 10 月 21 日条
 148 足利義教御内書(結城古文書写)
 149 足利満直書状(結城文書)
 150 足利満直書状(熱海白川文書)
 151 足利満直書状(熱海白川文書)
 152 足利満直書下(熱海白川文書)
 153 満濟准后日記 永享元年 11 月 8 日条
 154 満濟准后日記 永享元年 11 月 9 日条
 155 後鑑 永享 2 年 3 月 3 日条
 156 足利義教御内書(結城古文書)
 157 足利義教御内書 永享 2 年 6 月 3 日
 158 満濟准后日記 永享 2 年 6 月 29 日条
 159 満濟准后日記 永享 2 年 9 月 4 日条
 160 満濟准后日記 永享 2 年 9 月 6 日条
 161 祐玄熊野先代官職預請文(大祥院文書)
 162 満濟准后日記 永享 2 年閏 11 月 24 日条
 163 足利義政御内書(結城古文書)
 164 満濟准后日記 永享 3 年 2 月 29 日条
 165 後鑑 永享 3 年 3 月 5 日条
 166 満濟准后日記 永享 3 年 10 月 7 日条
 167 満濟准后日記 永享 4 年 3 月 29 日条
 168 後鑑 永享 5 年 10 月 13 日条
 169 後鑑 永享 6 年 10 月 28 日条
 170 室町幕府奉行人奉書案(本願寺本足利將軍御内書并奉書留)
 171 堂陸国誌
 172 室町幕府奉行人奉書案(本願寺本足利將軍御内書并奉書留)
 173 室町幕府奉行人奉書案(本願寺本足利將軍御内書并奉書留)
 174 室町幕府奉行人奉書案
 175 細川持之奉書(真壁文書)(本願寺本足利將軍御内書并奉書留)
 176 足利義教御内書案(小笠原文書)
 177 後鑑 永享 11 年 3 月 2 日条
 178 富田氏祐書下(相殿八幡神社文書)
 179 足利満直書状案(皆川文書)
 180 足利満直書状案(皆川文書)
 181 積達館基考
 182 会津旧事雜考 永享 12 年条
 183 会津旧事土苴考 永享 12 年条
 184 沙弥弾元書状(石川文書)
 185 畠山盛宗書状(石川文書)
 186 乗々院役者連署奉書(大祥院文書)
 187 田村直顕証状(大祥院文書)
 188 乗々院役者連署奉書(大祥院文書)
 189 僧都了賢紛失状(大祥院文書)

- 190 某書状(大祥院文書)
 191 某書状(大祥院文書)
 192 長頼・藤之連署状(大祥院文書)
 193 足利義政御内書(統群書類従本御内書案)
 194 足利義政御内書(統群書類従本御内書案)
 195 足利義政御内書(統群書類従本御内書案)
 196 足利義政御内書(統群書類従本御内書案)
 197 会津塔寺八幡宮長帳 文明2年裏書
 198 会津旧事雑考 文明2年条
 199 後鑑 文明3年12月3日条
 200 異本塔寺長帳 文明3年条
 201 会津旧事雑考 文明3年条
 202 伊達蘆名両家関係覚書(伊達文書)
 203 会津塔寺八幡宮長帳文明16年裏書
 204 聖護院役者増真書状(大祥院文書)
 205 廻国雑記
 206 田村盛頭売券(大祥院文書)
 207 法眼慶乗・法橋慶俊連署奉書(大祥院文書)
 208 会津塔寺八幡宮長帳 文亀元年裏書
 209 蘆名盛高知行判物案(伊東光春家文書)
 210 牧野宗興書状(白川古事考所収)
 211 会津旧事雑考 永正14年条
 212 聖栄売券(大祥院文書)
 213 舟引某売券 大永2年(大祥院文書)
 214 金上盛貞等十人連署証状・(松藩搜古所収)
 215 小祭覚清先達職売券(大祥院文書)
 216 会津塔寺八幡宮長帳 享禄5年裏書
 217 会津塔寺八幡宮長帳 天文3年裏書
 218 伊達蘆名両家関係覚書(伊達文書)
 219 会津四家合考 天文3年条
 220 田村義頭卜西証状(大祥院文書)
 221 蘆名盛氏契状(大祥院文書)
 222 上石盛重売券(大祥院文書)
 223 某代銭請取状案(大祥院文書)
 224 上石某売券案(大祥院文書)
 225 田村義頭卜西 同隆頭連署証文(伊達文書)
 226 田村義頭卜西 同隆頭連署証文(伊達文書)
 227 田村義頭卜西 同隆頭連署証文(伊達文書)(天文10年5月23日)
 228 田村義頭等三人連署起請文(大祥院文書)
 229 田村隆頭起請文(大祥院文書)
 230 歛集直山章拔『仙道田村莊史』所収
 231 伊達正統世次考 天文14年6月7日条
 232 田村隆頭知行充行状(大祥院文書)
 233 伊達正統世次考 天文15年5月2日条
 234 田村隆頭証文(郡山文書)
 235 伊達正統世次考 天文15年6月7日条
 236 伊達正統世次考 天文15年6月11日条
 237 伊達晴宗書状(伊達文書)
 238 会津旧事雑考 天文15年条
 239 伊達正統世次考 天文16年2月17日条
 240 聖護院道増修験中法度(大祥院文書)
 241 伊達晴宗書状(伊達文書)
 242 伊達植宗書状(大祥院文書)
 243 伊達正統世次考 天文17年正月18日条
 244 伊達晴宗書状(伊達文書)
 245 足利義輝御内書 天文17年8月8日(大祥院文書)
 246 田村隆頭知行充行状(橋本文書)
 247 会津塔寺八幡宮長帳 天文19年裏
 248 会津旧事雑考 天文19年条
 249 伊東高行証状(松藩搜古所収)
 250 伊東高行充行状(相殿八幡神社文書)
 251 伊達植宗書状(角田石川文書)
 252 蘆名盛氏証文(白河証古文書)
 253 蘆名盛氏証文(白河証古文書)
 254 田村隆頭証文(白河証古文書)
 255 聖護院役者連署奉書(大祥院文書)
 256 伊東高行知行安堵状(相殿八幡神社文書)
 257 足利義藤義耀御内書
 258 藤葉栄衰記中 田村与岩瀬渋川合戦事
 259 奉陽仙道表鑑卷二 今泉合戦
 260 会津塔寺八幡宮長帳
 261 異本塔寺長帳
 262 会津旧事雑考 永禄2年条
 263 仙道記
 264 仙道記
 265 田村郡大元帥明王大般若經奥書
 266 蘆名盛興知行判物案(伊藤光春文書)
 267 積達風土明細録
 268 歛集直山章拔
 269 蘆名盛氏止々齋起請文(伊達文書)
 270 熊野山新宮年貢帳(大祥院文書)
 271 平田尚範書状(西田町会田季長文書)
 272 田村清頭書状(添田文書)
 273 田村清頭書状(橋本文書)
 274 法印増堅熊野先達職安堵状(大祥院文書)
 275 会津旧事雑考 元亀2年条
 276 会津旧事雑考 元亀3年条

- 277 織田信長先達職安堵状 元龜3年8月6日(大祥院文書)
- 278 (参考)某覚書
- 279 会津旧事雑考 天正元年条
- 280 田村清頭書状(松藩搜古所収)
- 281 田村清頭書状(大祥院文書)
- 282 田村清頭書状(伊達文書)
- 283 伊達輝宗日記 天正2年2月16日条
- 284 仙道記
- 285 伊達輝宗日記 天正2年3月条
- 286 田村清頭書状(橋本正二文書)
- 287 伊達輝宗日記 天正2年3月条
- 288 伊達輝宗日記 天正2年3月27日条
- 289 伊達治家記録 天正2年3月27日条
- 290 会津塔寺八幡宮長帳 天正3年裏書
- 291 伊達輝宗日記 天正2年裏書5月15日条
- 292 宝鏡院宥舜免許状(久保田阿弥陀寺文書)
- 293 宗祐判物(松藩搜古所収)
- 294 田村清頭感状案(今泉文書)
- 295 伊達実元書状(松藩搜古所収)
- 296 伊達輝宗書状(会津四家合考所収)
- 297 蘆名氏方書状(富田文書)
- 298 蘆名盛氏止々齋書状(伊佐早謙所蔵文書)
- 299 伊達輝宗書状(千田文書)
- 300 奥羽永慶軍記巻1 会津田村矛盾に及ぶこと
- 301 奥羽永慶軍記巻1 会津田村矛盾に及ぶこと
- 302 仙道記
- 303 仙道記
- 304 蘆名盛氏書状(首藤石川文書)
- 305 二階堂盛義書状(首藤石川文書)
- 306 箭部義政須田盛秀連署状(首藤石川文書)
- 307 小田氏治書状(美濃願念寺文書)
- 308 常陸国誌
- 309 田村清頭書状(大祥院文書)
- 310 安積郡誌抄 小原田村の条
- 311 佐竹義重起請文(秋田藩家蔵文書船尾文書)
- 312 快弘・鎮乗連署奉書(大祥院文書)
- 313 快弘・鎮乗連署奉書(大祥院文書)
- 314 田村清頭証案文(富田古文雑集)
- 315 田村清頭証文案(富田古文雑集)
- 316 奥羽編年史料 天文7年9月条
- 317 仙道表鑑巻3 諸将田村と合戦
- 318 伊達輝宗書状(大祥院文書)
- 319 上杉景勝書状(上杉年譜)
- 320 異本塔寺長帳 天正8年条
- 321 会津旧事雑考 天正8年秋条
- 322 蘆名盛隆書状(佐竹文書)
- 323 小貫頼如書状『新編会津風土記』所収)
- 324 会津旧事雑考 天正9年条
- 325 上杉景勝覚書(上杉文書)
- 326 佐竹義久書状『新会津風土記』所収)
- 327 猪苗代盛国書状
- 328 蘆名盛隆書状(富田古文雑集)
- 329 蘆名盛隆書状(富田古文雑集)
- 330 上杉景勝書状写(歴代古案)
- 331 田村清頭名跡安堵状(大祥院文書)
- 332 佐竹義重書状『新編会津風土記』所収)
- 333 伊達輝宗書状(一関市大視文書)
- 334 蘆名盛隆書状(伊達文書)
- 335 田村清頭書状写(橋本文書)
- 336 佐竹義重受領免許状(今泉文書)
- 337 佐竹義重受領免許状(吉成文書)
- 338 佐竹義重判物(大祥院文書)
- 339 仙道記
- 340 伊達治家記録 天正10年4月18日条
- 341 田村清題書状(伊達文書)
- 342 奥陽仙道表鑑巻5 御代田城明け渡す事
- 343 薄次忠証文(相殿八幡神社文書)
- 344 仙道記
- 345 歎集直山章抜
- 346 直江兼続書状案(歴代古案)
- 347 伊達正宗書状(郡山文書)
- 348 伊達正宗書状
- 349 佐竹義重(?)知行充行状案(増子文書)
- 350 蘆名亀王丸書状(富田文書雑集)
- 351 政宗記 天正13年11月条
- 352 伊達治家記録 天正13年11月13日条
- 353 戸部一閑覚書
- 354 会津旧事雑考 天正13年条
- 355 仙道記
- 356 仙道記
- 357 中津川親宗書状(松藩搜古所収)
- 358 田村清題書状写(橋本文書)
- 359 田村清頭書状(橋本文書)
- 360 大繩義辰書状(富田古文雑集)
- 361 伊達正宗知行充行状(橋本文書)
- 362 熊野山新宮年貢帳(大祥院文書)
- 363 熊野氏善書状(大祥院文書)

- 364 伊東重信書状(松藩搜古所収)
 365 田母神氏旧記『仙道田村荘史』所収)
 366 伊達正宗書状(橋本文書)
 367 伊達正宗書状(伊達文書)
 368 伊達正宗書状(伊達文書)
 369 伊達正宗知行充行状(伊達文書)
 370 伊達治家記録 天正 15 年 10 月 19 日条
 371 伊達政宗覚書状(伊達文書)
 372 伊達政宗書状写(伊達政宗記録事蹟考記)
 373 伊達治家記録 天正 15 年 11 月 14 日条
 374 大平坊田地壳卷案(大祥院文書)
 375 伊達治家記録 天正 15 年此年条
 376 会津旧事雑考 天正 15 年条
 377 伊達政宗書状(大祥院文書)
 378 会津旧事雑考 天正 16 年 2 月 12 日条
 379 伊達政宗書状(伊達文書)
 380 伊達政宗書状(伊達文書)
 381 伊達政宗書状(登米伊達文書)
 382 猪苗代盛種知行判物(小池文書)
 383 伊達政宗判物(伊達政宗記録事蹟考記)
 384 大繩義興書状『新編会津風土記』所収)
 385 伊達治家記録 天正 16 年 3 月 24 日条
 386 伊達治家記録 天正 16 年 4 月 12 日条
 387 伊達政宗起請文写(伊達文書)
 388 政宗記 天正 16 年 4 月条
 389 伊達政宗書状(登米伊達文書)
 390 伊達政宗書状(伊達文書)
 391 会津旧事雑考 天正 16 年条
 392 平田氏範・針生盛信書状(瀬谷文書)
 393 伊達天正日記天正 16 年閏 5 月 11 日条
 394 伊達政宗書状(登米伊達文書)
 395 蘆名義広書状『新編会津風土記』所収)
 396 蘆名義広受領免許状『新編会津風土記』所収)
 397 伊達天正日記天正 16 年 6 月 12 日条
 398 伊達政宗書状(伊達文書)
 399 伊達治家記録 天正 16 年 6 月 23 日条
 400 伊達政宗書状(秋田藩所蔵文書横手石沢文書)
 401 伊達政宗証文(郡山文書)
 402 伊達政宗書状(猪苗代家所蔵文書)
 403 伊達治家記録 天正 16 年 7 月 1 日条
 404 伊達政宗書状(郡山文書)
 405 伊達政宗知行充行状(郡山文書)
 406 伊達政宗書状(伊達文書)
 407 伊達天正日記 天正 16 年 7 月 4 日条
 408 伊達治家記録 天正 16 年 7 月 4 日条
 409 政宗記 天正 16 年 7 月 4 日条
 410 伝郡山合戦矢文(富田古文雜集)
 411 志賀甘釣斎玄湖覚書状(伊達文書)
 412 石川昭光覚書状(伊達文書)
 413 蘆名義広書状『新編会津風土記』所収)
 414 伊達天正日記 天正 16 年 7 月 10-21 日条
 415 小宰相田村清頭後室消息(伊達文書)
 416 伊達政宗伝馬黒印状(鹿野文書)
 417 (参考)浅野長政長吉書状(松藩搜古所収)
 418 伊達治家記録 天正 16 年 7 月 21 日条
 419 政宗記 天正 16 年 7 月条
 420 仙道記
 421 仙道記
 422 伊達政宗書状写(香取神社旧大祓宜家文書)
 423 伊達政宗書状写(橋本文書)
 424 (参考)田村清頭・伊達政宗書状写副書
 425 猪苗代盛種書状(滝田文書)
 426 安積南郷北郷田地注文(相殿八幡神社文書)
 427 仙道記
 428 伊達政宗判物写(伊達政宗記録事蹟考記)
 429 伊達政宗書状案(伊達文書)
 430 伊達治家記録 天正 17 年 3 月 4 日条
 431 伊達政宗起請文写(伊達政宗記録事蹟考記)
 432 大繩義辰書状『新編会津風土記』所収)
 433 伊達政宗書状写(伊達政宗記録事蹟考記)
 434 伊達政宗書状写(伊達政宗記録事蹟考記)
 435 伊達政宗書状案(伊達文書)
 436 伊達政宗書状案(伊達文書)
 437 伊達政宗書状写(伊達政宗記録治蹟考記)
 438 伊達天正日記 天正 17 年 4 月 24~6 日条
 439 伊達家記録 天正 17 年 4 月 27 日条
 440 伊達天正日記 天正 17 年 4 月 27 日条
 441 伊達治家記録 天正 17 年 4 月 28 日条
 442 政宗記 天正 17 年 5 月 3~5 日条
 443 仙道記
 444 伊達政宗書状(登米伊達文書)
 445 伊達政宗書状(伊達文書)
 446 伊達政宗書状(伊達文書)
 447 大内定綱書状写(伊達政宗記録事蹟考記)
 448 伊達政宗書状(伊達文書)
 449 伊達政宗書状写(伊達政宗記録事蹟考記)
 450 伊達治家記録 天正 17 年 6 月 1 日条
 451 伊達政宗書状写(伊達政宗記録事蹟考記)

452 伊達政宗書状案(伊達文書)
 453 伊達天正日記 天正17年6月2~4日条
 454 伊達政宗書状(伊達文書)
 455 伊達天正日記 天正17年6月5日条
 456 伊達天正日記 天正17年6月6日条
 457 大祥院由緒書
 458 上遠野系図
 459 佐竹義久官途免許状(白河古事考所収文書)
 460 伊達日記
 461 伊達天正日記 天正17年6月23~4日条
 462 伊達天正日記 天正17年8月条
 463 伊達政宗書状写(橋本文書)
 464 伊達治家記録 天正18年8月9日条
 465 木村重高・大谷吉継条書(旧輯若松市史)
 466 豊臣秀吉朱印状(浅野文書)
 467 豊臣秀吉朱印状(浅野文書)
 468 猪苗代盛種証文(富田古文雑集)
 469 田村宗顕判物(大祥院文書)
 470 田村宗顕証状(安原文書)
 471 内膳等五人連署証状(松藩搜古所収)
 472 岡弥太郎松井雅楽尉連署状(富田古文雑集)
 473 文禄3年蒲生領高目録(安積・田村)
 474 蒲生氏奉行連署裁許状(富田古文雑集)
 475 蒲生氏奉行定書(富田古文雑集)
 476 蒲生氏奉行連署判状(富田古文雑集)
 477 青木佐左衛門 年貢割付状
 478 蒲生氏奉行連署寄進状(千手院文書)
 479 蒲生氏奉行連署寄進状(千手院文書)
 480 蒲生秀行燈明料寄進証文(『新編会津風土記』)
 481 積達古館弁卷之5
 482 安積家譜(伊達世臣家譜16の60)
 483 伊東家系譜(宮城県宮城町****)
 484 伊東家譜(伊達世臣家譜6の8)
 485 大河原家系図(米沢市****)
 486 大槻家浮沈録(三鷹市中原****)
 487 大槻家譜(伊達世臣系譜12の29)
 488 片平家譜(伊達世臣系譜4の15)
 489 片平家譜(伊達世臣系譜10の24)
 490 郡山家譜(伊達世臣系譜12の56)
 491 篠河家系図(抄)鹿兒島県種子島****)
 492 篠川系図(天性寺文書1)
 493 篠川家系図(天性寺文書2)
 494 篠川家系四(町田町****)
 495 下郡山系譜(伊達世臣系譜4の161族)

496 首藤家系図(石川郡玉川村****)
 497 高玉家譜(伊達世臣系譜17の61)
 498 田村家譜(伊達世臣系譜8の28)
 499 田村家譜(伊達世臣系譜17の105)
 500 田母神家譜(伊達世臣系譜12の107)
 501 新国家系図(郡山市小原田****)
 502 橋本家譜(伊達世臣系譜9の15)
 503 橋本家譜(伊達世臣系譜11の46)
 504 本宮家譜(伊達世臣系譜3の5)
 505 柳沼家系図(田村町大善寺****)
 506 伊達政宗書状(新国文書)
 507 蒲生氏奉行外池良重印判状(国分文書)
 508 蒲生某書状(新国文書)
 509 伊達政宗朱印状写(伊達政宗記録事蹟考記)

金石文

1 阿邪訶根神社供養塔銘(大町2丁目)
 2 如宝寺供養塔銘(堂前町52・如宝寺)
 3 如宝寺供養塔銘(堂前町52・如宝寺)
 4 富岡供養塔銘(三穂田町富岡字里)
 5 大谷地供養塔銘(安積町大谷地)
 6 如宝寺供養塔銘(堂前町52・如宝寺)
 7 関根供養塔銘(西田町三丁目字関根)
 8 成田供養塔銘(安積町成田・阿弥陀堂)
 9 宝光寺供養塔銘(安積町荒井・宝光寺)
 10 上舞木供養塔銘(上舞木字阿弥陀)
 11 諏訪内供養塔銘(富田町識訪内)
 12 法久寺供養塔銘(山崎・法久寺)
 13 阿弥陀堂供養塔銘(西田町三丁目)
 14 日吉神社供養塔銘(安積町日出山・日吉神社)
 15 天性寺供養塔銘(安積町・天性寺)
 16 磐銘(湖南町福良)
 17 禰宜内磨崖供養塔銘(湖南町福良字禰宜内)
 18 徳定供養塔銘(田村町徳定)
 19 阿弥陀寺供養塔銘(富久山町久保田・阿弥陀寺)
 20 日吉神社供養塔銘(安積町日出山・日吉神社)
 21 日吉神社供養塔銘(安積町日出山・日吉神社)
 22 阿弥陀寺供養塔婆(富久山町久保田・阿弥陀寺)
 23 三丁目供養塔銘(西田町三丁目日本武尊神社)
 24 久保田供養塔銘(富久山町久保田)
 25 阿弥陀寺供養塔銘(富久山町久保田阿弥陀寺)
 26 堂坂供養塔銘(富久山町堂坂・観音堂)
 27 阿弥陀寺供養塔銘(富久山町久保田・阿弥陀寺)
 28 蛇骨地藏堂供養塔銘(日和田町・蛇骨地藏堂)

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 29 福原供養塔銘(富久山町福原) | 73 下枝供養塔銘(中田町下枝字馬石) |
| 30 日枝神社供養塔銘(富久山町久保田・日枝神社) | 74 下枝供養塔銘(中田町下枝字馬石) |
| 31 石阿弥陀供養塔銘(三穂田町里) | 75 関根供養塔銘(西田町三町目字関根) |
| 32 白石田供養塔銘(富久山町福原字白石田) | 76 明堂山供養塔銘(三穂田町八幡字明堂山) |
| 33 岩作供養塔銘(田村町岩作円通院跡) | 77 馬石供養塔銘(中田町下枝字黒石) |
| 34 安積国造神社供養塔銘(清水台) | 78 寺内供養塔銘(田村町下道渡字寺内) |
| 35 太子堂供養塔銘(富田町音路・太子堂) | 79 寺内供養塔銘(田村町谷田川字寺内) |
| 36 静堂供養塔銘(大槻町針生・静御前堂) | 80 開運稲荷供養塔銘(田村町・開運稲荷神社) |
| 37 不動堂供養塔銘(片平町中村・不動堂) | 81 徳定供養塔銘(田村町徳定) |
| 38 虎丸供養塔銘(虎丸町) | 82 小堤供養塔銘(中田町高倉字小堤) |
| 39 太子堂供養塔銘(富田町音路・太子堂) | 83 関根供養塔銘(西田町三町目字関根) |
| 40 新宅供養塔銘(安積町笹川字新宅) | 84 明堂山供養塔銘(三穂田町八幡字明堂山) |
| 41 関根変形種子五輪塔銘(西田町三町目) | 85 戸ノ内供養塔銘(田村町小川字戸ノ内) |
| 42 甚日寺供養塔銘(田村町御代田・甚日寺) | 86 小川供養塔銘(田村町小川字岡市) |
| 43 山王供養塔銘(三穂田町字日向・山王社) | 87 胡桃沢供養塔銘(大機町胡桃沢・阿弥陀堂) |
| 44 関根供養塔銘(西田町三町目) | 88 笹川供養塔銘(安積町笹川字高石坊) |
| 45 篠坂供養塔銘(中田町篠坂観音堂入口) | 89 笹川供養塔銘(安積町笹川字高石坊) |
| 46 普応寺供養塔銘(須賀川市北町・普応寺) | 90 笹川供養塔銘(安積町笹川字高石坊) |
| 47 太子堂供養塔銘(富田町音路・太子堂) | 91 宝沢沼水神供養塔銘(富久山町・宝沢沼水神) |
| 48 篠坂供養塔銘(中田町駒板・稲荷神社) | 92 常静供養塔銘(大親町針生字静・静御前堂) |
| 49 赤沼供養塔銘(中田町赤沼字杉並) | 93 法久寺供養塔銘(山崎法久寺) |
| 50 山王供養塔銘(三穂田町川田・山王社) | 94 万蔵寺供養塔銘(田村町下道渡字寺内・万蔵寺) |
| 51 太子堂供養塔銘(富田町音路・太子堂) | 95 上道渡供養塔銘(田村町上道渡字坂の下) |
| 52 赤沼館供養塔銘(中田町赤沼) | 96 笹川供養塔銘(安積町笹川字高石坊) |
| 53 笹川供養塔銘(安積町笹川字篠川東館) | 97 静堂供養塔銘(大槻町針生字静・静御前堂) |
| 54 北小泉供養塔銘(富久山町北小泉) | 98 太子堂供養塔銘(富田町音路・太子堂) |
| 55 北井供養塔銘(安積町北井) | 99 笹川供養塔銘(安積町笹川字篠川) |
| 56 阿弥陀堂供養塔銘(田村町徳定) | 100 笹川供養塔銘(安積町笹川字篠川) |
| 57 谷地中供養塔銘(片平町谷地中) | 101 笹川供養塔銘(安積町笹川字篠川) |
| 58 日枝神社供養塔銘(富久山町・日枝神社) | 102 山中供養塔銘(田村町山中) |
| 59 笹川供養塔銘(安積町・川字高清水) | 103 小川供養塔銘(田村町小川字館) |
| 60 笹川供養塔銘(安積町笹川字篠川) | 104 石仏供養塔銘(田村町御代田字石仏) |
| 61 古陣場供養塔銘(湖南町福良字古陣場) | 105 亀河内供養塔銘(田村町上行合字亀河内) |
| 62 地蔵山供養塔銘(湖南町字寺前地蔵山) | 106 富岡供養塔銘(三穂田町富岡字館) |
| 63 護摩堂趾供養塔銘(田村町御代田・甚日寺) | 107 不動堂供養塔銘(片平町中村・不動堂) |
| 64 護摩堂趾供養塔銘(田村町御代田・甚日寺) | 108 阿弥陀堂供養塔銘(田村町徳定・阿弥陀堂) |
| 65 上の台供養塔銘(安積町・川字上の台) | 109 笹川供養塔銘(安積町笹川字高石坊) |
| 66 上の台供養塔銘(三穂田町八幡字上の台) | 110 広渡寺鐘銘(西田町鬼生田・広渡寺) |
| 67 上萱沼供養塔銘(日和田町上萱沼) | 111 笹川供養塔銘(安積町笹川字篠川) |
| 68 深谷供養塔銘(日和田町8丁目) | 112 笹川供養塔銘(安積町笹川字高石坊) |
| 69 開運稲荷神社供養塔銘(田村町・開運稲荷神社) | 113 清水内供養塔銘(大槻町清水内) |
| 70 弥陀内供養塔銘(湖南町福良字弥陀内) | 114 山中供養塔銘(田村町山中) |
| 71 護摩堂趾供養塔銘(田村町御代田・甚日寺) | 115 木村供養塔銘(西田町木村字行人坦) |
| 72 猫神供養塔銘(逢瀬町河内字西猫神) | 116 泰平寺鐘銘(田村町山中) |

- 117 静堂供養塔銘(大槻町針生字静・静御前堂)
 118 王宮経塚出土鏡銘(片平町)
 119 日枝神社供養塔銘(富久山町・日枝神社)
 120 福良供養塔銘(湖南町福良)
 121 大鐮矢神社鉄鉢銘(田村郡船引町大鐮矢神社)
 122 大蔵寺千手堂鰐口銘(宮城県船岡町妙立寺蔵)(元
 福島市渡利小倉寺・大蔵寺)
 123 見渡神社棟札銘(西田町鬼生田・見渡神社)
 124 福良供養塔銘(湖南町福良)
 125 鹿島神社鰐口銘(熱海町上伊豆島・鹿島神社)
 126 鹿島神社棟札銘(熱海町上伊豆島・鹿島神社)
 127 東光寺木造阿弥陀弥座像修理銘(湖南町中野・東光
 寺)
 128 田村神社漆絵馬銘(田村町山中・田村神社)
 129 千手院棟札(湖南町福良千手院)
 130 観音堂錫杖銘(湖南町浜路字稲宝・観音堂)

詩歌・物語・評論

(安積山・山の井)

- 1 安積香山影副所見(万葉)
 2 山の井の浅き心も(古今)
 3 影だにも見えず成行く(後撰)
 4 浅してふ浅ことをゆゑし(後撰)
 5 音にのみ聞きてはやまじ(後撰)
 6 山の井の岩もる水に(金葉)
 7 結ぶ手に影乱れゆく(新古今)
 8 衣手の山ゐの水に(古今)
 9 古の我とはしらじ(新勅撰)
 10 袖ぬるる山井の清水(新助撰)
 11 変りゆくむかしを思ひ(新勅撰)
 12 浅からむ事をだにこそ(続後撰)
 13 汲てとふ人微りせば(続古今)
 14 契あらば又もむすばむ(続古今)
 15 雲立つ道はふかきを(続古今)
 16 今は又あかず頼めし(続拾遺)
 17 山の井のあかぬ影みる(続拾遺)
 18 飽かてなほ結びやせまし(新後撰)
 19 くやしきぞ結びそめける(新後撰)
 20 影ばかり見しをかごとの(玉葉)
 21 山の井の浅き心を(玉葉)
 22 散りかかる花の影見し(続千載)
 23 山の井も増るみかさに(続千載)
 24 影をだにいかでか見まし(続千載)
 25 山の井の浅きながらも(続千載)
 26 あさか山朝みる雲の(続後拾遺)
 27 手に結ぶ程ちに飽かぬ(風雅)
 28 山の井の雫も影も(新千載)
 29 頼むへき方こそ無けれ(新千載)
 30 飽かざりし面影ばかり(新千載)
 31 飽かざりし契はさてや(新千載)
 32 しきしまの道の奥奈る(新千載)
 33 時待ちて送る時雨の(新拾遺)
 34 せきとむる山井の水(新拾遺)
 35 かき遣りし山井の清水(新後拾遺)
 36 啼きすてて影だにとめぬ(新続古今)
 37 見るからに人の心ぞ(新続古今)
 38 山の井の水の心は(新続古今)
 39 汲みそめて浅き契の(新葉)
 40 安積山影さへ見ゆる(大和物語・今昔物語)
 41 あさか山浅くも人を(源氏物語)
 42 汲みそめてくやしと聞きし(源氏物語)
 43 過がてに人は止れど(躬恒集)
 44 山の井は水がなきことも(興風集)
 45 山の井のやまざといへば(元良親王御集)
 46 雨降れば濁ぬ水も(清慎公集)
 47 山の井も水には深さ(清慎公集)
 48 音にきく心安積の(清慎公集)
 49 みちのくに有と云なる(清慎公集)
 50 悔くぞ汲初てける(古今和歌)
 51 浅香山霞の谷し(古今和歌)
 52 水草生し安積の岩井(曾円集)
 53 古の山井の水に(実方朝臣集)
 54 いかなるひものよそにとく(実方朝臣集)
 55 足びきの山井の水は(実方朝臣集)
 56 をみ衣珍しげなき(実方朝臣集)
 57 浅ましやいかに掬びし(長秋詠藻)
 58 あるにして心に深かく(拾玉集)
 59 法の水に深き心は(拾玉集)
 60 入月の影さへつらき(拾玉集)
 61 山の井の濁らぬ水を(藤原隆祐朝臣集)
 62 杜のかげまだほに出でぬ(壬二集)
 63 夏ぞ知る山井のしみず(拾遺愚草)
 64 影茂み結ばぬさきの(拾遺愚草)
 65 冬深み氷やいたく(金槐和歌集)
 66 枕草子
 67 今昔物語
 68 古今著聞集
 69 義経記

- 70 謡曲「来女」
- 71 廻国雑記
- 72 俊頼髓脳
- 73 古来風体抄
- 74 愚秘抄
- 75 古今和歌集
- 76 千載和歌集
- 77 新古今和歌集
- 78 続古今和歌集
- 79 風雅和歌集
- 80 新後拾遺和歌集
- 81 新続古今和歌集
- 82 新葉和歌集
(安積沼・花かつみ)
- 83 娘部四咲沢二生流(万葉)
- 84 陸奥のあさかの沼の(古今)
- 85 かつみつつ千年の春(拾遺)
- 86 梅雨は見えし小笹の(後拾遺)
- 87 菖蒲草ひく手もたゆく(金葉)
- 88 芦根はひかつみも茂き(金葉)
- 89 小夜中に思へばかなし(金葉)
- 90 五月雨に浅沢沼の(千載)
- 91 おく雲を払兼ねてや(千載)
- 92 契りをば浅香の沼と(続古今)
- 93 憂しつらし浅香の沼の(続古今)
- 94 花がつみかつ見る人の(続後拾遺)
- 95 刈りてますあさかの沼の(続千載)
- 96 なべてのと誰か見るべき(提中納言物語)
- 97 花がつみかつ見るだにも(狭衣物語)
- 98 年ふとも思ふころし(狭衣物語)
- 99 音にきく安積の沼の(元真集)
- 100 月宿るあさかの沼の(忠見集)
- 101 沼水も氷にけらし(兼盛集)
- 102 浅ましや安積の沼の(曾丹集)
- 103 いつとてか我が恋ざらむ(古今)
- 104 女郎花さく沢に生ふる(古今)
- 105 君がをる八重山吹の(古今)
- 106 陸奥の浅香の沼の(古今)
- 107 春はまだ浅香の沼の(千五百番歌合)
- 108 菖蒲草あさかの沼に(千五百番歌合)
- 109 年毎にふける菖蒲の(千五百番歌合)
- 110 尋ねこし浅香の沼の(拾玉)
- 111 菖蒲とる財のすが笠(拾玉)
- 112 ささわけし安積の沼の(最勝四天王院障子和歌)
- 113 宮古おもふあさかの沼の(最勝四天王障子和歌)
- 114 花かつみかつみるからに(最勝四天王院障子和歌)
- 115 五月雨の葉すえ波に(最勝四天王院障子和歌)
- 116 花かつみかつみるからの(最勝四天王院障子和歌)
- 117 ふみしたく安積のぬまの(最勝四天王院障子和歌)
- 118 夏はまた安積のぬまの(最勝四天王院障子和歌)
- 119 夏はまた安積のぬまに(最勝四天王院障子和歌)
- 120 年をへて又咲にけり(最勝四天王院障子和歌)
- 121 みちのくやなこり安積の(最勝四天王院障子和歌)
- 122 人こころあさかの沼の(内裏名所百首)
- 123 人心安積の沼の(内裏名所百首)
- 124 いかにせむあさかの沼に(内裏名所百首)
- 125 浅からぬあさかの沼の(内裏名所百首)
- 126 契こそあさかの沼の(内裏名所百首)
- 127 花かつみかつ道絶る(内裏名所百首)
- 128 ねをふかく我こそおもへ(内裏名所百首)
- 129 しらせはや名こそあさかの(内裏名所百首)
- 130 つらきをもうきをしらぬ(内裏名所百首)
- 131 心さしさこそあさかの(内裏名所百首)
- 132 人心安積の沼の(内裏名所百首)
- 133 いかにせむ安積の沼の(内裏名所百首)
- 134 能因歌枕
- 135 俊頼髓脳
- 136 和歌童蒙抄
- 137 袋草子
- 138 長明無名抄
- 139 袖中抄
- 140 色葉和歌集
- 141 八雲御抄
- 142 古今著開集
- 143 かつみとは真菰の一名也(かつみ考)
(阿武隈川)
- 144 武蔵の国なる友がき(花勝美考)
- 145 阿武隈に霧立ち曇り(古今)
- 146 よと共に阿武隈川の(後撰)
- 147 阿武隈の霧とはなしに(後撰)
- 148 まつ我は哀れ八十になり(金葉)
- 149 君が代にあふ隈川の(詞花)
- 150 行末にあふ隈川の(新古今)
- 151 今君に又あふ隈の(新古今)
- 152 …これを思へばきみが代に(新勅撰)
- 153 年ふれどわたらぬ中に(新後撰)
- 154 人知れぬ恋路の果や(新後撰)
- 155 つらくとも忘れず恋ひ(玉葉)

- 156 君が代にあふくま河の(続後拾遺)
- 157 いかなれば泪の雨は(新拾遺)
- 158 待たれつるこの世も過ぎぬ(新拾遺)
- 159 立ち曇ら霧のへだても(新後拾遺)
- 160 蜻蛉日記
- 161 蚊遣火の烟けぶたき(和泉式部集)
- 162 阿武隈に霧たてと云し(源重之集)
- 163 阿武隈を渡りも果ぬ(中努集)
- 164 帰来る袖も濡るは(御集)
- 165 陸奥のあふ隈川の(古今)
- 166 人知れず濡にし袖の(古今)
- 167 君が住む阿武隈川の(六百番歌合)
- 168 むすびでもなかなか濡るる(拾遺愚草)
- 169 心をし忍の里に(金槐和歌集)
- 170 風はやきあふくま川の(最勝四天王院障子和歌)
- 171 君が代にあふくま川の(同上)
- 172 小夜ちとりなく音すさむる(同上)
- 173 さよ千鳥やちよをそふる(同上)
- 174 冬の夜をなかくや契る(同上)
- 175 思ひかね妻とふちとり(同上)
- 176 君が代にあふくま川の(最勝四天王院障子和歌)
- 177 わすれしなあふくま川の(同上)
- 178 夜をさむみつまとふ千鳥(同上)
- 179 年へてもあふくま川の(最勝四天王院障子和歌)
- 180 あすは又あふくま河の(内裏名所百首)
- 181 君が代にあふくま河の(同上)
- 182 立こもるあふくま河の(同上)
- 183 晴やらぬあふくま河の(同上)
- 184 空清さ雲井の秋の(同上)
- 185 あけぬなり遠方人も(同上)
- 186 なか月やいく有明の(同上)
- 187 秋ふかき思ひは遠き(同上)
- 188 馴にける月さへつらき(同上)
- 189 みちのくのあふくま河の(同上)
- 190 秋かせの袖とふ色も(同上)
- 191 ふかき秋にあふくま河は(同上)

近世資料

二本松藩

I 藩政

1 蓄政と財政

- 1 寛永20年9月 村々へ触
- 2 寛永20年 慶安元年代官名並支配村数
- 3 貞享5年3月 富岡村村給分と触

- 4 慶安2年11月 村々へ触
- 5 寛延2年 諸触
- 6 延享5年2月 美濃川普請大槻村下町御貨上金覚
- 7 寛延元年大槻村美濃川御用御貨上金覚
- 8 宝暦10年11月 二本松領郷村体辻帳
- 9 宝暦13年正月 鉄砲御預り証文
- 10 享和2年2月 大槻組急御用若党小者定書
- 11 文政7年10月 式拾五人組御修法(抜書)
- 12 天保13年3月 二本松領内役人帳
- 13 天保15年7月 郡山宿御貨上金上納面付記上帳
- 14 嘉永3年7月より慶応2年6月迄御用金之覚
- 15 元治元年3月 駒屋村五人組御改帳
 - 2 土地
- 16 元和3年7月 成田村荒井村野論目安書
- 17 享保11年4月 鳥打衆小屋地改
- 18 宝暦5年7月 横塚村質田証文
- 19 安永10年2月 大槻村古上地主付願
- 20 文政元年7月 郡山村耕地名並石高覚
- 21 文政3年 郡山村段付覚
- 22 天保9年3月 久保田村流地証文
- 23 天保9年12月 針生寅新田出作証文
 - 3 縄引
- 24 (寛永)大槻村足軽新田開発一件
- 25 元禄4年 八幡村縄引年申立
- 26 寛政3年2月 富岡村本田縄引帳
- 27 天保6年10月 成田村縄引ニ付村定
 - 4 人口
- 28 延宝3年12月 質物証文切紙
- 29 元禄6年 郡山村古切支丹類族預帳
- 30 安永2年3月 切支丹類族死亡届
- 31 天明6年3月以来生育被下米証文御達留扣
- 32 享和元年 領内人数総高調抄
- 33 文化12年12月 生育御手当達し
- 34 文政3年3月 日出山村・笹原村人別改帳
- 35 天保6年12月 質物奉公証文
- 36 元禄2年 郡山村人別御改帳
- 37 慶応3年 郡山上町人別御改帳
- 38 寛永5年4月 荒井村年貢割付
- 39 寛永6年3月 小原田村年貢割付
- 40 寛永15年9月 小原田村年貢割付
- 41 寛永19年10月 荒井村知行所物成
- 42 正保元年12月 日出山村年貢皆済目録
- 43 承応2年9月 日出山村物成
- 44 万治3年11月 八幡村年貢物成覚

- 45 寛文9年10月 大槻村成ケ之覚
 46 天和2年11月 大槻村成箇之覚
 47 元禄8年10月 郡山村成箇之覚
 48 享保19年11月 郡山村成箇之覚
 49 嘉永7年 大槻村成箇之覚
 II 町と村
 1 町と村
 50 安永9年10月 越百姓主付御達
 51 文政元年12月 郡山村下町役人役料諸役方合取極帳
 52 文政7年 町昇格問屋設立願書
 53 慶応3年正月 夜行定書
 2 村役人
 54 寛政6年正月 村方長百姓相立候覚
 55 嘉永5年9月 二本松領内本陣年寄検断庄屋名主歴代簿
 III 交通
 1 宿と交通
 56 宝永6年7月 二本松領穀留番所覚
 57 寛保4年3月 会津廻米安積田村筋駄賃覚
 58 文政3年6月 郡山より道法御定駄賃并人足荷物之次第
 59 文政8年4月 郡山役人勤方定帳
 60 天保6年12月 旅籠屋修法金勘定覚
 61 嘉永3年3月 飯盛女取戻一件
 62 嘉永7年12月 郡山宿飯盛女との相對死一件
 63 安政2年5月 七箇駅寄人馬改革村元印形取調帳
 64 文久4年正月 夏出村夫伝馬扣帳
 IV 産業
 1 農業
 65 元禄4年10月 小原田村と大善寺金屋上行合村南河原出作証文
 66 元禄14年5月 郡山組池堰帳
 67 享保11・12年 農作付播指図留
 68 天明2年 郡山村當農指図覚
 69 享和2年2月 駒野飼奨励達書
 70 文化元年12月 荒井日出山両村堰成田村と出入一件
 71 文政13年3月 大槻村子取駄馬二付願書
 72 天保2年6月 富岡村農事曆
 73 天保6年より9年農家作得記
 74 天保7年 安積郡村々池堰調
 75 安政3年8月 大槻組柿渋上納割
 76 安政6年以降安積地方農業記
 77 万延2年正月 大谷村農事覚

- 2 凶作
 78 享保7年8月 二本松領不作検地条目
 79 文政5年3月 天明凶作聞書(農家遺戒)
 80 天保5年 安積三組凶作被害報告控
 81 天保7年 領内凶作御取箇取三浦文左衛門巡檢書留
 3 山論・水論
 82 寛文7年6月 小原田村荒井村野論一件
 83 天和2年4月 成田村荒井村野論裁許状
 84 文化元年12月 山潟村浜路村山論済証文
 85 天保2年10月 駒屋村大谷村用水池新普請和談証文
 86 文久2年10月 大槻村小原田村野論済証文
 87 慶応3年3月 今泉村鍋山村入会野論争訴願状
 4 養蚕
 88 元文3年6月・延享元年5月 養蚕糸覚
 89 文化7年7月 日出山村蚕種取引入用仕訳帳
 90 文化7年7月 日出山村養蚕勘定帳
 91 文化7年7月 日出山村まゆ仕入覚
 92 文政9年正月 領内蚕種腰札所持面附
 93 天保3年6月 郡山宿糸釜改め
 94 安政6年正月 糸改め触書
 95 文政7年 成田村蚕種紙書上帳
 96 嘉永2年 安積三組畑作割合
 5 商業
 97 元文3年～明和3年 郡山村煙草仕訳書
 98 宝暦13年より天明7年迄の郡山相場並に世事覚書
 99 明和6年より文政9年迄山口家酒造経営覚
 100 天明2年より寛政11年迄山口家仕切勘定帳
 101 天明8年正月 永戸家店卸帳
 102 享和2年6月 絹布質入証文
 103 文政元年9月 繰綿代金勘定ニ付須賀川商人と出入一件
 104 文政7年3月 二本松領御登米磐城廻し触書
 105 文化5年12月 会津蠟売捌御免願
 106 文化13年11月 糶道具質入証文
 107 文政元年8月 酒造札購入ニ付借金証文
 108 天保3年6月 藍玉仕入金借金証文
 109 天保13年5月 郡山宿諸相場書上帳
 110 天保15年10月 郡山酒造仲間規定書
 111 嘉永2年10月 郡山肴問屋といわき肴問屋一件
 112 嘉永5年10月 郡山宿髮結人証証人
 113 慶応2年11月 塩買入路筋牛方手当穀類他所出願
 114 慶応2年12月 塩買入牛方飼料糠他所出し指図書
 115 慶応3年12月 郡山穀仲間規定書

- 116 年不詳郡山宿肴屋議定書
6 鋳物
- 117 元文3年5月 領内諸職人課役定
- 118 文化13年2月 鋳物書出し帳
- 1199 天保14年9月 御領内金銀山之覚
- 120 嘉永5年2月 鍋之通
- 121 安政7年正月 鋳物取引覚書
- 122 文久3年正月 鋳物仲間規定書
- 123 年不詳 銅細工諸掛覚
- V 一揆訴願
- 124 貞享3年2月 八幡村禿地多分ニ付作出及び越百姓入村願
- 125 元禄4年7月 大槻村片平村論所一件
- 126 寛延2年12月 安積騒動覚書
- 127 寛延3年11月 一揆騒動落着証文
- 128 安永2年 富岡村持山直訴
- 129 天明8年 只野村名主不正訴願
- 130 慶応2年6月 郡山宿馬子騒動
- 守山藩
- I 藩政
- 1 藩政
- 131 寛文年間二本松藩収納達書
- 132 寛保4年2月 惣村法度定書
- 133 天保4年8月 凶作に付穀留の達し
- 2 土地
- 134 延宝8年 検地成就奉納灯籠銘
- 135 延宝8年 三城目村検地帳
- 136 宝永5年2月 質地・借地受戻金拝借願
- 137 宝永5年3月 質地証文
- 3 縄引
- 138 寛永19年 三町目村縄引水帳
- 139 享保10年 大平村縄引換地願
- 4 人口
- 140 宝暦11年7月 北小泉村宗旨人別改帳
- 5 年貢
- 141 正保4年 南小泉村年貢割付状
- 142 正保4年12月 南小泉村年貢金請取証文
- 143 慶安元年 南小泉村年貢割付状
- 144 元禄10年3月 三城目村皆済目録
- 145 享保16年12月 南小泉村物成米皆済目録
- II 町と村
- 146 延宝2年3月 名主株買入証文
- 147 享保15年9月 洪水被害情況届

- 148 享保15年9月 木賊田村村替願書
- 149 天保2年家屋焼失届書
- 150 文政5年2月 組頭免許の達し
- 151 天保7年正月 下舞木村村規定
- III 交通
- 152 享保6年7月 金屋村渡場船賃の定
- 153 安永5年6月 商荷蔵敷銭免除願
- 154 文政元年8月 諸国巡礼往来証文
- 155 慶応3年3月 蒲倉荒井村間屋継荷出入一件
- IV 産業
- 1 農業
- 156 享保13年3月 守山馬市勘定書
- 157 宝暦10年2月 漆種配分の触書
- 158 宝暦10年 黄檀種配分の触書
- 159 宝暦10年3月 漆木植付の触書
- 2 凶作
- 160 天明三癸卯年 田畑下熟ニ付奥州大飢此年日和暴風雨雪穀物諸相場扣
- 161 天保5年2月 困窮者救助の廻文
- 3 養蚕
- 162 文政4年～天保13年 蚕種取入逗留届
- 163 文政10年3月 江戸藩庁より桑役設置書簡
- 164 文政13年3月 運上金の達し
- 165 弘化2年7月 蚕種売捌のため離領届
- 4 商業
- 166 享保16年10月 守山町穀市開催許可
- 167 宝暦11年6月 紅花買上代銭渡し方の覚
- 168 宝暦11年6月 藍栽培村調査の触
- 169 宝暦11年6月 藍栽培村調
- 170 天明4年正月 五十集荷中継問屋設置願
- 171 天明4年正月 五十集荷中継問屋願
- 172 文化14年9月 菅笠会所設置願
- 173 安政2年1月 斎田塩売買不正訴訟
- V 一揆・訴願
- 174 延宝9年4月 大庄屋不正につき訴訟
- 175 宝永4年 守山村騒動落着覚
- 176 宝永6年9月 二本松守山領の田地買地出入訴訟一件
- 177 享保7年11月 迷い馬取押一件
- 178 寛保2年2月 三城目村鬼生田村の芝野境証文
- 179 延享3年 質物人一揆一件
- 180 寛延2年 守山領内百姓一揆覚
- 181 天保元年9月 木村村庄屋不正訴訟一件
- 182 弘化3年11月 根木屋村庄屋不行届ニ付訴訟一件

幕領
 I 幕政
 1 幕政
 183 年不詳領主の変遷
 184 天明元年 間引禁止布令
 185 天明2年4月 百姓取立手余地開発布令
 186 天明2年 浅川陣屋に目安箱設置の触
 187 天明4年 大庄屋共に申聞候演説之覚
 2 土地
 188 明和8年6月 栃本村本田新田植付証文
 189 天明2年7月 万引方并古川欠砂入引書上帳
 190 安政3年2月 手余地耕作ニ付山林刈数山割渡願
 3 人口
 191 安永10年3月 栃本村他所奉公人願帳
 192 安永10年3月 下男女召抱人別書上帳
 193 天明元年 産子養育起請文
 194 天明2年 御他領并御領内奉公人相調書上帳
 195 天明4年 水呑相調書上帳
 4 年貢
 196 元禄5年11月 栃本村年貢運上小物成之覚
 197 寛延3年10月 栃本村午年年貢割付状
 198 宝暦10年 高田領小物成割合之覚
 199 天明4年 栃本村年貢不納米金拝借願
 II 町と村
 200 年不詳 白川領内村々高寄帳
 201 宝暦5年 栃本村困窮者報告
 202 宝暦10年 高田領各村田畑并家数人数書上帳
 203 安永10年 栃本村村勘定帳
 204 天明4年 奉公人情死一件
 205 天明4年 栃本村百姓持高書出帳
 III 産業
 1 農業
 206 宝暦6年8月 早稲中稲改書上
 207 安永年間 種積り及取実
 208 安永年間 高拾石前分田数畑数
 209 天明4年4月 失苗反別相政書上小前帳
 210 天明4年6月 栃本村本田新田植付証文
 211 天明4年 栃本村近村より貴苗之覚
 2 凶作
 212 天明3年10月 栃本村田方悪作反別改帳
 213 天明3年12月 栃本村御救米拝借証文
 214 天明4年 栃本村飢人共夫喰米稗拝借御預小前帳
 215 文政11年正月 八五ヶ村救助拝借金願書
 3 商業

216 天明3年6月 谷田川柳橋両組諸役銭万覚帳
 217 慶応2年 栃本村嘉平次買入斎田塩輸送一件
 IV 一揆・訴願
 218 宝暦2年9月 困窮村に付高引願
 219 宝暦8年2月 谷田川村へ御蔵場設置願
 220 文政3年8月 陣屋を領内中央に設置願書
 三春藩
 221 文政12年 三春藩赤子養育法
 222 年不詳 三春領村高控帳
 223 元禄3年 村中相談二而諸法度之覚
 224 貞享3年 舞木村子之御成ヶ割付之事
 会津藩
 225 年不詳 福良組村役人名
 226 慶安～寛文篠山村より出入商荷証文
 227 元文5年 笹山港出荷入荷品改書
 228 天保7年 船津村より篠山村へ諸荷物運漕舟賃御定法
 229 文久2年 湖上通当用日記
 230 寛延3年正月 福良組百姓騒動一件
 村明細帳
 I 二本松藩
 231 元禄9年 浜路村大概帳
 232 享保21年正月 小原田村大概帳
 233 享保21年正月 高倉村大概帳
 234 享保21年正月 夏出村大概帳
 235 享保21年正月 河内村大概帳
 236 享和3年6月 郡山村両町大概記上帳
 237 文政5年12月 大槻組并山之内五ヶ村大概録
 238 天保12年9月 荒井村明細帳
 239 安積郡村々大概記
 II 守山藩
 240 元禄13年3月 舞木村諸事明細帳
 241 元禄14年3月 上行合村反別指出名細帳
 242 嘉永3年12月 上行合村明細書上帳
 243 元禄14年3月 三城目村反別指出名細帳
 244 元禄17年3月 木村石高調
 245 嘉永3年11月 木村明細書上帳
 246 元禄14年5月 阿久津村反別指出名細帳
 247 元禄14年3月 山中村明細指出帳
 248 寛政元年4月 北小泉村明細帳
 249 寛政元年4月 金屋村明細帳

- 250 嘉永3年 手代木村銘細帳
251 嘉永3年10月 大供村明細書上帳
252 嘉永3年11月 下白岩村鑑書上帳
Ⅲ 幕領・会津藩
253 元禄9年4月 柳橋村村指出書上帳
254 寛保2年 栃本村指出帳
255 寛政3年2月 田母神村村指出帳
256 年不詳 中津川村差出帳
257 正徳5年5月 福良組村々手鑑

第9巻 資料(中)

《 統計資料 》

1 気象

1 温度・晴雨曇雪

2 統計総記と人口

2 郡山町町勢要覧

3 郡山町統計一覧

4 安積郡町村人口の推移

5 田村郡町村人口戸数の推移

6 安積郡町村耕宅地面積と人口調

7 安積郡町村本籍出入寄留戸数人口調

8 安積郡町村現住人口の推移

9 安積、田村郡本籍現住人口比較調

10 田村郡町村本籍現住人口調

11 郡山町人口、戸数の推移

3 行財政

12 安積郡地租改正による新旧税比較調

13 郡山村地価及地券売買調

14 安積郡町村田畑宅地地価調

15 安積郡町村不動産抵当負債調

16 安積郡町村人民負担費用調

17 安積郡町村地租類別調

18 安積郡郡費町村別分賦額調

19 安積郡町村県税調

20 安積郡町村国税調

21 安積郡町村諸税負担調

22 田村郡町村諸税負担状況調

23 郡山町県税戸数別賦課等差決議調

24 郡山村費貧富等差及戸数割調

25 郡山村地方税前半期戸数等差割調

26 地方税戸数割前期分貧富等差調

27 郡山町地方税前期分戸数割貧富等差調

28 県税戸数割前期分賦課等差調

29 郡山町歳入歳出予算決算調

30 郡山町歳出決算調

31 郡山町歳入歳出決算調

32 安積郡町村の水道

33 郡山町水道布設費歳入出決算調

34 安積郡町村消防組調

35 安積郡町村選挙有権者調

4 農業

36 安積郡町村米穀種類調

37 農耕夫製糸養蚕賃金調(日和田、富田、福良、多田

野、郡山、横浜)

38 安積郡一反歩の土地利用による収益調

39 安積郡農業戸数及人口の推移

40 安積郡町村自作小作、戸数人員調

41 安積郡自作地小作地の推移

42 安積郡米作付反別収量調

43 安積郡麦作付収量調

44 安積郡町村別耕作地調

45 安積郡町村米作付収獲調

46 安積郡普通・特有産物年比較

47 安積郡食用作物作付面積調

48 安積郡食用作物作付面積調

49 田村郡町村農業戸数人員調

50 田村郡町村自作別作付調

51 田村郡町村米作付収量調

52 田村郡各村麦作付収量調

53 田村郡町村食用作物作付取獲調

54 安積郡作物収獲皆無地調

55 田村郡作物収獲地調

56 安積郡町村窮民調

57 安積郡町村稲作付反別収模高調

58 郡山町自作別農業戸数調

59 桑野村自作別農業人口調

60 喜久田村自作別農業戸数調

61 郡山町耕作地、役畜調

62 桑野村耕作地及自作反別調

63 郡山町民の桑野村土地所有調

64 夏出村物産調

65 上行合村物産調

66 柘山神村物産取調

67 郡山村物産調

68 上行合村物産調

69 金沢村物産調

70 郡山町主要農産物作付収量調

71 小原田村生産物数量及び金額調

72 喜久田村農産物作付収量調

73 守積郡田村郡農産物調

74 安積郡家畜調

75 田村郡家畜調

76 田村郡家禽調

77 安積郡、田村郡隣調

78 安積郡馬調

79 田村郡馬調

80 安積郡、田村郡馬せり調

- 81 桑野村、郡山町牛乳生産調
- 82 安積郡山林調
- 83 田村郡民有地調
- 84 田村郡葉煙草生産調
- 85 田村郡果実生産調
- 5 養蚕
 - 86 安積郡阿村繭生産高調
 - 87 安積郡養蚕調
 - 88 安積郡繭生産調(1)
 - 89 安積郡繭生産調(2)
 - 90 安積郡桑畑調
 - 91 田村郡繭生産調
 - 92 田村郡桑畑調
 - 93 田村郡蚕糸真綿及蚕卵調
 - 94 安積郡阿村繭生産調
 - 95 安積郡阿村蚕種製造調
 - 96 安積郡阿村養蚕戸数と掃立数調
 - 97 田村郡阿村養蚕戸数と繭収穫高調
 - 98 上行合村蚕種掃立調
 - 99 郡山町蚕糸製造調
 - 100 郡山町蚕種製造調
 - 101 郡山町蚕糸と蚕種製造調
 - 102 郡山町蚕病予防検査成績調
 - 103 郡山町蚕業生産物数量調
 - 104 桑野村養蚕調
 - 105 郡山町繭生糸の生産数量の推移
 - 106 安積郡村別蚕業生産数量調
 - 107 田村郡村別蚕業生産物調
 - 108 三代村養蚕調
- 6 安積開拓と疏水
 - 109 安積疏水の灌漑をうけた反別
 - 110 安積開拓地収穫高調
 - 111 安積開墾地経費調
 - 112 移住開墾社調
 - 113 安積疏水の灌漑反別と地価調
 - 114 安積疏水工事費調
 - 115 安積郡耕地面積の推移
- 7 商業
 - 116 安積郡の商業と税額調
 - 117 安積郡輸出入調
 - 118 郡山町物産調
 - 119 安積郡商売戸数調
 - 120 安積郡雑商戸数調
 - 121 郡山町小売卸売戸数調
 - 122 郡山町商売戸数調(小売の部)
 - 123 郡山町輸出貨物調
 - 124 郡山町輸入貨物調
 - 125 郡山諸相場調
 - 126 郡山生産会社諸相場調
 - 127 田村郡金沢村諸物産価額調
 - 128 郡山町米相場調
 - 129 郡山大槻福良物価比較調
 - 130 郡山町物価調(1)
 - 131 郡山町物価調(2)
 - 132 郡山、喜久田、高瀬重要品相場調
 - 133 郡山町賃金調
 - 134 安田銀行郡山支店預金、貸金高調
 - 135 安田銀行郡山支店各期貸金担保別調
 - 136 郡山町銀行預金調
 - 137 郡山町銀行貸付金調
 - 138 郡山町銀行諸手形調
 - 139 郡山町質屋貸金調
 - 140 安積郡質屋貸金調
 - 141 田村郡質屋貸金調
 - 142 郡山町質屋貸金調
 - 143 安積郡郵便貯金電信、為替調
 - 144 郡山町郵便為替調
 - 145 郡山町郵便貯金調
- 8 工業
 - 146 安積郡清酒、醤油、油製産高調
 - 147 安積郡阿村製造業調
 - 148 田村郡製造業調
 - 149 郡山町製造業調
 - 150 郡山町製糸工場調
 - 151 郡山町醸造業調
 - 152 郡山村会社調
 - 153 郡山町工場調
 - 154 郡山町会社工場調
 - 155 郡山絹糸紡績会社収支子算調
 - 156 郡山絹糸紡績会社営業子算
 - 157 郡山絹糸紡績電力部決算調
 - 158 郡山絹糸紡績電気部営業調
 - 159 明治43年下半期固定資本及び収支内訳、貸借対照表
 - 160 郡山絹糸紡績会社損益勘定
 - 161 電気事業
 - 162 郡山町電燈調
 - 163 郡山村製糸工場調

9 交通・運輸・通信

- 164 安積郡国県里道道路延長調
- 165 安積郡国、県道の延長調
- 166 安積郡里道坪数及延長調(1)
- 167 安積郡里道の坪数及延長調(2)
- 168 田村郡里道調(1)
- 169 田村郡里道調(2)
- 170 舟運情況調
- 171 安積郡橋梁調
- 172 三春馬車鉄道
- 173 福島、郡山、日和田、汽車乗客、貨物運貨調
- 174 岩越鉄道乗客貨物運貨調
- 175 乗車客数調(郡山駅より)
- 176 郡山町貨物輸出調
- 177 郡山町貨物輸入調
- 178 郡山町旅客調(宿泊帳による分)
- 179 安積郡、田村郡陸運業者と用具調(1)
- 180 安積郡陸運業者と用具調(2)
- 181 郡山町諸車調
- 182 各駅運賃定額調
- 183 安積郡運輸業調
- 184 安積郡荷馬車・荷車・人力車調
- 185 郡山町旅客調
- 186 安積郡郵便利用状況調
- 187 郡山町郵便事務概況
- 188 田村郡郵便局利用状況調
- 189 安積郡郵便物調

10 教育

- 190 安積郡小学校就学出席率調
- 191 安積・田村郡小学校調
- 192 郡山小学校就学の推移
- 193 日和田村児童就学率の推移
- 194 多田野村児童就学率の推移
- 195 赤津村児童就学率の推移
- 196 田母神村児童就学率の推移
- 197 安積郡阿村児童就学率比較調
- 198 安積郡小学校の学級と教員調
- 199 田村郡、安積郡小学校学級及生徒数調
- 200 安積郡小学校の児童数と教育費調
- 201 安積郡阿村教育費調
- 202 田村郡阿村教育費調
- 203 田村郡阿村歳出と教育費調
- 204 郡山町歳出と教育費調
- 205 安積郡阿村上級学校在学調

- 206 安積郡阿村壮丁(満 20 歳)の教育と体位調
- 207 郡山町壮丁教育程度及体位調
- 208 守山村壮丁学歴調
- 209 郡山町教育施設調
- 210 郡山金透同窓会会員一覧

11 兵事・社会

- 211 安積郡兵役科別調
- 212 安積郡阿村陸海軍人調
- 213 安積郡阿村徴兵人員調
- 214 日清、日露戦役戦傷病者数調
- 215 町村軍人軍属調
- 216 安積郡阿村別壮丁者調
- 217 郡山町伝染病発生及死亡者調
- 218 郡山町病院医師薬剤師調
- 219 郡山町種痘人員調
- 220 郡山町公私立病院調

《 文書資料 》

第一部 伸びゆく郡山

1 戊辰の戦い

- 1 慶応 4 年仙台藩大槻村滞在記
- 2 慶応 4 年 10 月戊辰戦争日記
- 3 慶応 4 年戊辰戦争日記
- 4 慶応 4 年郡山町戊辰実見記
- 5 慶応 4 年 8 月郡山上町焼失家数調
- 6 慶応 4 年 8 月大槻村打毀一件
- 7 慶応 4 年護衛隊陣中日記
- 8 慶応 4 年 10 月神職等の護衛隊参加名簿
- 9 慶応 4 年 8 月官車通行について人馬差出方の廻文
- 10 明治 19 年 3 月士族取扱い嘆願書

2 民政局の政治

- 11 慶応 4 年 8 月守山藩取締諸達
- 12 慶応 4 年郡山組各村へ重役巡村方願
- 13 慶応 4 年 8 月兵火による災害について窮民救助願
- 14 慶応 4 年 9 月郡山村上町高訳人別家数馬数調
- 15 駒屋村高訳人別家数調
- 16 慶応 4 年 9 月大槻組人馬諸猶予願
- 17 慶応 4 年 9 月大槻組百姓救助願
- 18 明治元年 8 月大槻組土蔵類焼について救助願
- 19 慶応 4 年 10 月大槻組各村の者へ手当金等給与歎願書
- 20 慶応 4 年 10 月郡山村助郷人馬についての願書
- 21 明治元年 10 月質物返還の命令方申請

- 22 明治元年 10 月郡山村町名変更願
- 23 慶応 4 年 9 月収納米取納方についての願
- 24 明治元年 11 月貧民救済篤志者表彰方上申
- 25 明治元年 12 月大槻村農夫食願寄帳
- 26 明治元年 12 月動乱の際米紛失に付歎願
- 27 明治元年 12 月窮民救助願
- 28 明治 2 年 5 月宿屋建築に付資金貸付方願
- 29 明治 2 年 8 月民政取締所設置願
- 30 明治 2 年 9 月郡山村徴発人夫及牛馬書上
- 31 明治 2 年 8 月凶作について救助米拝借願
- 32 明治 2 年 12 月凶作ニ付御救助米拝借願
- 3 行政と租税
 - (1) 今泉久三郎日記
 - 33 今泉久三郎日記(抄)
 - (2) 行政と財政
 - 34 明治 7 年 10 月磐前県民治条例
 - 35 明治 8 年 1 月会社病院設置願書
 - 36 明治 8・9 年安積郡状況調査
 - 37 明治 12 年郡山村会決議案
 - 38 明治 15 年 8 月安積疏水通水式執行の願書
 - 39 明治 15 年 8 月安積連合会会議案
 - 40 明治 20 年 12 月日米条約改正の政府施策に反対する建白書
 - 41 明治 21 年 10 月町村合併の答申
 - 42 明治 25 年 11 月多田野水道の工事寄附採納願
 - 43 明治 25 年 12 月郡山町水道使用条例
 - 44 明治 22～33 年郡山町条例(抄)
 - 45 明治 28 年旅団分営設置願書
 - 46 明治 45 年郡山町水道給水条例
 - 47 明治 26 年郡山町状況調
 - 48 明治 40 年郡山町状況調
 - 49 明治 40 年納税組合設置
 - 50 慶応 4 年 10 月大槻組年貢書上帳
 - 51 明治元年 11 月安積郡諸役税調帳
 - 52 明治 3 年 10 月郡山組年貢割付
 - 53 明治 3 年 12 月郡山組年貢調書帳
 - 54 明治 3 年阿武隈川舟運による郡山組廻米
 - 55 明治 4 年 9 月飯売女営業税と人数調
 - (3) 地租改正
 - 56 明治 6 年磐前県地租改正の達
 - 57 明治 8 年田村郡納税厳守の通達
 - 58 郡山村地券調役職表
 - 59 地租改正郡村地の調査
 - 60 安積郡各村の収穫表その他

- 61 日和田村等田畑宅地反当収穫価表その他
- 62 明治 9 年安積郡地租改正費用割当額
- 63 地租改正の基準となった反当収穫量
- 64 郡山村田地売買質入引当等に関する伺
- 65 安積郡日和田村外不服申立
- 66 日和田村不服申立
- 67 安積郡内各村稲刈取願
- 68 明治 11 年 11 月多田野・山口・大谷三村約定証
- 4 県庁の移庁運動
 - 69 明治 15 年 3 月福島県庁移庁の建議
 - 70 明治 16 年 9 月伊藤博文へ移庁の歎願書
 - 71 明治 17 年 1 月移庁運動資金醸出議案
 - 72 明治 17 年 1 月移庁請願総人会会則
 - 73 明治 17 年 2 月移庁費用の献金募集の懇請状
 - 74 明治 17 年 2 月移庁案沿革
 - 75 明治 17 年 3 月福島県庁を安積郡に移す建議書
 - 76 明治 17 年 10 月福島県庁を安積郡に移す建議書
 - 77 明治 17 年 12 月移庁請願書
 - 78 明治 17 年 12 月県庁移庁の建議
 - 79 明治 17 年 12 月移庁を望む建議書
 - 80 明治 17 年 12 月移庁を懇請する趣意書
 - 81 明治 17 年県庁移庁の再建議
 - 82 明治 18 年移庁に賛成する開墾所の趣意
 - 83 明治 18 年 4 月山県内務卿への移庁建議書
 - 84 明治 18 年移庁を懇請する理由
 - 85 非移庁論者への反論
- 5 商業と金融
 - 86 明治 3 年 6 月郡山生産会社規則
 - 87 明治 3 年 7 月郡山生産会社規則
 - 88 明治 3 年郡山生産会社役員
 - 89 明治 3 年 7 月郡山生産会社出資者
 - 90 明治 3 年 7 月郡山物産会社取極ヶ条
 - 91 明治 3 年糸会所設置大綱
 - 92 明治 3 年蚕種生糸相場
 - 93 明治 3 年会社資金の借用証文
 - 94 明治 3 年東京横浜役金
 - 95 明治 3 年 7 月生産会社設置の達し
 - 96 明治 3 年 7 月営業税規則
 - 97 明治 15 年 5 月商法会議決定書
 - 98 明治 30 年農工銀行設置願
 - 99 安田銀行営業報告書
 - 100 明治 33・35 年郡山町業種別商店調
- 6 養蚕と製糸
 - 101 明治 4 年郡山生産会社取扱生糸高

- 102 明治8年2月養蚕業得失調書
- 103 明治13年7月正製組創立届
- 104 明治13年7月正製組商標説明
- 105 正製組真製社沿革
- 106 明治19年6月郡山座繰製糸会社創設願
- 107 明治20年郡山村の蚕糸業功労者書上
- 108 明治21年郡山村外二ヶ村物産年報
- 109 明治30年正製組繭代金仕払帳
- 110 明治35年4月福島県安積郡蚕糸同業組合定款
- 111 明治36年1月安積郡蚕糸組合予算書
- 112 明治36年10月桑苗売買注意書
- 113 明治37年1月蚕業教育普及の補助金申請
- 114 明治41年小原田村蚕業資金積立規則
- 115 明治45年4月富久山村八山田蚕業組合規約
- 7 絹糸紡績と電気
 - 116 明治32年5月電燈の使用広告
 - 117 明治36年郡山絹糸紡績株式会社定款
 - 118 明治38年8月郡山絹糸紡績株式会社株主総会議案
 - 119 明治39年5月電燈点火規定
 - 120 郡山絹糸貸借対照損益計算表
 - 121 明治42年郡山絹糸紡績株式会社株主総会議案
 - 122 明治43年郡山絹糸紡績営業報告
 - 123 明治44年3月資本金減額臨時株主総会議案
 - 124 明治43年6月電燈点燈申込書
- 8 農業
 - 125 明治3年10月夏出村物産調
 - 126 明治5年8月郡山村物産調
 - 127 明治8年12月夏出村物産調
 - 128 明治13年9月農具借用願
 - 129 明治13年郡山村煙草製造人調
 - 130 明治13年郡山村農事月報
 - 131 明治13年郡山村農事月報
 - 132 明治13年郡山村耕土調
 - 133 明治13年郡山村稲作概況
 - 134 明治16年郡山村麦作概算
 - 135 明治13年横塚村稲作概況
 - 136 明治16年郡山・久保田・横塚概況
 - 137 明治13年9月郡山・横塚稲作概況
 - 138 明治16年久保田村麦作概算
 - 139 明治20年小原田・日出山・笹川・荒井村の農業
 - 140 明治22年安積郡農業調
 - 141 明治30年12月三代村の官有地に引戻申請書
 - 142 明治35年11月三代村適産調

- 143 明治35年富久山村救済概況
- 144 明治39年凶作窮民状況調査項目
- 145 明治39年5月富久山村種物分配
- 146 明治38年安積郡凶作被害窮民調
- 9 交通と運輸通信
 - 147 明治3年3月駅継立救助願
 - 148 明治3年3月安積郡七ヶ駅継立規則の設置願
 - 149 明治3年3月駅問屋引立願
 - 150 明治12年12月郡山村会議長の道路改修演説
 - 151 明治12年12月郡山村内道路整備計画案
 - 152 明治13年7月新■小名浜間新道開修願 ■=さんずいこ『写』
 - 153 明治14年1月三森峠新道開修願
 - 154 明治14年12月三森峠開修測量の願
 - 155 明治19年12月郡山駅設置願
 - 156 明治27年1月岩越鉄道敷設運動日記
 - 157 明治27年5月岩鉄問題に関し福島民報社への抗議文
 - 158 明治40年平郡電鉄敷設運動日記
 - 159 明治43年平郡鉄道(磐越東線)敷設願
 - 160 明治44年4月平郡鉄道同盟会発会式
 - 161 明治39年4月郵便物集配時刻改正公示
- 10 教育
 - 162 郡山村外二カ村寺小屋調
 - 163 明治6年小学校創設の伺
 - 164 初期学校の学則
 - 165 明治6年盛隆社(学校)の創設
 - 166 郡山中学校(小学校併設)建築の経過
 - 167 明治9年12月田村郡金合小学校沿革誌(抄)
 - 168 明治12年金透講規約書
 - 169 金透講村々学校積金法則
 - 170 金透小学校沿革(抄)
- 11 地誌
 - 171 明治5年郡山村状況調査
 - 172 明治10年12月大槻村地誌(抄)
 - 173 明治11年下守屋村誌(抄)
 - 174 明治14年2月郡山村物産取調
 - 175 明治14年小原田村地誌(抄)
 - 176 明治15年1月荒井村誌(抄)
 - 177 明治15年1月日出山村誌(抄)
 - 178 明治15年1月笹川村誌(抄)

第二部 開拓と疏水

- 179 開成社記録
- 180 福島県開墾志
- 181 安積事業誌(抄)
- 182 分草実録
- 183 明治8年2月小林久敬の猪苗代湖水東注案
- 184 明治14年11月東北開墾社規則
- 185 明治15年5月東北開社資金借用願
- 186 明治16年7月東北開墾社牧畜資金借用願
- 187 明治16年東北開墾社収支決算
- 188 明治15年1月安積開墾の将来についての意見書
- 189 明治20年9月開成山開墾状況報告
- 190 明治28年3月桑野村開墾地畝下年限延長願

第10巻 資料(下)

《 統計資料 》

第1部

1 市域・人口

- 1 市域の変せん
- 2 人口の推移
- 3 現住人口の推移
- 4 町村別現住戸数・人口の推移
- 5 現住人口職業別
- 6 産業大分類別就業人口の推移
- 7 市町村別産業大分類別就業人口
- 8 市内字別人口(大正9年)
- 9 市内字別人口(昭和25年)
- 10 市内字別人口(昭和40年)

2 農業

- 11 自小作専業別戸数(大正1～15年)
- 12 自小作専業戸数(昭和2～19年)
- 13 町村別自小作戸数
- 14 安積郡自小作別耕作地
- 15 安積郡耕地所有別農家戸数
- 16 田村郡町村別米作付反別
- 17 安積郡米麦豆類作付収獲
- 18 安積郡金肥消費調
- 19 安積郡養蚕
- 20 郡山市の養蚕
- 21 市町村別養蚕
- 22 農地改革前後の自小作別農地面積
- 23 旧郡山地域農地等買収・売渡・実績確定調査
- 24 市町村別農家戸数・人口・経営耕地調
- 25 市町村別産米供出割当
- 26 市町村別農家・土地・畜産・養蚕・加工調
- 27 市域動力農機具台数
- 28 市町村別動力農機具台数(1)
- 29 市町村別動力農機具台数(2)
- 30 安積郡家畜(牛・馬)飼育頭数
- 31 安積郡家畜(牛・馬)飼育戸数
- 32 市町村別家畜飼育戸数・頭数
- 33 市町村別家畜・養蚕
- 34 地域別牛・馬飼育頭数
- 35 市町村別畜産飼育戸数・頭数・養蚕
- 36 市町村別稲・麦・雑穀収獲面積
- 37 市町村別葉たばこ生産調

38 地区別米産調整実施状況

3 工業

- 39 各種工業生産物(1)
- 40 各種工業生産物(2)
- 41 各種工業生産物
- 42 工場別職工人数
- 43 製造業事業所・従業者
- 44 安積地方製造工場・従業者・生産額
- 45 製造業工場・従業者・生産額
- 46 事業所・従業者・出荷額
- 47 事業所・従業者
- 48 市町村別事業所・従業者・出荷額

4 商業

- 49 営業別商店数
- 50 業種別戸数
- 51 職業別戸数(1)
- 52 職業別戸数(2)
- 53 商業(卸・小売分類)別の推移
- 54 安積郡商業の推移
- 55 市町村別商業の推移
- 56 商業(卸・小売)分類別状況
- 57 安積郡商業分類別状況

5 金融

- 58 郡山銀行貸付金・預金高調
- 59 地元銀行の預金・貸金
- 60 農工銀行貸付金
- 61 郵便貯金・振替
- 62 郵便貯金・振替・為替
- 63 質屋営業状況調査
- 64 質貸表
- 65 安積郡質屋調
- 66 公益質庫利用人員調(職業別)
- 67 公益質庫事業成績
- 68 安積郡産業組合(1)
- 69 安積郡産業組合(2)

6 物価と賃金

- 70 小原田村物価
- 71 郡山町の物価一覧
- 72 主要品物価
- 73 熱海町物価
- 74 日用品物価(1)
- 75 日用品物価(2)
- 76 市内日用品小売物価(1)
- 77 市内日用品小売物価(2)

- 78 市町村別職種別賃金調
- 79 市内貨金
- 7 生活環境
 - 80 安積郡・郡山医師数の推移
 - 81 衛生費調
 - 82 住宅建築状況(旧市)
 - 83 住宅の種類・世帯数・世帯人員・畳数
 - 84 電力用途別調
 - 85 市内電力需用状況
 - 86 ガス事業別需用状況
 - 87 公共下水道の普及状況
 - 88 給水戸数・給水人口・配水量の推移
 - 89 大工場使用水量と一般用水量との比較
 - 90 大口使用水量の推移
 - 91 用途別水量の推移
 - 92 大工場使用量と料金
 - 93 水道需用(大口)会社工場調
- 8 労働事情と労働組合
 - 94 一般職業紹介状況
 - 95 労働組合組織数
- 9 交通・通信
 - 96 駅別乗降客数の推移(1)
 - 97 駅別乗降客数の推移(2)
 - 98 鉄道旅客貨物賃金
 - 99 電報利用状況
 - 100 電話利用状況
 - 101 郵便業務
 - 102 乗合自動車距離・料金
 - 103 人力車数
 - 104 路線別バス年間乗客数
 - 105 福島交通バス利用者調
 - 106 交通事故
 - 107 自動車台数
 - 108 自動車保有台数
 - 109 地区別交通事故
- 10 教育・文化
 - 110 教育文化学力水準判定調
 - 111 安積郡小学校教員児童数
 - 112 小学校教員児童数
 - 113 田村郡教員児童数
 - 114 村別上級学校入学者数
 - 115 上級学校入学者数
 - 116 新制中学校
 - 117 安積管内僻地小・中・高校
- 118 小学校建設費
- 119 安積高等女学校教員・生徒数・入学者
- 120 尋常小学校第6学年以上の児童進学調
- 121 中学校卒業生・進学者数
- 122 小学校PTA 予算額・児童数
- 123 中学校PTA 予算額
- 124 小・中学校・児童・生徒・教員数
- 125 郡山市小学児童体位
- 126 地区別小学校児童体位
- 127 小学校建物年度別建築面積
- 128 中学校建物年度別建築面積
- 129 教育関係団体
- 130 青年訓練所
- 131 分類別雑誌・新聞購読数
- 132 ラジオ・テレビ加入戸数
- 133 市町村別ラジオ・新聞普及状況
- 134 図書館利用状況:
- 135 館外貸出分類別冊数
- 136 市内映画館市町村別入場者調
- 11 消防・災害
 - 137 市町村別消防施設
 - 138 火災件数・損害
 - 139 救急業務
 - 140 消防施設
 - 141 消防費と火災損害額との比較
 - 142 消防力および火災発生状況
 - 143 最近6カ年の火災件数・面積・損害額等調
- 12 軍事
 - 144 第2次大戦年次別戦没者数調
 - 145 第2次大戦戦没者数調
 - 146 徴兵検査体格調
 - 147 空襲による爆死者数
- 13 市民所得と行財政
 - 148 市内生産所得
 - 149 市内個人所得額
 - 150 市内分配所得額
 - 151 市内分配所得の配分
 - 152 産業別雇用人1人当り所得
 - 153 市町村別財政
 - 154 一般会計歳出科目別決算額(1)
 - 155 一般会計歳出科目別決算額(2)
 - 156 市役所事務組織の変せん

第2部

- | | |
|---|--|
| <p>1 人口</p> <p>1 人口の推移</p> <p>2 人口集中地区の人口・面積・人口密度</p> <p>3 人口動態(自然動態)</p> <p>4 人口動態(社会動態)</p> <p>5 人口動態率</p> <p>6 人口移動の方向</p> <p>7 町(字)別人口</p> <p>2 事業所</p> <p>8 事業所数の概況</p> <p>9 従業地・常住地・産業(大分類)別15歳以上就業者数</p> <p>10 従業地・通学地による人口(昼間人口)</p> <p>11 労働力状態および男女別15歳以上人口</p> <p>12 産業(大分類)別就業人口(地区別)</p> <p>3 農業</p> <p>13 農家数の推移</p> <p>14 農家人口の推移</p> <p>15 就業構造別農家人口</p> <p>16 農家数および経営耕地面積(地区別)</p> <p>17 就業状態別農家人口(16歳以上・地区別)</p> <p>18 農業粗生産額(地区別)米・麦・その他作物</p> <p>19 農業粗生産額(地区別)養蚕・畜産</p> <p>4 工業</p> <p>20 工業の推移</p> <p>21 工業の状況(地区別)</p> <p>22 工業出荷額</p> <p>23 工業の概況(事業所・従業員・出荷額)</p> <p>24 従業者規模別工業の状況</p> <p>25 工業の現況グラフ</p> <p>5 商業</p> <p>26 小売商規模(他市との比較)</p> <p>27 卸売業規模(他市との比較)</p> <p>28 卸売業の仕入及び先び販売先(地域)</p> <p>29 商業の推移</p> <p>30 商業の状況</p> <p>31 商業の概況</p> <p>6 金融</p> <p>32 金融機関別店舗数</p> <p>33 市内銀行勘定</p> <p>34 手形交換状況</p> <p>35 郵便貯金預払状況</p> <p>36 保険会社業績状況</p> <p>7 消費生活</p> <p>37 消費者物価地域別指数(大分類)</p> | <p>38 卸売市場取扱い状況</p> <p>39 酒類消費量</p> <p>40 たばこ消費量</p> <p>41 全世帯1カ月間の消費支出</p> <p>42 勤労者世帯平均1カ月間の支出金額</p> <p>8 建設</p> <p>43 道路の概況</p> <p>44 河川</p> <p>45 橋りょう</p> <p>46 都市計画区域面積</p> <p>47 都市計画街路実施状況</p> <p>48 都市公園の計画および開設面積</p> <p>49 郡山都市公園</p> <p>50 土地区画整理事業</p> <p>9 住宅</p> <p>51 公営住宅建設状況</p> <p>52 市営住宅申込み状況</p> <p>53 住居の所有関係別普通世帯の推移</p> <p>54 地区別世帯(普通・準)</p> <p>10 電気・ガス</p> <p>55 電力需要の状況</p> <p>56 地区別電灯・電力需要数</p> <p>57 ガス需要(都市ガス)の状況</p> <p>11 水道</p> <p>58 上水道の給水戸数人口</p> <p>59 上水道の取水量および給水状況:</p> <p>60 簡易水道の状況</p> <p>12 下水道</p> <p>61 下水道施設の概況</p> <p>62 下水道の普及状況</p> <p>63 下水処理場の状況</p> <p>13 運輸・通信</p> <p>64 国鉄市内各駅乗車人員</p> <p>65 郡山操車場貨車取扱状況</p> <p>66 国鉄貨物の輸送状況</p> <p>67 バス乗車人員</p> <p>68 自動車運転免許人口</p> <p>69 電話加入状況</p> <p>70 電報取扱い状況</p> <p>71 郵便物取扱い状況</p> <p>72 内国郵便物の引受配達数</p> <p>14 労働事業</p> <p>73 職業紹介状況(一般)</p> <p>74 職業紹介状況(日雇)</p> |
|---|--|

75 失業保険給付状況
 76 中学高校卒業者の就職状況(1)
 77 中学高校卒業者の就職状況(2)
 15 労働組合
 78 労働基準法適用事業所および労働者数
 79 法別労働組合数および組合員数
 80 産業別労働組合数および組合員数
 81 郡山地方労働組合会議参加組合員数
 82 全日本労働総同盟・福島地方同盟・郡山地区同盟
 参加組合員数
 83 郡山地方労働組合会議参加組合員数
 16 社会保障
 84 労働災害補償費支払状況
 85 生活保護状況
 86 老人福祉センターの利用状況:
 87 国民健康保険の概況
 17 保健衛生
 88 医療施設
 89 医療従事者数
 90 国民年金の概況
 91 交通災害共済の概況
 92 環境衛生関係営業施設数
 93 公害取扱い件数
 94 じんかい・し尿処理状況
 18 教育・文化
 95 学校総覧
 96 小学校の概況
 97 中学校の概況
 98 高等学校の概況
 99 中学校卒業者の進路状況
 100 高等学校卒業者の進路状況
 101 市立図書館の概況
 102 市民会館利用状況
 103 映画館等入場者数
 19 交通災害・消防
 104 交通事故の状況
 105 火災の発生状況
 106 火災の原因別発生状況
 107 火災による被災状況
 108 救急出動救護状況
 20 行財政
 109 市町村現況(1)
 110 市町村現況(2)
 111 市議会党派別議員数

112 市職員数
 113 主要選挙概況
 114 一般会計歳入歳出状況
 115 郡山市行政機構図と職員数
 21 新産業都市関係事業
 116 基本計画年度別事業費
 《 文書資料 》
 第1部 郡山市制とその発展
 1 市政と財政
 1 大正期の町村合併
 (1) 郡山・小原田の合併
 1 大正12年郡山町・小原田村合併理由書
 2 大正12年郡山町・小原田村合併ノ理由及経過
 3 大正12年郡山町施設重要事業中補足説明書
 4 大正13年小原田村の合併新聞記事
 (2) 郡山・桑野の合併
 5 大正11年郡山町桑野村合併に関する報告書
 6 大正12年桑野村合併稟請書
 7 大正14年郡山町及桑野村共同経営事業の概要
 8 大正14年桑野村合併に関する協定書
 2 市予算案説明書からみた市政
 (1) 恐慌下の市政
 9 昭和3年度予算市会説明概要
 10 昭和4年度予算市会説明概要
 11 昭和6年度歳入出予算説明書
 12 昭和7年度歳入出予算説明書
 13 昭和8年度予算説明概要
 14 昭和10年度歳入出予算説明書
 15 昭和11年度歳入出予算説明書
 (2) 臨戦体制下の市政
 16 昭和12年度予算説明書
 17 昭和13年度歳入歳出予算説明書
 18 昭和14年度歳入歳出予算説明書
 19 昭和15年度歳入歳出予算説明書
 (3) 太平洋戦争下の市政
 20 昭和16年度歳入歳出予算説明書
 21 昭和17年度歳入歳出予算説明書
 22 昭和18年度歳入歳出予算説明書
 23 昭和19年度通常市会説明書
 3 第二次・第三次県庁舎移庁運動の記録
 24 大正15年第二次県庁舎移庁運動の経過
 25 昭和11年第三次県庁舎移庁運動の経過

- 4 太平洋戦争下の行政一般報告書
 - 26 昭和16年一般行政報告書
 - 27 昭和19年軍事・衛生・教育・産業・社会に関する報告書
 - 28 昭和20年教育・軍事・社会事業・産業・警防・工務に関する報告書
 - 2 社会情勢
 - 1 大正期・昭和前期の世相
 - 29 大正2～9年「備忘録」に現われた郡山の世相
 - 2 新聞に載った郡山の世相
 - 30 昭和10年の記事
 - 31 昭和11年の記事
 - 32 昭和12年の記事
 - 3 大正後期から昭和初期の労働事情
 - (1) 労働組合の発足と争議声明書
 - 33 大正13年労働組合の発足の事情
 - 34 大正13年郡山電気従業員組合声明書
 - (2) 昭和2年東部電力の騒動と争議記録
 - 35 昭和2年8月田中正勝回顧録
 - 36 昭和2年争議関係アジビラ
 - 37 昭和2年東部電力会社争議顛末書
 - 4 恐慌下の金融機関
 - 38 昭和初期の金融恐慌下の銀行
 - 39 昭和3年日本銀行福島支店の特別融資とその後の回収経過
 - 40 昭和3年新聞記事に現われた橋本・郡山両銀行の合同
 - 5 満州事変下の銃後活動
 - 41 昭和6年の銃後活動情況
 - 42 昭和7年の銃後活動情況
 - 6 軍都化した郡山
 - 43 昭和16年東部六十六部隊の設置経過
 - 44 昭和19年軍都指定の経過
 - 3 農業と商工業
 - 1 大正期の農家経済
 - 45 大正6年小田原安積郡長の地主会に対する意見書
 - 46 大正9年安積郡地主会会費賦課額予算書
 - 47 大正9年安積郡の農家経済の情況
 - 48 大正9年米の投売防止策・県下町村農会決議事項
 - 49 大正9年郡山町農会状況調書
 - 50 大正12年安積郡長指示事項(農事ニ関スル件)
 - 2 昭和初期の農村経済
 - 51 昭和7年喜久田村農村経済の概況
 - 52 昭和8年多田野村農村経済の概況
 - 53 昭和9年郡山市農産物収獲概況
 - 54 昭和9年郡山市勸業政策と方法
 - 55 昭和10年郡山市郷倉設置の経過
 - 56 昭和13年穂積村更生計画概要
 - 57 昭和13年赤津律村更生計画概要
 - 58 昭和13年二瀬村経済更生計画概要
 - 3 大正期の商工業
 - 59 大正5年郡山市の商工業
 - 60 大正13年郡山商業会議所の設立の経過
 - 61 大正14年郡山市の商工業
 - 62 大正14年郡山市内の諸会社調
 - 4 昭和前期の商工業
 - 63 昭和14年郡山市の商業
 - 64 昭和14年郡山市の工業
 - 4 戦時体制下の市民生活
 - 1 戦力の増強
 - 65 昭和12年国民総動員活動
 - 66 昭和12年防空体制の整備
 - 67 昭和14年日中戦争における福島県町村長会の宣言
 - 68 昭和15～19年食糧増産計画
 - 69 昭和16年対米英宣戦の市報
 - 70 昭和16・17年国民精神給動員に関する事項
 - 71 昭和16・18年物資配給に関する事項
 - 72 昭和18年市長より各町内会長回覧文書
 - 73 昭和19年郡山市常会提出事項
 - 74 昭和20年郡山市義勇隊の結成から解散まで
 - 2 空襲の記録
 - 75 昭和19・20年郡山市中町警報当番日誌
 - 76 昭和20年保土谷化学郡山工場戦災死傷者処理記録
 - 77 昭和20年富久山町空襲記録
 - 5 戦時下の文化活動
 - 78 昭和16～20年郡山翼賛文化協会記録
- 第2部 戦後の郡山と新産業都市の指定(昭和21年～48年)
- 1 終戦直後の市政
 - 1 市政
 - (1) 連合国関係通牒

- 79 昭和 21 年大政翼賛会等解散団体に関する事項
- 80 昭和 21 年教科用図書の使用禁止に関する通牒
- 81 昭和 20・21 年教育に関する連合軍政府の通牒
- (2) 市政報告
- 82 昭和 21 年予算案説明書
- 83 昭和 21 年郡山市人口・産業・振興・工務・衛生・教育社会に関する報告書
- 84 昭和 20 年富久山町々勢教育事務報告書
- 85 昭和 22 年郡山市人口・産業・振興・工務・衛生・教育・社会に関する報告書
- 2 終戦直後の工場と労働事情
 - 1 終戦直後の工場
 - 86 戦中戦後の工場
 - 87 戦後の工場
 - 2 労働事情
 - 88 昭和 22 年安積疏水職員組合の団体協約締結要求
 - 89 昭和 24 年郡山事件
- 3 終戦後の市民生活
 - 1 衣・食・住
 - 90 昭和 21～26 年配給下の市民生活
 - 91 昭和 22～25 年駅前罹災地に建築した建物調
 - 2 新聞にあらわれた郡山の世相
 - 92 昭和 20 年の記事
 - 93 昭和 21 年の記事
 - 94 昭和 22 年の記事
- 4 市町村合併の記録
 - 1 昭和 29・30・31 年の合併
 - (1) 郡山市の合併
 - 95 昭和 29・30 年郡山市の合併
 - (2) 安積郡の合併
 - 96 昭和 29 年永盛町と豊田村の合併記録
 - 67 昭和 30 年穂積村・三和村・安積町(一部)の合併記録
 - 98 昭和 30 年多田野村と河内村の合併記録
 - 99 昭和 29 年喜久田村と富田村(一部)の合併記録
 - 100 昭和 29 年富久山町と小泉村の合併記録
 - 101 昭和 29・30 年月形・中野・三代・福良・赤津各村の合併記録
 - 102 昭和 29 年熱海町と丸守村の合併記録
 - (3) 田村郡の合併
 - 103 昭和 29・30 年守山町・谷田川・高瀬・二海村の合

- 併記録
 - 104 昭和 31 年高野・逢隈・岩江村(一部)の合併記録
 - 105 昭和 31 年御館村と宮域村の合併記録
- 2 昭和 40 年の合併の経過
 - 106 昭和 34～38 年合併問題の胎動
 - 107 昭和 38～40 年合併の経過
 - 108 昭和 40 年郡山市・西田・中田村の合併
- 5 新産業都市への歩み
 - 109 昭和 28 年郡山工業都市計画書
 - 110 昭和 34 年郡山工業地帯立地調査
 - 111 昭和 34 年新産都市区域内の下請工場調
 - 112 昭和 43 年新産都市の住民への影響と世論調査
 - 113 昭和 47 年新産都市指定後の企業立地の状況
- 6 郡山市の現状と未来像
 - 114 昭和 45 年郡山市総合基本計画
 - 115 昭和 47 年郡山地方広域市町村圏
- [付表] 文化・災害年譜と市町村長・知事・郡長一覧
 - 文化・災害・年譜
 - 116 昭和 20～45 年郡山市音楽年譜
 - 117 大正元～昭和 47 年郡山市災害年譜
 - 市町村長・知事・郡長一覧
 - 118 明治 22 年市町村制施行後の市町村長名簿
 - 119 明治元～昭和 48 年歴代福島県知事名簿
 - 120 明治 12～大正 15 年歴代安積・田村郡長名簿
 - 121 大正 5～昭和 45 年郡山市所在官公署